

和仏法律学校講義録

下村, 宏

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-5

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

132

(発行年 / Year)

1901-08-16

明治三十四年八月十六日發行

(第貳部)

三十四年度乙種講習科用

和佛法律學校講義錄

第五號

財政學

法學士 下村 宏



0247

法學志林

第貳拾壹號

七月二十六日發行

本號ニ限リ定價金貳拾錢郵稅金壹錢五厘

○婦人ノ地位ノ改良、ルイブリデル講演野澤武之助口譯○La reforme de la condition des femmes.
Landry, B. 〇國際の優勝法ノ傾向、法學博士中村進午〇手形振出地ノ記載、辯護士佐々木茂三郎
〇家族制度ト個人制度ト得失、法學士五來欣造〇特別宥恕地ニ非様ノ列舉ニ付テ、法學博士岡
田朝太郎〇再ヒ手形ノ振出地ニ關スル新判例ニ就テ、法學博士梅謙次郎

○手形ノ迷見 手形損藏

請求次第返還スヘキ約束ノ質貸借ト民法第六一七條トノ關係、法學博士富井政章〇許可ノ性質及
ヒ效力、法學博士織田萬〇民法第一八四條ノ場合ニ於ケル代理ノ性質、法學博士仁井田益太郎〇
民法第四七一條ノ債權讓渡ノ方法、同前〇二人宛約束手形ヲ其一人カ裏書讓渡シタル場合、法學博
士富谷銈太郎〇巴ムヲ得タル事故ニ因リ民法第四六條第二項ノ登記ヲ遅延シタル場合ノ制裁、法學博
士富谷銈太郎

○三十五件 例

○新法博士〇現行租
同訴訟士員及
北支前消息

○新法博士〇現行租
同訴訟士員及
北支前消息

○新法博士〇現行租
同訴訟士員及
北支前消息

○新法博士〇現行租
同訴訟士員及
北支前消息

○新法博士〇現行租
同訴訟士員及
北支前消息

○新法博士〇現行租
同訴訟士員及
北支前消息

A5e
25
B5

發行所

東京市麹町區富士見町六丁目
電話番町二七四

司法省指定

和佛法律學校

剩アリトスルモ田地森林ノ類ハ此カ移轉融通ニ不便ナルヲ以テ一方ニハ巨額
ノ資ヲ投シテ此ヲ購入スル者甚タ稀ナルヘク一方ニハ其財産ノ巨多ニシテ且
ツ拂下ノ必要大ナルカ爲メ其拂下價格ハ必ス相當代價ヲ下ルコト著シカルヘ
ク加フルニ事實急速ノ需要ニ應スルニ難キヲ以テ又相對ニ不能ナルモノナリ
トス故ニ非常費支辨ノ方法トシテ理論上主張スル者無ク又現時實際ニ此方法
ヲ取ル者ナキニ至レリ

第二款 非常準備法

非常準備法トハ居常金銀其他ノ貨財ヲ蓄積シテ一朝非常ノ需要アルニ際シ之
ニ應スルノ準備法ニシテ信用經濟ノ行ハレサリシ時代國家觀念ノ未タ發達セ
サリシ時代換言スレハ租稅ノ徵收公債ノ募集ノ如キ仍ホ充分ニ行ハレサリシ
時代ニ在リテハ一朝有事ノ際非常準備法ノ設備ナキニ於テハ他ニ之ニ應スヘ
キ政策存セザリシヲ以テ其體様ニ於テハ時ト處ニ由リ多少其趣ヲ異ニスルア
ルモ何レモ皆斯法ノ精神ヲ取ラサルモノ無カリシモノノ如シ

財政學 收支適合論 臨時ノ不足ニ對スル救正方法



174398

按スルニ希臘時代ニ在リテハ亞典政府ハ波斯戰爭紀元前四百九十年トペロ
 ボチナス戰爭(紀元前四百四十六年)トノ間ニ一萬(タレント)ニ(タレント)ハ凡
 ソ一千一百八十圓餘ニ當ルヲ貯蓄シ波斯ニ於テモ(シラス)大王以後鉅萬ノ軍
 用金ヲ蓄積シ歷山大王波斯征討ノ際之ヲ略取シ爾後マセドニア(帝國ノ準備
 金ノ殘部ハ又羅馬ノ將軍ポロロス、エミリオス)ノ略取スル所ト爲レリ又羅馬
 時代ニ在リテハ(オウルム、ウイセシマリウム)ト稱シ奴隸ノ身受金ニ五分稅ヲ
 課シ其收入ハ屬邦ヨリ納ムル買金敵國ノ分捕品等ト併セテ(サトルン)ノ殿堂
 ニ蓄積シタリ其後オーグスツス(タイベリアス)ウエスパンアンノ諸帝又非常
 準備金ヲ貯蓄シタリ佛國ニ在リテモ(フランク)時代ミツタル(アルタル)ヲ通シ
 歷代ノ諸王非常準備金ヲ貯蓄シ普魯西ニ在リテハ(フリードリッヒ)ウキルヘル
 ム(八百七十萬ターレル)ヲ準備ヲ有シ(フリードリッヒ)二世ノ朝ニハ舉ケテ此
 ヲ盡シセシモ爾後此ヨリ巨額ノ準備ヲ見ルニ至レリ歴史家ノ說ニ據レハ六
 千乃至七千萬ターレルニ上リタリント云ヘリ東洋ニ在リテハ支那ハ歷代興
 亡盛衰常ナカリント共ニ常ニ非常準備法ノ存セシハ史乘ノ證スル所ナリ我

財政學 收支適合論 總論 臨時ノ不足ニ對スル救正方法

二四二

邦ニ在リテモ古代實物經濟時代ニ在リテハ政府ハ各種ノ官有財産ヲ以テ非
 常準備ニ充テ又大實令ノ頃ニハ別ニ義倉ノ制アリ一位以下百姓ニ至ルマテ
 上上戸ハ二石上ノ中戸ハ一石六斗等以下其間ヲ九等ニ別テ粟又ハ其他ノ穀
 類ヲ田租ト共ニ納メシメ貯藏シテ凶歉ノ患ニ備ヘシメタリ其費途ノ一定シ
 テ救恤行政ニ關聯スルモノナレトモ又非常準備法ノ精神ヲ取リシモノナリ
 降リテ豐臣秀吉カ巨額ノ金塊ヲ大坂城内ニ貯藏セシカ如キ徳川家康カ金法
 馬ト稱スル分銅形ノ金塊ヲ造リ一代毎ニ一箇宛後世ニ遺サシムルコトヲ遺
 訓セシカ如キ又非常準備法ヲ執レルモノト謂フヘキナリ
 然レトモ方今信用經濟ノ發達セル經濟界ニ在リテハ資本ノ融通ノ便益又古代
 ノ比ニ非サルヲ以テ殆ト非常準備法ヲ取ルノ必要ナク各國又此制ヲ採用スル
 處ナシ唯歐洲ニ在リテハ普魯西及ヒ丁抹ニ於テ猶ホ斯法ノ存スル在リ即チ普
 魯西ニ在リテハ(フリードリッヒ)ウキルヘルム)以後歷代ノ君主巨額ノ準備ヲ貯
 蓄シ一千八百七十年ノ役佛國ト戰フテ巨額ノ償金ヲ得ルヤ其五十億(フラン)ノ
 内一億五千萬(フラン)ヲ割キテ此準備金ニ繰込ミ一千八百七十六年ノ統計ニ據

財政學 收支適合論 總論 臨時ノ不足ニ對スル救正方法

二四三

レハ其總額一億一千一百萬弗ニ達シ而モ其內譯一千六百萬弗ハ外國ノ有價證券ヲ以テシ六千五百萬弗ハ自國ノ鐵道公債ヲ以テシ其ニ非常準備ノ目的ヲ達シ得ヘキモノ即チ正金トシテ保存スル額ハ三千萬弗ニ過キスト云フ先年予ノ記憶スル所ニ據レハ我政府モ日清戰爭ノ收容債金ノ殘額中費途ノ確定セサルモノ七千五百萬圓ヲ非常準備金トシ平時ハ以テ軍艦補充教育救恤等國費ノ一部ニ供シ一朝事變アレハ以テ戰爭準備金ニ充テシモノノ如シ隨テ本論ハ既ニ學說實際共ニ消極說ニ一致セルモ茲ニ少シク論述スル所アルヘシ

非常準備法ニ對スル消極說ノ大要ヲ述フレハ第一政治上ヨリ觀察スレハ常ニ施政者ノ專斷放恣ヲ誘導シ濫用浪費ノ弊ニ陥リ易ク非常ノ支出ヲ填補スルニ足ルヘキ準備金ノ存在ハ一方ニハ不急ノ事業ヲ起シ又ハ無謀ノ戰端ヲ開ク等不生產業ニ費消スルノ機會ヲ與フルコト多キハ普魯西其他ノ歴史ニ於テ證明スル所ニシテ國家ノ行政機關ヲシテ巨額ノ資金ヲ所有セシムルニ依リ政府ヲシテ國民ヨリ獨立セシメ國民ノ監督最モ必要ナル時機ニ於テ監督ノ效果ヲ減失セシムルモノナリトス第二財政上ヨリ觀察スレハ非常準備金ノ本旨ハ非

常ノ支出アルニ際シ直チニ此ヲ填補スルニ在ルヲ以テ正貨トシテ存スルニ非スシハ特ニ斯法ヲ設ケシ精神ヲ達スルコト克ハス故ニ收益ヲ計リテ此ヲ市場ニ投下スレハ一朝有事ノ際之ヲ政府ノ手ニ回收スルニ由ナク又有價證券トシテ存スレハ必要ノ場合ニハ又此ヲ市場ニ買却セシムルハアラス隨テ其價格ノ低落スルハ固ヨリ其手數煩勞時間ヲ浪費シテ徒ラニ經濟市場ヲ擾亂シ而モ斯法設定ノ目的ヲ達スル克ハサルモノトス若シ正貨トシテ倉庫ノ裡ニ貯藏セラレシカ徒ラニ活物ヲ死物ト爲スノ愚ヲ學ヒテ一方ニハ巨額ノ流動資本ヲ吸收スル結果トシテ金融ヲ逼迫シ產業ノ發達ヲ阻碍スル場合モ亦少カラサルヘシ

日耳曼ハ五年間ニ七億六千フランヲ不生產業ニ浪費セリ一方ニ巨額ノ有價證券ノ買收ハ其後ノ賣出ニ因リテ其下落ヲ醸シ物價ノ騰貴ヲ來シ又商業ノ紊亂ヲ來セリ若シ日耳曼政府カ正金ノ受取額ヲ戰爭費用ヲ償フヲ限度トシ其他ハ佛國ノ公債證書ヲ以テスレハ日耳曼ハ爲メニ市場ヲ擾亂スルコトナクシテ永ク敵國ノ膏血ヲ絞り佛國モ亦爲メニ財政整理ノ反動力ヲ挫折セ

シメシナラン千八百七十年ノ役ハ兵力ニ於テハ普ハ佛ニ勝テ財政ニ於テハ佛ハ普ニ勝テタリ云云(ボリーリユ氏財政學卷一第二章非常準備金ノ一節)

第三經濟上ヨリ觀察スレハ産業ノ進歩國力ノ増進ニ必要ナル資本ノ一部ヲ政府ノ手ニ吸收スルニヨリ經濟自然ノ發達ヲ阻碍シ物價ノ騰貴金融ノ逼迫ヲ來スノ通弊ニ陥ルヘキハ平時人民ヨリ賦課徵收ヲ準備金ヲ積立ル場合ニ於テハ殊ニ看易キ弊害ナリトス但シ非常準備法ニシテ償金其他臨時ノ收入ニ依ル場合ハ經濟上ノ弊害少カルヘク一國開戦ノ場合ノ如キハ其準備セル正金ヲ國內ニ消費スルコトハ國民經濟ノ活動ヲ保持スルカ爲メ却テ經濟界ニ裨益ヲ與フルモノニシテ産業上國民ノ蒙ルヘキ擾亂ヲ救済スルニ多少ノ效驗アルヘシ是レ臨時收入ニ依ル非常準備法ノ特徵ニ非サルモ此場合ニハ經濟界ニ必須ナル國內ノ流動資本ヲ吸收セルモノニ非サルカ故ニ其弊害無クシテ利益ノミヲ享有スルコトヲ得ヘキナリ

要之非常準備金ノ方法ハ財政上經濟上非難多キノミナラス政治上行政上事實濫費ニ終ルコト多シ換言スレハ非常準備法ハ其目的達セラルルモ弊害之ニ過

キ又其目的達セラルルコト少ナク償金等ノ臨時收入ニ對スル手段トシテハ非難スヘカラサルモ平時國民ヨリ賦課徵收スル收入ヲ以テ充ツルニ至リテハ何レノ方面ヨリ觀察スルモ絕對ニ是認スヘカラサル方法ト謂ハスンハアラス況ヤ現時特ニ此非難多キ方法ヲ執ランヨリモ他ニ奏效ノ確實ナル方法完備セルニ於テヤ即チ我邦ニ於テモ年或程度迄臨時急速ノ需要ニ應スル爲メ憲法第六十九條ヲ以テ

避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

ノ一條ヲ設ケテ明治二十二年法律第四號會計法第七條及ヒ第八條同年勅令第六十六號會計規則第二章第五款豫備金ノ支出ニ關スル九箇條ヲ以テ其手續ヲ規定シ一方ニハ凶荒不慮ノ災害ニ對スル非常準備策トシテハ明治十三年布告第三十一號ハ備荒儲蓄法ヲ制定シテ中央及ヒ府縣ノ儲蓄金制ヲ定メ猶ホ上述ノ手段ヲ以テ處理スルコトヲ得サル緊急ノ場合ハ憲法ハ第七十條第一項ニ公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府

ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

トノ明文ニ依リ以テ遺憾ナカラシム隨テ今日ニ於テハ非常準備金ニ依ル必要ナク又戰時等ニ在リテ之カ需要ヲ満足スルニ足ルヘキ巨額ノ經費ヲ正金ニテ貯藏センコトハ殆ト事實不能ニ屬スルモノト謂ハスンハアラス
終リニ臨ミ尙ホ一言スヘキハ非常準備金ヲ以テ公債ヲ買收スルトキハ内國債外國債何レヲ可ナリト爲スヤニ在リ「ボリユ」氏其他有力ナル財政學者ノ論スル所ニ據レハ多ク外國債ヲ以テ勝レリト爲スモノノ如シ今所論ノ大要ヲ述フレハ内國債ヲ購入スルトキハ其資本ヲ輸出スルノ憂ナク一國流動資本ノ額ヲ減少スルコトナシト雖モ元來此準備タル非常ノ支出ニ備フルモノナルヲ以テ非常ノ場合ハ當該國ノ公債下落スルコトハ當然ノコトナリトス若シ一方ニ外國債ヲ以テセハ一時資本ヲ外國ニ輸出スルノ不利アレトモ此準備ニ充ツル金額ハ歲入ノ殘餘又ハ不時ノ收入ヲ以テスルカ故ニ別ニ費途アルニ非ス隨テ之ヲ輸出スルモ甚シキ損害アリト謂フコトヲ得ス況ヤ其償却ニ因リテ其元金ヲ

回收スルニ於テラヤ加フルニ内國債ノ利子ハ政府歲入ノ中ニ編入スト雖モ是レ即チ國民ノ拂フ所ノ税金ナリ外國債ノ利子ニ至リテハ全ク外國ヨリ得ルモノナリ而シテ一朝事變アル場合ニ在リテモ外國債ハ敗北スヘシト思惟セラレタル敵國ノ公債ナルカ其他ノ特別ノ場合ノ外ハ爲メニ下落スルコトナシ云云ト云フニ在リ私見ヲ以テスレハ第一ニ非常準備金ヲ認メス第二之ヲ認ムルモ公債等ヲ以テ所持スルトキハ名ハ非常準備金ナリトスルモ實ハ其用ヲ充タス克ハサルモノナルヲ以テ此場合ハ非常準備ノ爲メ何レカ效果アルヤ否ヤノ問題ハ先ツ以テ論點外ニ置クヘキモノト信ス隨テ單ニ財政上ノ原則ヨリ最モ政府ニ利益アル方法ヲ取ルヲ以テ勝レリト爲スナリ隨テ本問ノ場合ノ如キ當時當該國ノ金融界ノ狀態財政界ノ形勢如何ニ由リ絕對ニ此ヲ論斷シ難キモ利子ノ高低ヲ標準トシ結局利益ノ大ナル方ヲ取ルヲ可トスルモノナリ故ニ今我邦等ニ在リテハ名ハ非常準備タランモ平時戰時東西同時ニ其目的ヲ達センコトハ事實不能ニ屬シ其額又些少ナルモノナレハ宜シク公債ヲ購入スヘク又其公債ハ我内國債ハ外國債ニ比シテ利子ノ大ナルノミナラス其計算移轉等手數ニ

於テ又内國債ヲ以テ便ト爲ヌヲ以テ宜シク内國債ヲ購入スルヲ以テ勝レリト
信ス非常準備ノ目的ニ副フヤ否ヤハ既ニ前提ニ於テ予ノ執ラサル所ナリ

第三款 租稅ノ増徴ト公債ノ募集

臨時費支辨ノ方法トシテ官有財産ノ拂下又ハ非常準備金ノ不可ナルコトハ上
述スル所ノ如シ而シテ租稅ノ新設又ハ増率ヲ可トスルカ或ハ公債ノ借入又ハ
募集ヲ可トスルヤニ至リテハ利害關係複雜シテ絶對ニ之カ是非ヲ論斷シ難キ
所アリ學說モ亦多岐ニ分レテ一定スル所アルヲ見ス今便宜ノ爲メ茲ニ併セ論
シテ其利害ヲ對照シ此カ大體ノ概念ヲ述ヘントス

公債ハ正宗ノ刀ナリ其銳利鐵ヲ斷ツニ足ルト共ニ其濫用ハ又甚シキ害毒ヲ醸
シ又其濫用ナルル機會少シト爲ササルナリ公債ノ弊害ハ公債其モノニ存セス
シテ之カ使用方法ノ誤マラレ易キニ在リ公債ノ募集ハ政府ノ浪費ヲ誘引シテ
行政ノ弛廢ヲ來スト曰ヒ租稅ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ公債ニ依ルハ政府好
シテ損失ヲ招クモノナリト曰ヒ公債ハ現世ノ人ノミ其利益ヲ享有セテ其苦

痛ヲ後世ノ人ニ貽スモノナリト曰ヒ公債ノ募集ハ却テ政府ノ信用ヲ失墜シテ
財政ヲ紊亂スルノ虞アリト曰ヒ租稅ハ公債ニ比シテ政府人民共ニ此カ勤勉節
儉ヲ獎勵スト曰ヒ屢々公債ヲ募集スルニ於テハ資本家ヲシテ偷安ノ氣ヲ生セシ
メ必要ナル事業ノ發達ヲ妨害スルノ憂アリト曰ヒ公債ハ一國流動資本ノ増加
ヲ障害シ不動資本ノ改良ヲ阻害スルノ弊アリト曰ヒ公債ハ戰爭ヲ誘導シ租稅
ハ戰爭ヲ制止スト曰ヒ公債ハ國民ノ財政監督ヲ軟弱ナラシムルモノナリト曰
ヒ公債ノ募集ハ物價ノ昂騰ヲ來タシ率テ恐慌ノ原由ヲ爲スモノナリト曰ヒ公
債ハ勞力者ノミヲシテ公費ヲ負擔セシムルモノナリト曰フ等此等ノ非難モ究
竟公債ノ使用方法ノ誤ラレ易シト云フニ歸一スルモノニシテ其使用方法ノ誤
ラレ易キハ一ニ其募集ノ容易ナルニ在リ收入ノ途容易ナルトキハ濫費ノ之ニ
伴フハ數ノ免レ難キ所ニシテ殊ニ政府ニ在リテハ負債ノ危險ハ一人ノ場合
ニ比シテ發生スルコト稀ニシテ又此カ救正手段ニ乏シカラサルヲ以テ不知不
識ノ間ニ弊害ヲ醸成セ管ニ租稅ニ依ルヘキ場合及ヒ租稅ニ依ルコトヲ得ヘキ
場合ニ公債ヲ以テスルノミナラス施政者ノ功名心不注意ハ不急無用ノ事業ヲ

企テ時ニ一國ノ生存ヲ危クスルコト少カラス是レ一方ニハ人民カ租税ノ場合ノ如ク其利害關係自己ニ直接ニ影響スル所ナク公債ヲ起ストキハ結局之カ償還ノ爲メ後來租税ノ負擔ヲ受クヘキモ眼前ノ利害關係ニ影響セサルヨリ之カ利害ヲ討究スルコト自ラ等閑ニ付シ易ク殊ニ應募者即チ社會ノ有力ナル一部分ヨリ觀レハ管ニ元金ノ償還ヲ受クルノミナラス尙ホ利子ヲ收得スルモノナルヲ以テ輿論ノ反抗ヲ招クコト尠ク寧ロ一部資本家ノ歡迎ヲ受クルモノナルヲ以テ政府ハ租税ノ徵收ニ由リテ支辨セラルヘキ經費モ平易ニ財政一時ノ彌縫ヲ公債募集ニ依ルノ傾向ヲ生シ易シ所謂ヒュームカ政府カ公債ノ募集權ヲ得ルハ猶ホ浪費者ニ倫敦ノ銀行ヨリ預金引出ノ權利ヲ與フルニ異ナラスト云ヘルモノ亦是ナリ

臨時ノ不足ノ性質ヲ分類スレハ其間ニ豫期スヘキモノト豫期スヘカラサルモノアリ天災地變殊ニ戰爭ノ如キハ其發生ノ豫期シ難キノミナラス其經費ノ總額モ亦豫期シ難キモノナリ土木等ノ爲メニ要スル費用即チ郵便電信鐵道築港運河其他軍備等ノ企業ニ在リテハ其發生其經費共ニ大體ニ於テ之ヲ豫期スルニ

難シト爲サス而シテ前者ハ其支出ノ絶對的ニ急速ナルコトヲ要スル場合多ク後者ハ其支出ノ相對的ニ急速ナルコトヲ要スル場合多シ即チ此等ノ工業ハ毎年經常費ノ定額内ニ於テ其經費ヲ支辨シ資金盡クルトキハ再ヒ資金ヲ生スル迄ハ工業ヲ中止シ得ヘキ性質ノモノニアラスシテ絶對ニ急速ナラサルヲ得サルニハ非サレトモ此等ノ生産事業等ハ速ニ竣功セスンハ一方ニハ其間投下セル資本ヲ死物ト爲シ一方ニハ富ノ増殖ヲ遲延セシムルノ虞アルヲ以テ急速ナルヲ必要ト爲スモノナリ殊ニ此等ノ事業ハ其利害關係一般ノ人民ニ通シテ緊切ナルモノニ非サルヲ以テ増税ハ管ニ急速ノ需要ヲ充ス能ハサルノミナラス一般人民ノ反抗ヲ招キ易キモノナリトス故ニ土木事業ノ經營ニハ公債ニ依ルコトヲ例ト爲スハ前述セル處ノ如シ

濠洲殖民地及ヒ印度ノ公債ノ如キ殆ト皆土木ノ爲メニ起セシモノニシテ歐米ニ於テ土木ノ爲メ公債ヲ起スモノ甚タ多シ其著名ナルモノニ至リテハ佛蘭西英吉利埃及等カ起セル蘇士運河公債ノ如キ佛蘭西ノ巴奈馬運河會社ノ株券ヲ保證セルカ如キ露西亞ノ西比利亞鐵道公債ノ如キ其例ナリ我國ニ

在リテモ明治十一年ニ發行セル起業公債明治十六年ニ發行セル中山道鐵道公債明治十九年ニ發行セル海軍公債明治二十九年ニ發行セル事業公債ノ如キ皆此類ニシテ其他地方ノ自治團體ニ於テ起セル地方公債ニ至リテハ其類各國ニ通シテ甚タ多シ

此等ノ事業ニ在リテモ一時ニ之ヲ起ストキハ忽チ流動資本ト固定資本ノ權衡ヲ失シ金融市場ニ激動ヲ來スハ自明ノ理ニシテ外國債ニ依ルトキハ急激ナル資本ノ潤澤ハ物價ノ暴騰投機事業ノ濫興ヲ來シ其反動トシテ金利ノ上騰物價ノ下落ト爲リ經濟界ヲ紊亂スヘク又内國債ニ依ルトキハ流動資本ヲ吸收シテ金融ノ逼迫ヲ來シ率テ恐慌ヲ來スニ至ルハ米國大洋鐵道ノ起業ニ徴スルモ言ヲ埃タル所ナリ一方ニハ急速ヲ要スルト共ニ一方ニハ之ニ對シ當時ノ經濟界ノ趨勢ニ鑑ミテ多少ノ斟酌ヲ加ヘスンハ非サルナリ

論者或ハ直接間接ニ政府カ土木事業ヲ經營スルコトヲ非難シ英國ノ實例ヲ引キテ根本ヨリ消極論ヲ主張スル者アリ是レ自由放任主義ニ偏セル所見ニシテ固ヨリ干渉ノ極民業ト相競争スルハ其弊害少カラスト爲スモ歷史上放任主義

ノ理論實際ニ行ハレ其富ノ大ニシテ其人民ノ進取ノ氣象ニ富メル英國ヲ以テ直チニ一般ヲ律スルハ其根本ニ於テ誤レルノミナラス英國ト雖モ地方政府ニ在リテハ其公債ノ大部ハ土木事業ノ經營ニ屬シ而モ年年多少ノ増加ヲ示シ二千八百六十七年ニハ五九八七〇〇〇磅ナリシモ一千八百七十四年ニハ八二〇一四九九磅ト爲レリ(アングロ、サキソン)八種モ印度濠洲加奈太喜望峯等ノ殖民地ニ在リテハ土木ノ公債ヲ起スヲ例ト爲セリ要之起業公債モ那翁三世ノ如ク不急無用ノ事業ニ濫費スレハ固ヨリ其害毒大ナルモ苟モ有用ナル事業ナルトキハ金融界ノ狀況ト其事業ノ性質必要ト對照シテ公債ノ募集ニ依ルヘク若シ租稅ニ依ルモ尙ホ害ナシトスレハ之ニ依ルヘキコト又言ヲ埃タルナリ唯概シテ其全部ヲ租稅ノ方法ノミニ依リテ支障ナキ場合カ事實ニ於テ多カラスト云フニ過キサルナリ

アダムス氏ハ巨額ノ臨時不足ヲ充スカ爲メ臨時ノ増稅ニヨルハ公債ニヨル濟前ノ方便ニ比シテ實ニ國民ヲシテ苛大ノ負擔ニ苦シマシムルノミナラス經濟界ヲ擾亂シ其臨時ノ増稅ニシテ重キニ失スルトキハ勢ヒ政府ノ徵收スル課稅

額ノ全部若クハ一部ハ更ニ國民ヲシテ私債ヲ起スノ必要ヲ生スルニ至ルヘク
 公債發行ノ場合ニ於テハ政府一人ニシテ債務者ト爲リ債權者ハ各自ノ財産所
 得ノ餘裕ニ伴ヒ資本ヲ供給スル幾千ノ資本家ナリ重税賦課ノ場合ニ於テハ債
 權者ハ政府一人ナルモ債務者ハ資本ノ一部ヲ割キテ政府ニ納付スル幾萬ノ生
 産者ナリ故ニ公債ト重税トノ利害ハ政府ト一人トハ何レカ低利ノ資本ヲ借
 入ルコトヲ得ヘキヤノ一點ニ歸著スヘシト所論少シク極論ニ奔ルノ嫌ナキニ
 アラサルモ亦此等臨時巨額ノ支出ヲ充スカ爲メ公債ノ便ニシテ且ツ利ナルハ
 詳論ヲ俟タサル所ナリ

豫期シ難キ臨時ノ支出即チ主トシテ軍事費ニ付テハ「アダム、スミス」「リカル
 ド」「デヤン、パブチスト、セイ」「ジョセフ、ガルニエー」「ジベシー」「コルベール」
 「ドストーレン」等ノ大家ニシテ猶ホ租税ニ依ルヘシト主張スル者アリ「アダム、スミ
 ス」氏ノ如キ其所論ハ經濟上財政上等ニ基因セスシテ道德上ノ觀念ヨリ立論シ
 戰爭等ノ時ニ當リ政府重税ヲ課シテ民心ヲ失フヲ恐レ較モスレハ公債ヲ募集
 シテ其費用ヲ助ケ後世子孫ヲシテ重税ヲ負擔セシムルカ如キハ顯ニ於テ爲ス

ハカヲ大國ノ人民ニシテ遙ニ戰地ニ遠カレル者ハ戰爭ノ災害ヲ被ラス却テ
 日其軍勢ノ勝報等ニ接シ快ヲ取ルモノニ似タリ故ニ重欲ヲ負擔スト雖モ決
 シテ不滿ノ念ヲ懷クモノニアラスト述ヘ又「グラッドストーン」「シカ」「クリミヤ」戰
 争ノ際主張セル論據ノ如キモ亦道德ノ觀念ニ基キ公債ヲ以テ事ヲ爲スハ眞ニ
 之ヲ爲スニアラス後世ヲシテ其局ヲ結ハシムルモノナリ而シテ戰爭ニハ多少
 ノ名譽之ニ伴フモノナレハ特ニ租税ノ重キヲ覺エタルトキハ戰爭ノ痛苦ヲ悟
 ラス動モスレハ國力ヲ濫用シテ干戈ヲ動カス憂アルヲ以テ殊ニ其重欲ヲ悟ラ
 シムルハ大ニ一國人民ノ勤勉慎重ノ念ヲ喚起スルモノナリト論セリ又「コルベ
 ール」氏ノ如キ財政上ヨリ公債ノ増加ハ一方ニ租税ノ増加ヲ遞増シ遂ニ停止ス
 ル所ヲ知ラサルニ至ルコトヲ論セリ此等ノ所論固ヨリ絕對ニ非難スヘカラザ
 ルモ非常ノ費用ヲ仕拂フニ當リテ租税ニ依ルヘカラサルハ事實問題トシテ絶
 對又ハ相對ニ不能ナルニ在リ「コルベール」氏ノ如キ「コルベール」氏ノ如キ
 急速ノ需要ヲ待テ軍事費ノ如キハ供給ノ機ヲ失スレハ延テ一國ノ生存ヲ消
 長スルニ至ルモノナリ隨テ若シ租税ニ依ルモノトセハ勢ヒ増税ニ依ラスシム

アラス然レトモ近時何レノ財政ニ於テモ經費ノ支出益多キヲ加ヘ平時ニ在リテ税率ヲ低度ニ止メテ非常ノ需要アルニ際シ之ニ應スルノ餘裕ヲ作ルコトハ殆ト稀ニシテ殊ニ直接稅等ハ納稅期一定セルヲ以テ之ヲ變更シテ増率シ一時ノ收入ヲ計ルコトハ容易ノ業ニ非ス又間接稅等ハ納稅期一定セザルヲ例ト爲スモ此等ノ租稅ハ戰時ノ如キ經濟界不振ノトキハ縱令稅率ヲ變更スルコト無キモ其收入ヲ減少シ此カ増率ヲ爲ストキハ益其收入ノ減少ヲ來スモノタルハ前ニ租稅屈伸力ノ節ニ於テ論述セル所ノ如シ況ヤ軍事費ノ如キ巨額ノ支出ヲ要スルモノニ在リテハ必スヤ新稅ニ依ラスンハアラス而シテ新稅ノ設置ハ政府爲メニ許多ノ手數ト費用ヲ要シ收入緩慢ニシテ急速ノ需要ニ應スル能ハス豫定額ノ收入ヲ期スルニ難ク若シ豫期ニ反スレハ財政破綻ノ緒ヲ開キ人民ノ感情ヲ害スルコト深クヤテ租稅ノ公正ヲ誤ルコト多カルヘク結局新稅ニ依ランコトハ絶對的不能ナリト斷言スルモ敢テ不可アルヲ見サルナリ故ニ若シ租稅ニ依ラントスレハ財源ヲ涸渴シ一般生産事業ヲ阻害セザル範圍内ニ於テ増率ノ法ニ依ラスンハアラス而シテ其時期ノ遲延ハ納稅期ノ一定セルモノニ於

テ殊ニ甚シキヲ見ルヲ以テ多クハ先ツ稅率ヲ増シ又ハ新稅ヲ起スヤ其實收ニ先シテ一時大藏省證券ヲ發行シテ急速ノ需要ニ應ジ租稅ノ收入ヲ以テ漸次之ヲ償却セル例アリ是レ英國カ「クリミア」戰爭ニ於テ實驗セシ方法ニシテ又少クトモ一時ノ方便トシテ公債ノ絶對的ニ必要ナルコトヲ反證スルモノナリ

合衆國ニ於テハ一千八百十二年ノ戰役ニ戰事費トシテ徵收セル直稅ハ當初二年間ハ收入ヲ生スルコト無ク一千八百十六年ニ於テ最高額ノ收入ヲ生シタルモ既ニ財政ノ窮況ヲ脱シタル時タリシナリ又南北戰爭ノ際ニ於ケル内國消費稅モ一千八百六十三年ノ下半年期ニ至ル迄ハ著シキ歳入ヲ生スルコト無ク一千八百六十五年四月一日前四箇年度ノ總收入額ハ三億一千四百萬弗ナリシカ其後四箇年度ノ總收入額ハ九億六千七百萬弗トナレリ是等ノ實例ハ共ニ新稅法ノ施行ハ財政上緊急ノ事變ニ際シ毫モ依ル、カラサル所以ヲ證スルニ餘アリトス

「クリミア」戰爭ニ於ケル英國財政ノ措置ハ非常支出ノ爲メ租稅ニ依リシ好箇ノ實例ニシテ又他ニ例ヲ見サル所ナリトス蓋シ當時ノ英國ハ四十年ノ太平ノ後

ヲ受ケ諸稅殊ニ間接稅ハ非常ノ減率ヲ經テ租稅ヲ增加セシト雖モ實ハ唯舊稅率ニ復セシニ過キサリシナリ而シテ「クリミア戰爭ハ輿論ノ歡迎ヲ受ケ殊ニ戰地ハ本國ヲ去ル八百海里ノ外ニ在リテ經濟界ハ爲メニ毫モ妨害ヲ受ケタルコトナク露土ト英トノ商業其利害關係痛切ナラス其經費ノ總額モ露佛ニ比シテ少ク其需要モ亦急速ヲ要セス而シテ其終局ハ勝利ニ了リシモノナルヲ以テ此ノ如キ機會ハ英國ニ於テ又稀有ニ屬スルモノニシテ他國ニ在リテハ又殆ト期スルコト克ハサルモノタリ而シテ此好機會ニ於テ仍ホ此租稅ニ依リテ之カ救正ヲ全クスルコト克ハス租稅論者「グラッドストーン氏ノ名聲勢力ト英國人民ノ富裕ナルニ拘ラス遂ニ永遠公債ニ依ルノ止ムヲ得サルニ至リシハ少クトモ此等ノ場合ニ於テ全ク租稅ノミニ依ルコトハ絕對ニ不能ナルコトヲ示スニ「アリト謂フヘキナリ即チ當初ハ間接稅直接稅殊ニ所得稅ヲ增加シタルモ其收入ノ遲延タルト之ヲ急ニ増加スレハ大ニ産業ノ發達ヲ阻害スルコトヲ見出セルヲ以テ一箇年以内ノ償還期限ヲ有スル大藏省證券ノ發行ニ依リシモ其證

券ノ應募者ノ少キト政府豫期ノ如ク之ヲ償還シ能ハサルヨリ遂ニ千八百五十四年更ニ同類ノ證券ノ期限三箇年乃至五箇年ノモノヲ發行スルコト前後四回ニ及ヘリ若シ此方法ニ依リテ豫期スル所ノ金額ヲ吸收シ尙ホ豫期ノ如ク整理ヲ完ウセンニハ租稅增加法ト國債募集法トノ長所ヲ併用シテ負擔ヲ後世ニ貽スコトナク又稀有ノ好果ヲ見ルヘカリシモ應募額ハ僅僅七百萬磅ニ止マリノ所要ヲ充タスコト遙ニ遠ク一方ニハ「グラッドストーン氏モ仍ホ所論ヲ一貫シテ重稅ヲ課スルコトヲ敢テスルコト克ハス一千八百五十五年四月遂ニ三分利附ヲ以テ一千六百萬磅ノ永遠公債ヲ募集スルノ止ムヲ得サルニ至リ同年又五百萬磅ヲ募集シ翌年ニ至リ更ニ五百萬磅ヲ募リ又大藏省證券三百萬磅ヲ永遠公債ニ借換フルニ至レリ故ニ「クリミア戰爭費總額六千九百二十七萬七千六百九十四磅中永遠公債ニ係ルモノ二千九百萬磅之ニ大藏省證券ヲ加フレハ總計三千九百七十一萬五千磅ニシテ其過半ハ實ニ公債ノ力ヲ假ルノ止ムヲ得サルニ至レリ蓋シ大藏省證券即チ短期公債ニ依ルコトハ外國ノ游金ヲ吸收スルニ足ラス内國人モ其手數ニ比シテ利益ノ割合少キヲ以テ之ニ應スル者少ナク又



大銀行ト雖モ巨大ノ額ヲ賣盡スコト克ハサルニ之ヲ購買シテ死物ト爲スノ愚ヲ學ハサルノミナラス又克ハサル所ニシテ殊ニ戰爭後三四箇年間ハ重稅ヲ課スヘキトキニアラスシテ却テ民力ヲ扶養スヘキトキナルヲ以テ暫ク据置キテ償却セサルヲ便トシ又租稅モ無限ニ此ヲ徵收スルコト克ハス通常費ヲ超ユルコト多キ非常費ヲ租稅ニ仰カンコトハ殆ト事實不能ト謂ハスシハ非ス地勢ニ於テ富ノ實力ニ於テ國民ノ品性ニ於テ英國ニ劣レル各國ニ於テ殊ニ然ルノミナラス戰敗レタル場合ノ如キ又言ヲ俟タサルナリ

論者或ハ公債募集ノ必要アル多クノ場合即チ戰時等ニ在リテハ人民皆危懼ノ念ヲ懷キ資本ハ多ク藏匿セラレ警戒ヲ加フル秋ナルヲ以テ資本ノ吸收ハ最モ困難ヲ極ムル所ナリトス故ニ募集ノ成效ヲ期セシカ爲メニハ種種ノ特典ヲ付與スルコトヲ要スルノミナラス一朝其誘引ニシテ仍ホ效ヲ奏セサルトキハ政府ノ信用失墜シテ第二期第三期ト募集ノ度ヲ重スルニ從ヒ其失態ノ復拾收スヘカラナルニ至ルモノナリ彼ノ千八百十二年及千八百六十一年ノ合衆國財政ノ狀況ノ如キ是ナリト反論スルコトアリ然レトモ編テ軍事費ヲ支出スル爲

メ政府カ公債ヲ募集シテ而モ其效ヲ奏セサル場合ハ多ク其政府カ戰爭ニ於テ敗北ニ歸スヘキコト一般ニ認メラレ又財政ノ信用既ニ業ニ動搖セル場合ニシテ近ク米國戰爭ニ於ケル西班牙政府ノ如キ狀態ニ臨メル時ニ在リ此等ノ秋ニ在リテ公債ノ奏效シ難ク率テ財政ノ破綻ヲ來タスヘキコトハ固ヨリ疑ナキ所ナレトモ此等ノ場合ニ於テ租稅ヲ以テセハ其失敗ノ大ナル更ニ公債ノ場合ニ倍蓰スルノミナラス其弊ノ及フ所亦獨リ財政ノ一面ニノミ限ラレサルコトヲ思ハスシハ非ス彼ノ普佛戰爭ノ時ノ如キ佛國ノ經費ノ總額ハ百十四億七千百萬法ニ上リ佛國財產總額ノ一割四分餘ニ當リ北米合衆國ノ南北戰爭ニ於ケルカ如キ千八百六十二年ニハ内國生産額ノ五分ノ一ニ當リ千八百六十五年ニハ二割七分ニ上レリ此等ノ場合ニ全然租稅ニ依ランコトハ收入ヲ得ルノ法ニアラスシテ收入ノ財源ヲ涸竭スルモノニシテ苛稅ノ重歛ハ公債ノ募集ニ對シ其困難復同日ノ論ニアラス如何トナレハ人民ノ財產ハ流動資本ノミヲ以テ積立ラルルモノニ非サルヲ以テ被稅者ハ直チニ之ニ應スルコト克ハス結局公債ノ元利ヲ支拂フヨリ幾倍セル高利ノ金員ヲ他ヨリ借入レサルヲ得サレハナリ

公債ノ募集ノ奏效ヲ必シ難キハ論者ノ言ノ如シ然レトモ租税ノ奏效ノ尙ホ難キヲ知ラスシハアラサルナリ然レドモ公債ハ窮極一時ニ處要ノ支出額ヲ充タサヌシテ濟崩ノ法ニ依リ之カ負擔ヲ後世ニ貽スモノナリ故ニ若シ急速ノ需要ニ對シ全部又ハ一部カ租税ニ依ルヲ便トシ又租税ニ依ルコトヲ得ヘキトキハ公債ヲ後ニシテ租税ヲ前ニスヘキコト又言ヲ埃タサルナリ此點ニ於テ失敗ノ歴史ヲ繰返セシハ佛蘭西トス第一次ニ佛蘭西ハクリミヤ戰爭ニ於テ千八百五十五年ニ一回翌年ニ二回ト前後三大公債ヲ募集シ其實收高ハ十五億三千八百二十四萬三千九百四十八法ニシテ其元金高ハ二十二億百五十萬六千八百八十法其利子七千七百七十萬九千四百法ヲ增加セリ勿論十五億餘法ヲ一兩年間ニ全然租税ニ依リテ徵收センコトハ不能ノ業ナルヘキモ戰爭ノ當初ニ在リテ増税又ハ新稅ヲ起シテ一割五分乃至二割ヲ增加スレハ少クトモ公債高ノ三分ノ一ハ此ヲ減少スルコトヲ得ヘカリシナリ

「ボリユト氏ノ說ニ依レハ郵便稅減少ノ禁止抽稅入市稅ノ復舊地租ノ附加稅

動產移轉稅ノ設定時期ヲ早クスル等ニ因リ二億九百萬法ヲ得ヘク之ヲ千八百五十八年マテ繼續シテ八億一千八百萬法ヲ得ヘク戰後其増稅ヲ不使トシ其幾分ヲ廢止シ凡ソ六億四千萬法ヲ保存セシトスレハ唯九億五千餘萬法ノ實額ヲ借入レ公債額面ヲ十五億法餘ニ増額シ(公債證書ノ發行高少ケレハ其價格比較的高カルヘキヲ以テ)利子モ年年四千八百法ニテ足レリトス云云

第二次ニ伊太利戰爭ニハ又實收額五億千六百六十六萬七千八百七十八法ヲ借入レ公債ノ額面ハ八億五千五百七十三萬七千七百七十七法ニシテ利子ノ支拂額ハ二千五百七十七萬三千三百七十法ヲ增加セリ此場合モ舊稅ノ復舊及ヒ二三ノ附加稅ニ依リテ二億乃至二億五千萬法ノ公債ニテ此カ費用ヲ辨償スルコトヲ得タルモノナリ其後佛蘭西政府ハ千八百六十二年同六十四年同六十八年ニ三回公債ヲ募集シ其實收額ハ十三億三千萬法餘ニシテ額面價格ハ十五億二千八百萬法餘其利子四千五百八十五萬六千七百七十四法ナリ而シテ一方ニハクミリヤ戰爭後各種ノ租稅ヲ廢止又ハ減率シ千八百四十八年ヨリ同六十五年マテノ増減ヲ見ルニ減少ニ係ルモノ三億三千七百四十四萬九千九百九十九法増加ニ係ルモノ

ノ三億二千八百五十四萬四千九百十法ニシテ減少ノ多キコト八百餘萬法ナルニ反シ同期間内ニ政府ノ借入高ハ實收額三十五億餘法ニ上レリ故ニ此十七年間此増減ノ間ニ調和ヲ求ムレハ公債ノ半ハ之ヲ減少スルコトヲ得シヤ疑ヲ容レサルナリ蓋シ公債ヲ起スノ急アルニ際セハ有害ニシテ措クヘカラサル惡税ニアラサル限リハ暫ク之ヲ保存シ後世公債ノ元利支拂ノ負擔ヲ減少スルコト最モ必要ノ方便ト謂ハスンハアラサルナリ

尙ホ租稅論者中ラツロー、フヒリ、ボト、如キ極端ナル非常稅論ヲ主張スル者アレトモ事實全ク不能ノ空論タルヲ以テ又此ニ論述スルノ要ヲ見ス

之ヲ要スルニ臨時費ノ支出カ豫期シ難キモノタルト否トヲ論セス公債ノ募集ハ一國ノ財政上止ムヲ得サル方法ニシテ且ツ租稅ニ比シテ便ナリトスル方法ナリ唯其效果ノ著シキ丈ニ濫用ノ弊生シ易ク其害毒亦甚タ大ナルヲ以テ能ク時ト場合ニ從ヒ慎重ナル攻究ヲ要スルコト言フ埃タス隨テ一朝非常ノ需要アルニ際シテハ事實問題トシテハ常ニ絕對ニ國債又ハ租稅ノ方法ニ依ルコトヲ避ケ兩兩相待チテ能ク其調和ヲ計リ以テ財政ノ整理ヲ期セスンハアラサル

ナリ

予ハ收支適合論ノ總論トシテ國家カ財政上臨時ノ支出ヲ要シ又之ヲ填補スル方法トシテ官有財産ノ拂下非常準備法、租稅ノ新設又ハ増率及ヒ公債ノ借入又ハ募集ヲ列舉シ逐次其概念ヲ叙述シタリ而シテ今ヤ各國ノ財政ヲ通シテ公債ノ方便ヲ採ラサルハナシ而シテ前二者ハ今日ニ於テハ收支適合ノ方法トシテ殆ト認メラルルコトナキニ至リ租稅ハ其主タル效果ヲ有スル經常收入論ニ於テ既ニ攻究セラレタレハ是ヨリ收支適合ノ方法トシテ首要ナル公債其モノニ付キ此カ概念ヲ講述スル所アルヘシ

第二章 公債ノ觀念

第一節 公債發達ノ順序

第一款 緒論

公債ハ貸財ニ關スル社會現象ノ一タルヲ以テ其發達ハ又常ニ社會ノ變遷ニ隨伴スヘキコト自明ノ理ニ屬ス而シテ社會ノ變遷ハ政治ニ法律ニ經濟ニ總テ備

綜紛糾ヲ極ムルカ故ニ公債ニ於テモ此カ沿革發達ニ至リテハ固ヨリ精確ヲ期スルコト能ハス今公債ノ起源發達ヲ通觀スルニ所謂經濟上ニ於テ實物經濟時代ト謂ヒ漁獵時代ト謂ヒ牧畜時代ト謂ヒ自然時代ト謂ヘル當時ニ在リテハ信用ノ觀念未タ發達セス公債ノ制亦之ヲ見ルコトヲ得ナリシモ農業時代勞力時代貨幣經濟時代ニ變遷シ來ルニ從ヒ漸次其發生ヲ來レ彼ノ公私混淆セル公債特代人ニ對スル公債短期公債擔保附公債ヲ見ルニ至レリ而シテ信用經濟時代商工業時代資本時代換言スレハ現時文化ノ發達セル諸國ニ於テハ公債ハ一層急激ナル發達ヲ來シ無擔保ノ國際的永久ノ公債ヲ見ルニ至レリ公債ノ發達ハ各國ノ文化ノ異同ニ隨伴スルモノナルカ故ニ固ヨリ時代ヲ以テ絕對ノ標準ト爲スコト能ハサルモ今公債ノ債務關係ノ當事者及ヒ體様ヲ標準トシテ公債發達ノ順序ヲ説述スヘシ

第二款 債務關係ノ當事者ヲ標準トスル場合

第一 債務者ヲ標準トシテ觀察スレハ元首其他主權ヲ把持スル者カ各自一私

人トシテ起債スルト國家ヲ代表シテ起債スルノ別アリ換言スレハ主權者自體カ債務者タル場合ト國家カ債務者タル場合ノ別アリ勿論前者ノ場合ト雖モ主權者ハ其債務辨濟ノ資ニ供センカ爲メ其主權ヲ行使シテ國民ヨリ賦課徵收スルヲ以テ例ト爲スカ故ニ結局國民全般カ債務ヲ負擔スルコトト爲ルヘキモ正面ヨリ觀察スレハ其債務ノ發生及ヒ消滅ニ付キ國民カ豫メ之ヲ承認スルト否トノ別ヲ存スルモノトス

事實國務ノ費途ニ供セラレタル債務カ必スシモ公債ト謂フヘカラサルト共ニ主權者カ起債セル債務モ亦必スシモ私債ト謂フヘカラス古來元首カ起債セシ例甚タ多ク而モ其大部ハ單ニ元首自體ノ需要ヲ充タスニ過キスシテ純然タル私債ト見ルヘキモノ多キモ軍事費トシテ起債セル場合ノ如キ縱令元首一箇ノ意見ニ依リテ企テラルルモ仍ホ其國民ヲ保護シ其領土ヲ擴張シ其國威ヲ發揚スル等公共的ノ性質ヲ帶フルモノニシテ公債タルヲ妨ケサルヘノアリ國家ノ觀念發達シ公私ノ別明カナルニ隨ヒ國務ノ費途ニ供セラルヘキ債務ハ元首自體ノ私債ト其間ニ盡然タル區別ヲ生スルニ至リ公債ノ大部

ハ國民ヲ代表スル議會ノ協贊ヲ經由シ所謂真正ナル公債ハ立憲國ニ於テ始メテ之ヲ見ルヲ得ヘシト云フニ至レリ故ニ債務者ヲ標準トスル場合ニハ債務者カ單一箇人トシテ起債シ公私ノ別明カナラザリシ時代ト債務者ハ國民全體ヲ代表シテ起債シ公私ノ別明カニ爲リシ時代トニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

第二 債權者ヲ標準トシテ觀察スレハ債權者カ特定人タル場合ト不特定人タル場合ニ分類スルコトヲ得ヘシ數世紀前マテハ公債ハ常ニ特定人ニ對シテ借入レラレシモノニシテ我邦維新前諸侯ノ起債セルト其趣ヲ一ニシ殊ニ伊太利獨逸等ノ諸國ニ在リテハ都市ヨリ借入レタル場合甚タ多シ所謂公債借入ノ時代ニシテ當時租稅又ハ官有財產等ノ物上擔保ヲ附スルヲ例ト爲セシニ拘ラス特定人ヨリ借入レシハ信用ノ發達幼稚ナルコトヲ證スルモノニシテ近時一方ニハ國家ノ信用遞増シテ國債ノ真相一般ノ認ムル所ト爲リ一方ニハ之ニ應スヘキ資本ノ増殖又著シク増加セシヲ以テ起債者ハ特定人ヲ指定シテ格別ニ妥協スルノ要ヲ見ス政府ハ其契約ノ條件ヲ豫定シテ廣ク之ヲ

世人ニ公示シ經濟界ノ自由競争場裡ニ放任シテ需要供給ノ原則ニ從ヒ各個人ノ利己心ニ訴フルヲ以テ足レリト爲スニ至レリ即チ從來先ツ當事者ヲ定メテ後契約ノ條件ヲ定ムルニ反シ契約ノ條件ヲ豫定シテ當事者ノ如何ヲ皆ミサルニ至レリ其後不特定人ニ對シテ起債スル場合即チ公債募集ノ場合ニモ當初ニ在リテハ自國民ニ限ルコトヲ例ト爲シ所謂外國債ノ募集ハ經濟上非議スヘキモノナルノミナラス政治上絕對ニ認許スヘカラサルモノトシテ理論實際共ニ容レララルルコトナカリシモ文化ノ發達ニ伴ヒ外國債ノ必スシモ忌ムヘキモノニアラサルコト一般ニ公認セラレ領土内ノ外人ノミナラス領土外ノ外人ニ對シテモ汎ク募集セラルルニ至リタリ蓋シ公債ヲ一般人民ヨリ募集スルコトヲ得ルニ至ルハ同時ニ其國費ノ舊來ニ比シテ著シク遞増セルコトヲ示シ又之ニ應スヘキ資金ノ豊富ナルコトヲ示スモノナリ故ニ公債ノ額ハ少クトモ其數字ノ上ニ於テ巨大ノ増加ヲ示シ一人ニシテ又之ニ應シ得ヘキモノナキニシモアラサレトモ一局部ヨリ巨額ノ資金ヲ移轉センコトハ經濟上喜フヘキ現象ニアラサルノミナラス又一二人ノ人カ巨額ノ債務

關係ニ干與スルコトハ政治上ノ弊害ヲ醸成シ易ク一般ノ人民殊ニ各種ノ階級ニ通シテ應募ノ區域ヲ擴充スルコトハ社會問題トシテ寧ロ政府カ進ミテ取ルヘキ方策タリ現時公債募集ノ條件中其拂込時期ノ度數及ヒ其期間一時拂込額ノ多少ニ付キ大ニ斟酌ヲ加フルモノ亦此原由ニ因ルモノナリ故ニ債權者ヲ標準トスル場合ニハ特定人ニ依ル時代ト不特定人ニ依ル時代ニ別ツコトヲ得ヘク之ヲ其債權者ノ國籍ヨリ觀テ内國債時代外國債時代ニ分類シ又其債權者ニ對スル起債ノ方法ニ依リ國債借入時代ト國債募集時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

第三款 債務關係ノ體様ヲ標準トスル場合

第一 償還時期ノ長短ヲ標準トシテ觀察スレハ一時若クハ短期ノ場合ト永久又ハ長期ノ場合トアリ即チ往時信用幼稚ナリシ時代ニ在リテハ短期ニアラスンハ起債ノ目的ヲ達スルコト克ハサリシモ政府ノ信用遞増シ信用經濟發達スルニ隨ヒ償還期限ノ延長ハ却テ當事者雙方ノ希望スル所ト爲リ近時發

達セシ國ニ在リテハ無期ノ公債ヲ認ムルニ至レリ故ニ償還期限ノ長短ヲ標準トスル場合ニハ短期又ハ流動公債時代ト長期又ハ確定公債時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

第二 擔保ノ有無ヲ標準トシテ觀察スレハ擔保ヲ附スル場合ト擔保ヲ附セザル場合トアリ往時政府ノ信用幼稚ナリシ時代ニ在リテハ擔保ヲ以テ債務成立ノ常素トセシハ固ヨリ自然ノ理ニシテ或ハ租稅其他ノ財源ヲ以テシ或ハ官有財産ヲ以テシ時ニハ他國ノ保證ニ依リテ對人擔保ヲ附セシ場合アリ然レトモ現時ニ在リテハ財政紊亂セル特種ノ國ヲ除キテハ皆無擔保ヲ例ト爲スニ至レリ故ニ擔保ノ有無ヲ標準トスル場合ニハ擔保附時代ト無擔保時代ニ分類スルコトヲ得ヘキナリ

此他或ハ利子ノ有無證書記名ノ有無花札ノ有無課稅物件ト爲スト否ト強制募集ノ性質ヲ有スルト否ト生産的ナルト不産的ナルト財政上行政上ノ公債ヲ認ムルト否ト等ニ由リ又幾種ノ分類ヲ爲スコトヲ得ヘキモ徒ニ枝葉ニ涉ルノ嫌ナキニアラサルヲ以テ之ヲ省畧ス

第二節 公債發達ノ歴史

第一款 公債ノ發生時期

公債ノ發生時期トハ上古ニ於ケル所謂公私混淆セル時代ニシテ君主諸侯ハ先ツ特定人ヲ指定シテ金額擔保期間利子等ノ條件ヲ協定シ借用證書ヲ交付セシハ前述スル所ノ如シ然レトモ固ヨリ人民ノ權利義務カ未タ充分ニ保障セラレタル時代ナリシヲ以テ附隨條件ノ變更ハ固ヨリ償還ノ義務スラ之ヲ全ウセザリシト其例多ク我國徳川家時代ノ如キモ所謂御用金トシテ無擔保ヲ以テ借入レ時ニ償還ノ義務ヲ果テサリシ者亦之ナキニアラス然レトモ原則トシテ常ニ諸侯ハ大坂ノ金主ヨリ米麥等ノ物品ヲ抵當トシテ借入レシモノニシテ其詳細ハ後ニ再述スル所アルヘシ(國家學會雜誌第三百三十七號末松博士ノ封建時代ノ財政參照)

第一期ノ末葉ニ當リテ國債ト性質ヲ異ニセル今日ノ地方債ト見ルヘキモノ又發生セリ彼ノ「マートク」即チ市場ハ紀元第九世紀頃ヨリ漸次永久ニ開設セララル

ヲ例ト爲スニ至リ封建制度カ兵器ノ改良交通ノ發達等ニ由リ漸次其衰兆ヲ現ハシ地主ノ權力ハ漸次商業家ノ手ニ遷リ來ルヤ舊時ノ「マートク」ハ「フライ、スタツト」即チ自由都市トシテ漸次諸侯ノ羈絆ヲ脱シ伊太利ノ諸市來因河沿岸ノ都府ハ遂ニ純然タル獨立ノ團體トシテ相割據スルニ至レリ此等ノ都市ハ當初貸財ヲ貢獻シテ自治ノ權ヲ購ヒ尙ホ時時王侯ヨリ多額ノ貢獻ヲ強制セラレ一時ノ急ニ應スル爲メ都市自ラ起債セシコトアルモ後純然タル獨立市ト爲ルニ至リテハ都市ノ費途ニ充テシカ爲メ又屢起債セリ或意味ニ於テハ今日ノ地方債ノ權輿ヲ爲スモノニシテ獨逸ニ於ケル自由市ノ市債ハ獨逸ノ統一ト共ニ多ク國債ニ變形シタリ而シテ其諸侯ニ屬スル負債ノ近時中央集權ノ實舉ルト共ニ國王ノ負債即チ國債ト變セシモノ其例甚ク多ク我邦ニ於テモ維新ノ改革ト共ニ明治六年三月第百十五號布告ヲ以テ新舊公債證書發行條例ヲ制定シ明治五年申年マテノ間從來舊藩藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ通債ヲ改メテ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ニハ公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐フテ之ヲ償却スルコトト爲レリ此法ハ明治八年五月第九十五號布告ヲ以テ改正セラレ弘化元年

辰年ヨリ慶應三丁卯年マテ諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治
戊辰年大政更始以後明治四辛未年七月廢藩マテ及ヒ明治五壬申年マテノ間諸
藩ニ於テ借用シタルモノヲ新公債トシ舊公債ハ無利息五十八年賦新公債ハ
四分利附二十二箇年賦トシテ之ヲ償却スルコトト爲セリ

第二款 公債變遷ノ時期

公債變遷ノ時期トハ耶蘇紀元十六世紀ヨリ第十九世紀ノ初期ニ至ル間ヲ指ス
モノニシテ公債カ王侯ノ公私ヲ混淆セシ古代ヨリ現時ニ至ル變遷時期トス此時
代ニ至リテハ君主私債ノ觀念除却サレ一方ニハ貨幣經濟ノ發達ヲ來セシヲ以
テ一般ノ信用遞増シ管理ノ方法モ序ヲ遂フテ定マリ確定公債無擔保公債等認
メラルルニ至レリ然レトモ前世紀ニ至ルマテ純然タル公債ノ募集ヲ實行セシ
ハ英吉利和蘭等數箇國ニ過キス佛蘭西ノ如キハ路易十四世ハ一世ヲ軍事ト奢
侈ニ盡セシヲ以テ佛蘭西革命ハ同時ニ財政上ノ革命ヲ示シ若シク公債ヲ遞増
セシモ皆流動國債ニ屬スルモノナリキ露西亞モ亦カザリン二世以後國費常ニ

和債ハ中央銀行ノ借入ヲ以テ一時ヲ塗抹シ今世紀ノ初ニ至リ始メテ確定公
債ト爲ルニ至リ一方ニハ公債委員ハ內在來ノ公債ノ整理外外國市場ニ起債ノ
衝ニ當リ今世紀ノ三十年ニコラス第一世ノ時ニ至リ漸ク全般整理ノ緒ニ就ク
ニ至レリ英國ニ至リテハ其第二期ノ歴史ハ正ニ第三期ノ發達ヲ見ルモノナル
ヲ以テ次ニ併述スル所アルヘシ

第三款 公債發達ノ時期

公債發達ノ時期トハ主トシテ第十九世紀ノ後半ヲ指スモノニシテ此時期ニ於
ケル發達セル公債ハ其起債及ヒ償還ニ付キ國民カ豫メ承認ヲ與フルモノナル
コトハ前述スル所ノ如シ即チ流動公債ノ如ク短期ニシテ其額亦比較的僅少ナ
ルモノニアラサル公債ハ單ニ大藏大臣ヲシテ自己ノ責任ヲ以テ自由裁量ノ餘
地ヲ存セシムヘキモノニアラサルヲ以テ今世紀ノ初ヨリ國家ノ觀念ノ變遷ニ
伴ヒ法律思想亦一變シ此起債及ヒ償還ハ之ヲ全然行政官ノ手ニ放任セス立法
部ノ監督ヲ要スルコトト爲レリ

講述ノ序次トシテ一言ヲ費スヘキハ我憲法ト國債ノ關係ナリトス蓋シ國債ノ募集及ヒ償還ハ彼ノ租税ノ新設又ハ増率ノ如ク公法上ノ關係ニアラスシテ純然タル私法上ノ法律行為ナリ單ニ一ノ行政行為ナリ隨テ法理上毫モ法律ヲ以テ規定スルノ要ヲ見ルコトナシ我憲法第六十二條第一項ハ一方ニ新ニ租税ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシト規定セルニ拘ラス同條第三項ニ於テ

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

ト言ヒテ法律ヲ以テスヘシト言ハサルハ即チ之カ爲メナリ隨テ今日マテノ實例ニ於テ常ニ法律ニ依ルハ憲法當然ノ結果ニアラサルト共ニ又國債ノ性質ニ於テ毫モ爲メニ變易セラルル所ナキハ言フ埃タス國債ノ募集ニ付テハ唯議會ノ協贊ヲ經ルヲ以テ足レリトス隨テ公安ヲ保持スル爲メ緊急ノ需要アル場合ハ憲法第七十條ニ依リ此制限ヲモ踰越スルコトヲ得ヘシ日清事件ニ於ケル軍事公債ノ如キハ即チ第七十條ニ依ル財政上必要ノ處分トシテ議

會閉會中募集セラレシモノナリ國債ノ募集又ハ償還ニ付キ法律ヲ以テ規定スルハ單ニ國債ノ募集又ハ償還ナル私法行為ヲ爲スコトヲ政府ニ委任セルコトヲ表ハスニ過キス唯其同時ニ規定セル契約ノ豫定條件等ニ於テ法律ニ依ルノ結果トシテ普通ノ私法ト異ナル規程ヲ設定スルコトヲ得ヘキハ復タ言フ埃タサル所ナリトス

上述スルカ如ク國債ノ募集又ハ償還ニ付テハ必スシモ租税等ノ公法上ノ行為ト異ナリテ立法事項ト爲スコトヲ要セサルモ其金額ノ巨大ニシテ且ツ其期限モ長期ニ屬スルモノハ政府ノ財政上率テハ一國ノ經濟國民ノ負擔ニ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ議會ノ協贊ヲ經ヘキモノトセリ即チ國債其モノノ眞相カ形式上ニ於テモ明カニ認知セラルル所以ニシテ一方ニハ國債ノ濫用ヲ防遏スルト共ニ一方ニハ國債其モノノ信用ヲ著シク擴充セラレタルモノト謂フヘキナリ

英國ハ前世紀ヨリ既ニ公債ニ付キ十分ノ發達ヲ示セリ「ワレンヂ」公「ウキリヤム」カ「スチユワール」朝ノ餘弊ヲ承ケテ財政困厄ノ機ニ際スルヤ公債ノ募集

ニ付キ之ヲ議會ニ提出シテ其承諾ヲ求メ爾後常ニ一國債ヲ起ス毎ニ法律ヲ以テ其手續ヲ定メ伸縮力ノ大ナル所得稅ヲ以テ此カ償還ノ擔保ニ充テ時宜ニ應シテ之ヲ増減シ其募集ノ手續事務ノ取扱等ハ一英國銀行ニ委任シタリ其詳細ハ別ニ公債募集ノ章ニ於テ述フル所アルヘシ又其償還ノ方法ニ付テハ所謂減債基金法ヲ取ルモノニシテ其可否如何ハ又別ニ公債償還ノ章ニ讓ルヘシ之ヲ要スルニ英國ハ公債ノ歴史ニ於テハ最早ク發達セル國ニシテ所謂立憲國ニ於テ始メテ見ルコトヲ得ヘキ真ノ公債ハ其權與ヲ英國ニ發セリ而シテ實際ニ於テモ英國ノ公債ノ歴史ハ其減債基金法ニ依ル等ノ爲メ多少ノ非難ヲ受ケサルニ非サルモ歐洲列國ニ於テ好況ヲ呈スルモノニシテ千八百二十年頃ハ其利子支拂額三千二百五十萬磅ニ上リ國費總額ノ五分ノ三ヲ占メシモ千八百五十二年ニハ遙ニ下リテ二千八百萬磅ト爲リ千八百八十六年ニ至リテハ二千二百萬磅ト爲リ國費總額ノ三分ノ一ヨリ四分ノ一ノ間ニ下ルニ至リ其公債總額ノ如キモ千八百八十年ニハ三十六億弗ニ近カリシモ千八百九十年ニハ三十三億弗餘ニ減スルニ至レリ

佛蘭西ノ公債ニ對スル政策ノ概要ハ租稅ト公債ノ一節ニ於テ前述セルカ如シ殊ニ普佛戰爭後九十億フランクノ募集ヲ爲セシヨリ公債ノ額ハ次第ニ増加シ千八百八十年ニ四十二億餘弗ナリシモ千八百九十年ニハ四十四億八千萬弗ニ上リ其利子支拂額ハ千八百二十年ニハ一億四千八百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ七億九千萬馬克ニ増加セリ公債負擔ノ分頭額ニ於テモ其總額ト等シク列國中第一位ヲ占ム然レトモ是レ單ニ財政上ノ措置ノ誤レルノミナラス政治上ノ原因多キヲ占ムルヲ以テ絕對ニ非議ヲ容ルヘカラサルカ如シ且ツ其公債ノ募集ニ付テ大ニ國民的觀念ヲ交ヘ成ルヘク其一時拂込額拂込期限等ヲ斟酌シテ總テノ階級ニ通シテ應募ノ便ヲ計リ中産以下ノ者ヲシテ貯蓄ノ觀念ヲ養成セシメ大ニ社會問題ノ融和ヲ圖ルハ喜フヘキ趨勢ニシテ我邦ノ如キモ亦此主義ヲ執ルモノノ如シ唯今日佛蘭西ノ公債力既ニ其總額ニ於テ又分頭額ニ於テ第一位ヲ占メ今後尙ホ増加シテ止マサルハ慨嘆スヘキ事ナルト共ニ之ヲ伊太利埃太利露西亞等ニ比シ尙ホ幾層ノ好望ヲ繫クヘキ理由ノ存スルアリ一ハ其國民的募集方法ヲ實行スルコトヲ得テ未タ埃露ノ如ク內國ニ於テ殆ト

募集ノ實ヲ舉クルコトヲ得サルコトヲ得サル如キ窮境ニ陥ラサルコトナリ一ハ將來私設鐵道ノ漸次國家ノ所有ニ歸屬スルニ因リ其官業收入ニ依リ著シク公債額ヲ削減スルコトヲ得ヘキコト是ナリ其好實例ハ次ニ掲クル普瀾西ノ公債ニ於テ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ

普瀾西ノ公債ハ英國ト並立シテ最モ好況ヲ呈スルモノナリ即チ千八百四十八年ニハ其公債總額一億五千八百五十萬ターレルニシテ歐洲列國ニ比シ其額僅少ナルモノナリレモ一千八百六十六年ニ至リテ二億九千萬ターレルニ増加セリ然レトモ此増加ノ比例ハ他國ニ比シテ小ナルノミナラス其増加額一億三千百五十萬ターレル中一億二千四百三十三萬ターレルマテハ官設鐵道ノ敷設ト私設鐵道ノ買上ニ支辨セラレタルモノナリ蓋シ普瀾西公債ノ募集上他國ト異ナルハ國有財産ヲ以テ抵當ニ充ツルニ在リ其國有山林田地並ニ鐵道ノ收入ハ國庫ノ收入ノ三分ノ一ヲ占メ優ニ公債ノ利子支拂元金償還ノ支途ニ充テテ餘アルニ至レリ其統計ノ概表ハ次ノ如シ

年次 人口 公債額 利子支拂額 純國有鐵道ノ

一八八一	百萬	一九九五	百萬馬克	一四一九
一八八二	二七三	一〇七六	百萬馬克	二〇一七
一八八六	二八三	四〇七三	百萬馬克	二七八六
一八八七	二九三	一六二一	百萬馬克	
一八八九	二九三	四四五七	百萬馬克	
一八九〇	二九三	一六五六	百萬馬克	

上述ノ如キ好景ヲ呈スルヲ以テ獨逸ノ公債ハ三分半ノ利附ニテ平價ヲ維持セ

リ
奧太利ノ公債ハ紙幣公債、銀貨公債、金貨公債等ノ諸種ヨリ成リ貨幣ノ價格區區ナルヨリ公債ノ募集モ貨幣ノ種類ニ依リテ自ラ其間ニ異同ヲ生シ今日ニ於テハ五分利附ニテ猶ホ平價ヲ持スルコト能ハス其公債モ千八百八十年ニハ十二億二千餘萬弗ナリシモ千八百九十年ニハ二十八億六十餘萬弗ニ増加シ千八百二十年ノ利子支拂額ハ三千百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ三億九千五百萬馬克ニ遞増セリ

露西亞モ亦前述スルカ如ク正金公債、紙幣公債アリ紙幣ノ價格ハ漸次下落シ今日ハ公債委員ノ制ヲ設ケ外國債ニ依リテ漸ク財政一時ノ整理ヲ濟スモノノ如

シ其公債額モ千八百八十年ニハ三十三億餘萬弗ナリシモ千八百九十年ニハ三十五億弗ニ近ツキ其利子支拂額ノ如キモ千八百二十年ニハ二千三百萬馬克ナリシモ千八百八十二年ニハ六億四千萬馬克ニ遞増スルニ至レリ其不換紙幣發行ニ基ケル財政ノ非況ハ奧佛伊諸國ノ實例ト共ニ公債分類ノ章ニ於テ述フル所アルヘシ

以上講述スル所ニ據リ公債ノ發達ニ對スル沿革變遷ノ梗概ヲ示セリ即チ公債ハ實ニ前世紀ノ末葉ニ始マリ今世紀ニ於テ著シク發達ヲ見即チ千八百二十年ニ在リテハ歐洲列國ノ公債ノ利子ニ支拂フ所十一億二千五百萬馬克ニ過キナリシモ千八百六十五年ニハ正ニ之ニ倍シ千八百八十五年ニハ四倍ニ上リ其公債總額千〇八十四億三千百萬フランクノ巨額ヲ見ルニ至レリ今年度ニ依リテ公債増加ノ統計ヲ見ルニ次ノ如シ

年 度	公債元金
一七一四	一五億弗
一七九三	二五

一八二〇 七七五
 一八四八 八六五
 一八六二 一二七五
 一八七二 二三二〇五
 一八八二 二六九七

尙ホ最近ノ調査ニ係ル歐米各國ノ公債總額利子額及ヒ其各分頭額及ヒ明治二十六年度ヨリ三十年度ニ至ル我國ノ國債地方債及ヒ政府紙幣ノ數額ヲ示セハ次ノ如シ

公債總額及ヒ利子額ノ單位 (磅)			
各分頭額ノ單位 志			
國 名	公債總額	分頭額	公債利子額
佛 蘭 西	一,三三四七七四,三〇〇	三三,五一〇	五〇〇,三〇〇,〇〇〇
英 吉 利 本 土	六三,八二六,四八二	一五,一七八	二五〇,〇〇〇,〇〇〇
伊 太 利	四九,一七六,七三〇	一五,二一六	二三二,九八,五六五



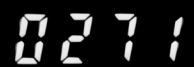
露西亞	四二,七九二,〇〇〇	三一,一九七	一八,〇一五,九〇〇	三五
合衆國	三六〇,七四二,六〇〇	五,一五二	五,五四八,〇〇〇	二五
西班牙	二八四,〇〇〇,〇〇〇	一六,三三四	一五,九七〇,〇〇〇	一八〇
匈牙利	二六〇,四九五,〇〇〇	一一,一六六	一一,二一八,〇〇〇	一三二
奧地利	二四五,〇一〇,〇〇〇	五,一八六	一〇,五二四,〇〇〇	五一
土耳其	一五七,〇三八,四〇〇	六,一九五	二,〇三三,一〇〇	一一〇
葡萄牙	一二七,〇二六,〇〇〇	二五,三三〇	四,二〇九,一〇〇	一六八
奧地利	一二二,五八五,七〇〇	五,二二五	六,二一五,〇〇〇	五二
獨逸	一一三,〇六二,〇〇〇	二,三三三	六,六九三,〇〇〇	二六
白耳義	一〇二,一六三,七〇〇	一五,一一八	四,六六六,一〇〇	一三二
和蘭	九二,二一八,〇〇〇	一八,五五	二,七二〇,三〇〇	一一二
日本	四一,〇三三,五一一	一,九三	二,九〇〇,五〇〇	一四
希臘	二一〇,〇〇〇,〇〇〇	八,一二三	一,〇〇〇,〇〇〇	八二
瑞典	一五,九七一,三〇〇	三,四〇	五,三八〇〇〇	二二

丁抹	一一,五六六,二〇〇	五五,一〇	四〇五,五六三	三八
諾威	一〇〇,七四,四〇〇	五,〇〇八	三二七,五〇〇	三三
瑞西	三三五,五七〇〇	一,一〇,九	一六九,七三〇	一一
總額	四七五,三九四,三五九五		一九二,五九二,三五八	

●日本公債統計表

年 度	國 債	分頭額	政府紙幣	分頭額
三十年度	四二,一二四,五九二八	九七四	六,九九五,三七三	一六
二十九年度	三八三,三三五,一三四	八九七	九,〇四五,〇八二	二一
二十八年度	三七一,七五九,九九五	八七九	一〇,六七九,二三六	二五
二十七年度	二九五,八〇七,二八三	七〇七	一二,七九三,八三五	三〇
二十六年度	二六七,八一四,八五一	六四七	一五,七〇四,七七三	三二
年 度	國債政府紙幣合計	分頭額	地 方 債	國債政府紙幣及地方債合計
三十年度	四二八,二四一,三〇一	九九〇	一四,一五三,三七六	四四
二十九年度	三九二,三三八〇,二一六	九一八	一〇,九一六,七九〇	四〇
二十九年度			四〇,三二九,七〇〇七	七

財政學 收支適合論 公債ノ觀念 公債發達ノ歴史



二十八年年度	三八二四三九・二三一	九・〇四	一〇・三二八一	三九二六七一・〇四二
二十七年年度	三〇八六〇一・二一九	七・三三八	一〇・〇六二九二三	三一八六六四・〇三二
二十六年年度	二八三五一九六・二四	六・八五	九・一六七〇四七	二九二六八六・〇〇〇

第三節 公債發達ノ理由及ヒ條件

第一款 公債發達ノ理由

第一項 消極的の理由——國家觀念ノ一變

封建制度崩廢シテ中央集權ノ行ハルルヤ經濟學派ニ於テモ歴史派勃興シ從來ノ放任主義ノ反動トシテ「リスト」ノ如キ國家主義ヲ唱道シ法律學派ニ於テハ自然法學派破レテ歴史法學派勃興シ公法ノ觀念發達シ文化ノ普及ト共ニ國家ノ政務ハ頓ニ廣キヲ加フルニ至レリ即チ國家ハ實ニ消極ニ人民ノ危害災危ヲ除去スルニ止マラス積極ニ人民ノ幸福安寧ヲ増進スヘキモノナリトシ殊ニ近時社會問題ノ影響トシテ國家社會主義ヲ鼓吹スル者相次キ國家ハ一方ニハ恤救行政ノ範圍ヲ擴張シテ貧民救助法強制保險強制教育貧民貯蓄法等下級人民ノ

保護改善ノ策ヲ畫シ一方ニハ社會一部ノ階級ヲシテ重大ナル權力ヲ獨占セシメテラシメシカ爲メ公共的事業ニシテ利害關係ノ重大ナルモノハ之ヲ政府ノ手裡ニ收ムル等國家萬般ノ行政著シク多キヲ加フルニ至レリ殊ニ近時各國經費ノ大部分ヲ占メ財政ノ經營上重大ナル關係ヲ有シ公債ト相聯結シテ朝野ノ人士ヲシテ此カ措置ニ頭顱ヲ悩マサシムルモノヲ軍事費ト爲ス蓋シ佛蘭西革命カ自然法ヲ打破シ放任主義ヲ屏去セシメ人權主義ヲ壞廢シ歸納的歴史の學派ノ勃興スルト共ニ中央集權ノ實舉ルヤ忽チ那破翁一世覇ヲ稱ヘテ歐洲ヲ蹂躪シ軍旗ノ向フ處列國ヲ席卷シ中道ニシテ霸業地ニ墜ツルヤ國民の觀念到ル處ニ勃興シ軍事上ノ設備維持ノ爲メ鉅萬ノ資ヲ投シ列國互ニ相對峙シテ權力ノ平均ハ軍器ノ改良兵員ノ増加ヲ促シ益々其費額ヲ遞増スルニ至レリ是レ國家ノ歳出ハ年年歳歳増加スルニ反シ國家ノ歳入ハ比較的之ニ隨伴セザル所以ナリトス

國家觀念ノ一變ハ一方ニハ國家其モノノ信用ヲ鞏固ト爲スト同時ニ一方ニハ國家ノ經費ヲ著シク増加スルニ至レリ而シテ其經費ノ種目ニシテ公債ノ

必要ヲ増加セシムル重ナルモノハ一ハ國防費及ヒ戰事費ニシテ一ハ農工商ノ起業費ニシテ所謂消費公債及ヒ起業公債ナルモノカ公債ノ殆ト全部ヲ占ムル所以ノモノ又此原因ニ存ス今歐米五大強國ノ歲出ニ關スル統計ヲ示セハ左ノ如シ

年	國名	英	吉	利	佛	蘭	西	露	西	亞	普	滿	西	合	衆	國
一八四〇	總額	二三八	九、五〇	二二七	六、九八	、、、	、、、	四〇	二、七三	二七	一、六〇					
一八五〇	總額	二四二	九、〇〇	三〇四	八、五九	一、九三	三、一〇	六、七	四、〇三	四六	二、〇〇					
一八六〇	總額	三三四	一、一五〇	三六五	九、八七	二、二四	三、〇六	九、三	五、一六	七七	二、四五					
一八七〇	總額	三三七	一、〇八〇	四一〇	一、〇八一	三、四二	四、三九	一、二七	五、三〇	三〇九	八、〇〇					
一八八〇	總額	四〇七	一、一六二	六三三	一、六八一	四、四五	五、二九	一、七八	六、六〇	二六七	五、三三					
	歲出總額ノ單位	百	萬	弗		歲出ノ割合ノ單位	一	弗								

第二項 積極的ノ原因—經濟界ノ進步

經濟ノ發達カ亦等シク今世紀ニ在ルハ世人ノ周ク認知スル所ナリ經濟上所謂資本時代ト云ヒ商工業時代ト云ヒ信用經濟時代ト稱セラルル時期ニ在リテハ資本ノ遞増ハ此カ投下ノ途ヲ需ムルニ至リ公債ニ依リ此等ノ資本ヲ活用シテ國家ノ事業殊ニ生産的ノ事業ニ投下スルハ實ニ國家自體ニ於テ得策タルノミナラス又資本ヲ有スル者ノ却テ翹望スル所ナリ即チ人民カ國家ノ手ニ依リテ其資本ノ増殖ヲ計ルコトヲ得貯蓄ノ一便法トシテ經濟上政治上好箇ノ方策タルモノナリ況ヤ信用經濟時代ニ在リテハ經濟上ノ活動ハ益々敏活繁雜ヲ極メ貨幣ハ價格ノ標準トシテ其效果ヲ失ハサルモ交換ノ媒介トシテハ融通上信用ノ方便ニ其途ヲ讓ルニ至リ公債證書ハ好箇ノ媒介物トシテ他ノ有價證券ト共ニ融通上缺クヘカラサル位置ヲ占ムルニ至レリ殊ニ近時無記名ノ公債證書ヲ認ムルニ至リテハ其效果亦貨幣ニ讓ルナク動産ト同一ナルモノト看做セルハ各國ノ法制ニ通シテ既ニ明文ノ認ムル所ナリ

第二款 公債發達ノ條件

第一項 金融市場ノ發達

金融市場ノ發達ハ所謂經濟界ノ進歩ヲ現實ニ公債ノ方面ヨリ觀察セルモノニシテ其發達ノ要素ハ

甲 資本ノ供給豊饒ナルコト

乙 資本ヲ運轉スル制度組織ノ發達セルコト

丙 資本ノ生産ノ利用ノ動念發達セルコト

ノ三點ニ據リ成立シ金融市場ノ發達ハ能ク資本ノ流通ヲ助ケ古代ノ如ク資本ノ集合離散スル機關具備セス又資本ヲ有スル者モ文化幼稚ニ屬シ交通發達セス信用ノ不備ナルヨリ徒ニ之ヲ庫中ニ藏匿スルカ如キコトナク資本ハ國內ニ縱橫運轉セラルルノミナラス經濟界ハ交通ノ發達ト共ニ世界列國ヲ打シテ共同ノ潮流ニ投セシメ資金ハ國際間ヲ通シテ循環セラレ倫敦市場ニ現ハルル形式ノ數ハ其數三百種ヲ超エ其取引年額亦百億ヲ昇ルニ至レリ

第二項 一國信用ノ増加

一國信用ノ増加カ公債募集上重大ナル條件タルコト復タ言フ埃タス蓋シ往時信用ノ幼稚ナル時代ニ在リテハ短期公債モ對物擔保ヲ附シテ猶ホ此カ奏效ニ困難ヲ感セシハ前述スル所ノ如シ今日ニ在リテハ國家組織ノ一變文化ノ普及ハ公債其モノノ性質ヲモ一變シ此カ債務關係ニ於ケル權利義務ハ復タ法令ノ保障スル所ト爲リ殊ニ立憲國ニ在リテハ公債ノ募集償還ハ議會ノ承認ヲ經ルヲ例ト爲スニ至リシヲ以テ國家ノ信用益々厚キヲ加フルニ至レリ今少シク之ヲ詳述スレハ一國信用ノ要素ハ

甲 公債償還ノ實力アルコト

乙 公債償還ノ意思アルコト

丙 公債ニ關スル行政制度ノ完備セルコト

ニ據リテ成立シ而シテ其公債償還ノ實力ハ國民ノ富榮ト財政ノ整理トニ基因シ殊ニ公債ノ償還及ヒ利子ノ支拂ニ必要ナル租稅制度宜シキヲ得ハ財政ノ整

理ニ於テ一層ノ信用ヲ増加スヘキコト論ナキナリ其他公債ニ關スル過去ノ財政歴史即チ從來募集セシ公債ノ額ノ多少及ヒ其經過ノ如何ハ亦信用ニ至大ノ影響ヲ與フルモノタリ

公債償還ノ意思ハ國家自體及ヒ國民ノ良心及ヒ名譽心ノ強弱ト主トシテ公法ノ規定如何ニ因リテ消長セラルルモノニシテ一箇人ノ場合ニハ此要素缺乏スルトキハ國家命令權ノ作用ニ由リ法制上此カ救濟手段ヲ設ケラルルモ國家ニ對シテハ外人カ自國政府ノ力ヲ假リテ國際法上ニ訴フル場合ノ外ハ殆ト法制上此カ救濟手段トシテ強制力ノ存在ヲ認ムルコトヲ得サルモノナレハ國家信用ノ債務成立ニ必須ノ要素ナルコト復タ一私人ノ場合ノ比ニアラサルナリ此他尙ホ國民の觀念モ亦隱然公債募集ノ一條件タリ例ヘハ今内外公債ノ同時ニ募集セラルル場合ニ於テ其經費勞力危險ノ負擔等ヲ對照シ結局外國債カ多少利益大ナルヘシト思料セラルル場合モ國民の觀念ノ利己心ニ克テテ内國債ヲ選擇スルハ事實ニ於テ見ル所ニシテ殊ニ戰時等ニ在リテハ國民の觀念ヲ刺激スルコト大ナルヲ以テ他ニ有利ノ事業アルモ之ヲ捨テ又在來投下セル資本

ヲ回收シテ多少ノ比較的損害ヲ甘ンシ公債ノ募集ニ應スルモノトス彼ノ愛國

公債ノ如キハ此極例ヲ示スモノナリトス

國家ノ信用カ發達スルニ至リシ原由ハ前ニ一言セル國家ノ觀念ノ一變ナリ尙ホ現實ニ之ヲ國民ノ側面ヨリ説明スレハ國民ノ權義ノ保障ニ在リ極言スレハ國民ノ起債ニ應スルハ感情ニ依ルニアラス愛國心ニ出ツルモノニアラス自己ノ權義カ明カニ法規ノ保障トスル所ト爲リ債務者タル國家ハ其實自己カ監督スル共同團體ナルカ故ナリ封建制度ノ類廢ハ地主ノ權力ヲ剝奪シテ資本家ノ全能時代ト爲リ資本家ノ權利自由カ最モ優勢ナル勢力ヲ造リ立憲政治ノ下ニ於テハ債權者タル資本家ト債務者タル國家トハ同一體ニシテ進ニ法律上ノ資格ヲ異ニスルニ過キササルニ至レリ是レ立憲政治ノ最モ早ク進歩セル英國ニ於テ著シク早ク公債ノ發達ヲ見ルニ至リシ所以ニシテ又眞ニ發達セル公債カ獨リ立憲政體ノ下ニ於テ之ヲ見ルヲ得ヘシト云フ所以ナリ

第四節 公債ト私債

私法上ノ契約ヲ以テ成立スル債務タル點ニ於テハ公債モ私債モ共ニ相同シ其異同ノ生スルハ其債務ノ體様ニ於テ存ス而シテ其區別ノ根本ノ基礎ハ一ニ私人經濟ト公共經濟ノ別ニ在リ換言スレハ私人經濟ハ入ルヲ計リテ出ツルヲ制スルニ反シ公共經濟ハ出ツルヲ計リテ入ルヲ制スルニ在リ私人經濟ハ常ニ收入ノ多寡益大ナランコトヲ勉メ其收入ヲ標準トシテ支出ノ程度ヲ算定シ其收入ノ一部ヲ貯蓄シテ以テ私債ヲ起スノ患ナキコトヲ期ス公共經濟ハ常ニ國家ノ經費トシテ其必要ノ有無程度ヲ定メテ之ニ應スルノ收入ヲ算定シ唯收支ノ相適合センコトヲ期スルニ在リ故ニ支出ノ收入ニ超過スルコトヲ避クヘキト共ニ收入ノ支出ニ超過スルコトモ亦等シク之ヲ避クセンハアラス今其相異ナル點ニ付キ其重ナルモノヲ列舉スレハ左ノ如シ

第一 公債ハ其存在ヲ原則トシ私債ハ其存在ナキヲ原則トス

公共經濟ト私人經濟ノ區別ノ大要ハ上述スル所ノ如シ隨テ私人經濟ニ在リテハ常ニ支出ヲ收入ノ一部ニ止メ常ニ餘剩ヲ貯蓄シテ以テ不時ノ需要ニ應スルノ準備ヲ爲スヲ原則トス隨テ私債ハ此カ發生ヲ以テ例外ト見ルヘキト共ニ公

共經濟ニ在リテハ常ニ收支相適合センコトヲ計リ收入ノ支出ニ超過スルコトヲ避クルヲ以テ事實收支ノ適合ヲ期シ難キ丈ニ公債ヲ起スヘキ機會必要ハ私債ノ場合ト全ク正反對ニ出テ原則トシテ常ニ之ヲ豫期スヘキモノタリ勿論政府モ私人ノ如ク其財產ヲ賣却スルコト難キニアラサルモ官有財產拂下ノ臨時支出填補ノ手段トシテ不可ナルコトハ第一章ニ於テ述ヘタルカ如ク經濟上非議ヲ入ルヘキノミナラス政治上亦喜フヘキモノニアラス又事實迅速ヲ要スヘキ巨額ノ需要ニ應スル能ハサルヲ例ト爲シ現時ニ於テモ唯財政紊亂シ信用薄弱ナル國ニ於テ已ムナク此窮策ヲ執ルヲ見ルコトアルノミ其他特許其他ノ保護ヲ與ヘ其代償トシテ收入ヲ得ルコトアルモ其害毒ノ財產拂下ノ場合ニ比シテ却テ勝ル所アルハ復タ言フ埃タナル所ナリトス而シテ非常準備法及ヒ租稅政策ニ依ルノ可否ニ付テハ亦第一章ニ於テ既ニ詳述シタル所ナルヲ以テ究極公債ハ其存在ヲ原則ト爲スヘキコト理論上ニ於テ其不可ナルヲ見サルノミナラス復タ事實ニ於テ各國財政史ノ等シク證スル所ナリ

第二 公債ノ償還ハ收入ノ増加ニ依ルヲ原則ト爲シ私債ノ償還ハ支出ノ減少

ニ依ルヲ以テ原則ト爲ス

私債ノ償還ニ在リテハ收入ノ増加ニ依リ或ハ財産ノ賣却等ニ依ルコト固ヨリ難シト爲ササルト共ニ其支出ノ減少ニ依ルコト原則トシテ認メラルル所ニシテ又比較的容易ナルモノト謂ハスンハアラス之ニ反シテ公債ニ在リテハ官業收入ノ増加ハ固ヨリ強制的ノ性質ヲ有スルコトナク私人ノ營業ニ過キサルヲ以テ固ヨリ公債ノ償還ニ充ツルニ足ラス財産ノ賣却ノ不能不可ナルハ亦上述スル所ノ如シ而シテ經費ノ節減ハ又以テ公債償還ノ資ニ充ツルニ足ラス通常ノ歳入ハ通常ノ費途ニ充テ通常ノ費途ハ公債費ニ於テモ官有財産ノ設備維持費ニ於テモ文武行政事務費ニ於テモ既ニ政府カ必要ナリト認定シタル經費ナルヲ以テ固ヨリ此ニ對シ非常ノ削減ヲ加ヘンコトハ不能ノ事理ニ屬スルモノナリ隨テ新公債ノ起ル毎ニ此方填補ノ途ハ常ニ新稅ノ設定又ハ舊稅率ノ増加ニ依ルノ外ナキヲ原則トス即チ公債ノ償還ハ常ニ強制的收入ノ増加ニ依ルモノニシテ私債ノ場合ノ如ク容易ナルモノニアラサルナリ

第三 違約ニ對スル債權者ノ救濟手段ハ私債ノ場合ハ十分ノ保障アルモ公債

ノ場合ニハ十分ノ保障ヲ受クルコトナシ

私債ノ場合ニ在リテハ其條件期限利率等ノ變更又ハ償還ノ有無ニ付キ債權者ノ合意ヲ經ス不法ニ違約スルトキハ法令ハ債權者ノ權利ヲ保障シテ司法ニ行政ニ債務者ノ破産ヲ限度トシテ此カ救濟手段ノ完備ヲ期スルモノナリ之ニ反シテ公債ノ場合ニハ第一期第二期ノ時代ニ於テ固ヨリ實力關係ニ依リ不法ニ違約シテ之ヲ強行スルモ又之ニ對シテ救濟ヲ求ムルニ由ナク近時立憲制度ノ下ニ於テモ議會ノ協贊ヲ經ルトキハ債權者ノ合意ヲ缺タスシテ此カ變更ヲ試ムルコトアリ此場合ニハ唯政治上道德上非難ノ餘地ヲ存スルニ止マリ法律上復タ此カ救濟ノ手段ヲ缺クモノタリ外國債等ノ場合ニ於テモ外交問題ニ關聯シテ事實此カ變更ヲ抑制スルコトアルモ固ヨリ法律上ノ問題ニアラス近時列國皆自己ノ信用ノ鞏固ヲ圖リ濫ニ此等ノ窮策ヲ執ルコトナキモ時ニ其實例ヲ見出スコトナキニアラス其詳細ハ別ニ公債償還ノ章ニ於テ再述スル所アルヘシ

第四 公債ノ成立ハ募集ノ方法ニ依ルヲ原則トシ私債ノ成立ハ借入ノ方法ニ

依ルヲ原則トス

公債ハ私債ニ比シテ其額固ヨリ巨大ナルヲ以テ之ヲ特定セル私人ヨリ借入ルルコトハ經濟界ニ及ホス影響大ナルノミナラス幾多ノ弊害其借入ニ附帶シテ發生スルコトハ固ヨリ言フ埃タサル所ナリトス隨テ信用ノ發達セル現時ニ在リテハ政治上經濟上ノ理由ヨリ政府ハ單ニ一定ノ條件ヲ示シテ一般ヨリ募集スルノ制ヲ執ルコトヲ原則トシ社會問題ニ關聯シテ其募集方法ニ付キ成ルヘク應募者ノ種別範圍ヲ擴充セントスルノ趨勢アルコトハ前述ノ如シ或學者カ公債私債ノ區別ノ一トシテ債權者ノ數ノ多少ヲ舉ケ又ハ證書面ノ金額ト實際ノ借入高ノ相異ナルコトヲ舉クルモ亦之ニ伴フ結果ノ一端ヲ表彰セシモノニシテ却テ狭キニ失セルモノナリ募集ノ場合ニ於テハ其募集條件ノ輕重ト金融市場ノ繁閑ニ由リ需要供給ノ原則ニ支配セラレテ拂込高ノ額面高ヲ上下スルハ固ヨリ言フ埃タス而シテ此募集方法ハ近時私債中法人ニ屬スルモノニ在リテハ又屢行ハルル所ニシテ通常社債ト稱セララルモノノ外普通ノ借入ニ於テモ額面高ト借入高ノ相異ナルコト稀ナリトセス利子制限法ノ拘束ヲ通レンカ

爲メニスル所謂高利貸ノ輩ノ如キハ姑ク之ヲ問ハストスルモ彼ノ英國ノ「ボン」^ドノ制ノ如キハ額面高ト借入高ト相違ナルヘキコトヲ原則ト爲スモノナレハ、ナリ

第五 公債ハ償還期間長ク利子低ク擔保ナキヲ原則ト爲スモ私債ハ償還期間

短ク利子高ク擔保ヲ要スルヲ原則トス

國家ノ私人ニ比シテ信用ノ大ナルハ言フ埃タス永久ノ生存ヲ爲スヘキ國家ニ在リテハ其債務ノ永續ハ却テ債權者ノ希望スル所ニシテ近時信用ノ發達セル政府ニ在リテハ漸次無期ノ公債ヲ認ムルニ至レリ利子ニ於テモ信用ノ大ナル公債カ私債ニ比シテ低キコトハ又自明ノ理ニ屬シ時ニ無利子ノ場合亦少シト爲ナス強制公債ノ一種ト看ルヘキ不換紙幣ノ如キ是ナリ但シ不換紙幣ハ信用其モノノ厚薄ノミニ依リテ消長スルモノニアラサルハ論ナン終ニ擔保ノ如キ私債ノ場合ニ在リテモ對人信用ノ外ニ居常ノ情實ヨリ無擔保ノ場合少シト爲ササレトモ通常特種ノ關係ナキ者ノ間ニ在リテハ擔保ヲ以テ成立ノ一要素ト看ルコト原則タリ

國債ト曰ヒ公債ト曰フ固ヨリ其間ニ畫一セル限界ノ存スルニハアラス唯此ニハ公債ヲ以テ政府其他公共團體ノ債務ヲ總稱スルモノトス即チ國債及ヒ地方債ヲ併稱シテ公債トス地方債ノ如何ナルモノナルヤニ付テハ公債償還ノ章ニ次キテ別ニ一言スル所アルヘシ

第三章 公債ノ分類

第一節 緒論

公債ノ意義ハ學說實際共ニ區區ニ岐レテ一定ナル所アルナク最狹義ニ解釋スル者ハ所謂確定公債ノミヲ以テ公債ト稱シ狹義ニ解釋スル者ハ流動公債ヲモ併セ認ムルモ單ニ短期借入短期公債ノ類ニ限ラレ廣義ニ解釋スル者ハ廣ク財政上ノ公債ヲ總稱シテ公債ト曰ヒ最廣義ニ解釋スル者ハ財政上ノ公債ニ行政上ノ公債ヲ併セテ公債ト稱ス固ヨリ公債ノ字義ニ屬スル問題ニシテ理論上之ヲ是非ヲ論斷スヘキモノニアラサルコト言フ埃タス唯一般ニ慣用セラルル公債ノ字義ハ事實トシテ狹義又ハ廣義ニ限ラレ最廣義ノ公債ノ特色タル行政

上ノ公債ト稱セラルルモノニ至リテハ嚴重ニ解釋スレハ公債論トシテモ又收支適合論トシテモ之ヲ論述スヘキ限ニ在ラサルモ國庫收入ノ一種トシテ之ヲ研究スルニ付キ本章ニ於テ述フルヲ最モ便ト爲スヲ以テ茲ニハ最廣義ノ公債ニ就キ之ヲ各種ノ方面ヨリ分類シ逐次之ヲ概念ヲ敘述スル所アルヘシ

第一 公債募集ノ原因ヲ標準ト爲ス分類

甲 非常公債

乙 平常公債

一 財政上ノ平常公債

二 經濟上ノ平常公債

三 行政上ノ平常公債

第二 債權者ノ國籍ヲ標準ト爲ス分類

甲 外國債

乙 內國債

第三 公債募集ノ方法ヲ標準ト爲ス分類

甲 強制公債

一 直接強制公債

ウ 借入直接強制公債

ろ 支拂直接強制公債

二 間接強制公債

乙 任意公債

一 愛國公債

二 契約公債

ウ 支拂約束

ろ 特別借入

三 通常公債

第四 公債ノ性質ヲ標準ト爲ス分類

甲 流動公債

一 行政上ノ流動公債

二 財政上ノ流動公債

ウ 短期借入

ろ 大藏省證券

ハ 紙幣

乙 確定公債

一 有期確定公債

ウ 割増公債

ろ 年金公債

ハ 終身年金公債

ニ 定期年金公債

ハ 定期公債

ニ 定期一時支拂公債

ハ 定期定期支拂公債

ニ 定期隨時支拂公債

二 無期確定公債

此他尙ホ經濟上ノ效果ヨリ觀察シテ生産的公債ト不生産的公債ニ分類シ擔保ヲ附スルト否トニ據リテ擔保附公債ト無擔保公債ニ分類シ利子ヲ附スルト否トニ據リテ利子附公債ト無利子公債ニ分類シ花札ヲ附スルト否トニ據リテ花札附公債ト無花札公債ニ分類シ課税ノ目的物ト爲スト否トニ據リテ負税公債ト無税公債ニ分類シ記名ノ有無ニ據リテ記名公債ト無記名公債ニ分類スル等幾多ノ區分ヲ爲シ得ナルニアラサレトモ此等ノ分類ハ公債ノ區分トシテハ比較上之ヲ論究スヘキ價值少ク且ツ別ニ他ノ章目ノ下ニ於テ便宜叙述スヘキ機アルヲ以テ茲ニハ前掲四種ノ分類ヲ説明シ此カ利害得失ニ付キ論究スル所アルヘシ

第二節 非常公債及ヒ平常公債

第一款 非常公債

非常公債トハ戰亂其他天災地變等意外ノ事變ニ因ル非常ノ費途ヲ蔽フカ爲メ

起債セララルモノニシテ我邦ニ在リテハ明治十年ノ役ニ第十五國立銀行ヨリ借入タル征討費一千五百萬圓明治二十七八年ノ役ニ於ケル軍事公債明治二十七年八月勅令百四十四號五千萬圓ノ如キ是ナリ蓋シ非常公債ハ平常公債ニ比シテ其額巨大ニ上ルヲ常ト爲シ且ツ急速ノ供給ヲ要スルモノナリ而シテ一面ニハ其需要ハ多クハ國家ノ生存問題ニ關聯シ必要ノ度大ナルヲ例ト爲スヲ以テ公債ノ必要ニシテ又何レノ國ニ通スルモ公債ナキヲ見サルハ畢竟非常ノ事變ノ發生ニ因ルコト此カ避クヘカラサル原由タルコト明カナリトス

第二款 平常公債

平常公債トハ非常公債ニ屬セサル公債ニシテ再分シテ財政上ノ公債經濟上ノ公債及ヒ行政上ノ公債ノ三種ト爲ス
財政上ノ平常公債ニハ財政ノ不足ヲ補フカ爲メニ起債セララルモノアリ我邦ニ在リテハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ募集セラレシ海軍公債明治十九年六月勅令第四十七號一千七百萬圓ノ如シ又財政整理ノ爲メ募集セララルモノア



リ弘化元年以後明治四年ニ至ル舊藩諸縣ノ公債ノ引受トシテ發行セシ新舊公債(明治八年五月布告第九十五號從來永世一代又ハ年限等ヲ以テ給與セシ家祿賞典祿ヲ改メテ祿ノ種類並ニ金祿元高ニ依リ年分ヲ定メ一時ニ下渡ス爲メ起債セシ)金祿公債(明治九年八月布告第八號政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シタル)金札引換公債(明治十三年十二月布告第四十七號從前發行ノ六分以上利附ノ内國債ヲ償還整理スル爲メ起債セシ)整理公債(明治十九年十月勅令第六十六號二億七千五百萬圓其他沖繩縣諸債社寺遞減祿舊神官配當祿等ノ如キ是ナリ)此種ニ屬スル公債ハ公債ノ管理ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ別ニ詳述スル所アルヘシ

經濟上ノ平常公債トハ經濟事業ヲ起ス爲メ募集セラルルモノナリ我邦ニ在リテハ全國中公益ノ事業ヲ起シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニスル爲メ募集ナレシ起業公債(明治十一年五月大藏省布達甲第十三號)上野國高崎ヨリ美濃國大垣マテ中仙道ニ沿ヒ延テ伊勢國四日市ニ至ルマテ鐵道ヲ布設シ及ヒ其事業ヲ經營スル爲メ起債セラレシ中仙道鐵道公債(明治十六年十二月布告第四

十七號)相模國戶塚橫須賀間(近江國大津長濱間)鐵道布設資金ヲ補充スル爲メ募集セラレシ鐵道補充公債(明治二十二年一月勅令第六號)二百萬圓ノ如キ既設官設鐵道改良北海道鐵道建設製鋼事業電話擴張ノ費途葉煙草專賣資金及ヒ國防事業ノ費用ニ充ツル爲メ募集セラルル事業公債(明治二十九年三月法律第五十九號)一億三千五百萬圓ノ如キ臺灣ニ於ケル鐵道敷設土地調查築港廳舎建築ノ經費ニ充ツル爲メ募集セラルル臺灣事業公債(明治三十二年三月法律第七十五號)三千五百萬圓ノ如キ此類ナリ

行政上ノ平常公債ハ本章第四節行政上ノ流動公債ノ下ニ於テ叙述スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

第三款 生産的公債及ヒ不生産的公債

序次ノ便ニ由リ生産的公債ト不生産的公債ノ分類ニ付キ一言スル所アルヘシ此公債ノ生産的ト曰ヒ不生産的ト曰フハ其起債ニ因リテ得タル臨時收入ノ支途ノ生産的ナルヤ不生産的ナルヤヲ指スニアラスシテ公債其モノニ存ス故ニ一

方ニハ縱令其收入ノ使途カ不生産的ニ使用セラルルモ公債ノ總額財政ノ上ヨリ觀察シテ未タ多キニ失セズ其利子期限等ノ體様宜シキヲ得其市場ノ價格モ額面高ヲ超ユル場合ニハ以テ生産的公債ト稱スルヲ妨ケサルト共ニ一方ニハ縱令其收入ノ使途カ生産的ニ使用サルトモ公債ノ總額財政ノ上ヨリ觀察シテ多キニ失シ其利子期限等カ體様宜シキヲ得ス其市場價格モ額面高ヲ下ルカ如キ場合ニハ復タ不生産的公債ト稱スルコトヲ妨ケサルナリ但シ此間ノ區別ヲ知ルコトノ必要ナルト同時ニ又其使途ノ生産的ナルト不生産的ナルトハ結局公債其モノカ生産的不生産的ト爲ルヘキコトヲ忘ルヘカラス何トナレハ生産的ニ使用セラルル場合ニハ其債務ハ容易ニ償還セラレ多クノ場合ニハ政府ノ收入ニ幾多ノ餘剩ヲ殘シ少クトモ一國ノ富ヲ増進シテ結局人民ノ負擔力應募力ヲ増進シ公債ノ募集又ハ整理ノ條件ヲ容易ニ爲スモノナレハナリ隨テ經濟上ニ屬スル平常公債ハ所謂生産的公債タルヲ例ト爲スモノナリ

第三節 内國債及ヒ外國債

第一款 緒論

債權者ノ國籍ヲ以テ標準ト爲シ其全部若クハ大部分カ外國人ノ手中ニ在ル場合ハ外國債ト稱シ内國人ノ手中ニ在ル場合ハ内國債ト稱ス其募集地ノ内外何レニ存スルヤハ問フ所ニアラサルモ外國債ハ外國ニ於テ起債セラルルヲ原則トシ内國債ハ内國ニ於テ起債セラルルヲ常ト爲スモノナリ此二者ノ別ハ公債證書其モノノ移轉ニ因リ互ニ其性質ヲ變スヘキハ言フ俟タス近ク明治二十七八年役ニ於ケル我軍事公債ノ如キ「サミュエル」商會ヲ經テ其大部ハ外國人ノ手裡ニ移轉セルハ世人ノ知ル所ナリ

内國債外國債ノ區別ハ單ニ債權者ノ内外國人ナルヤニ存セテ必要ナル分類ト看ルコト能ハサルモ外國債其モノノ利害關係ハ外資輸入ノ問題及ヒ政治問題ト相牽聯シテ從來學者ノ多ク研究セラルル所タリ昨年我政府ハ又一千萬磅ノ外國債募集ノ舉アリ各國皆其實例多キノミナラス其政策ノ是非ハ社會ノ全般ニ影響ヲ來シ時ニ一國ノ生存問題ニ波及スルコトナキニアラサルヲ以テ少

ク茲ニ講述スル所アルヘシ

外國債ニ付テハ現時之ヲ絕對ニ非議スル者アルヲ聞カス今便宜ノ爲メ消極論者ノ重ナル論點ヲ列舉スレハ大畧次ノ如シ

外國債ノ弊害

第一 財政上ノ弊害

- 一 借入容易ニシテ低利ノ場合多キヨリ濫ニ起債スルノ患アルコト
- 二 前號ノ結果トシテ浪費ヲ生シ易ク爲メニ經費ヲ増加スルコト
- 三 前號ノ結果トシテ國庫ノ破産ヲ通レンニハ増税ノ手段ヲ取ラサルヲ得サルノ患アルコト

第二 經濟上ノ弊害

- 一 外資ノ輸入ハ一時ニ通貨ヲ膨脹スルモノナルヲ以テ金融市場ヲ擾亂スヘキコト
- 二 前號ノ結果トシテ物價ニ急激ナル變動ヲ來スコト
- 三 物價騰貴ノ爲メ輸入超過ト爲ルト同時ニ第一號ニ因リテ輸入スル正貨

ノ流出ヲ高ムヘキコト

第三 政治上ノ弊害

- 一 外國債ノ不整理ハ直接間接ニ債權國ノ干渉ヲ蒙リ甚キハ一國ノ生存ヲ危クスルニ至ルコト
- 即チ前掲スル所ヲ略言スレハ外國債ハ濫ニ起債セラルル憂多ク之ヲ起セハ金融市場ヲ擾亂シ時ニハ外國ノ干渉ヲ受クルニ至ルヘシト云フニ在リ今序ヲ逐フテ此利害ヲ辨明スヘシ

第二款 財政上外國債ノ利害ヲ論ス

財政上ノ消極論ハ公債中ニ在リテモ外國債ハ殊ニ無用ノ費途ヲ誘導シ易シト云フニ外ナラス換言スレハ其起債ノ容易ニシテ低利ナルコト多シト爲ヌヲ以テ濫ニ起債セラレ結局浪費ヲ助成シ之ヲ填補スヘキ惡税ノ増加ト爲ルヘシト云フニ在リ所謂浪費大ニシテ惡税ヲ増加スヘシト云フハ先ツ無用ノ經費ノ爲メニ起債セルコトヲ前提トシテ論スルモノニシテ是レ獨リ外國債ニ限ラルヘ

キモノニアラス又其起債ノ容易ナル爲メ結局外國債ハ内國債ヨリ財政上ノ害ヲ來スヘキ機會ヲ多シト云ハンモ外國債ハ必スシモ内國債ヨリ容易ニ起債セラレ得ヘキモノニアラス通常何レノ國ニ在リテモ先ツ内國債ニ依ルヲ原則トシ既往内國債ノ總額又ハ最近起債ノ時期募集額等ノ關係ト金融界ノ狀勢トヲ照應シ内國債ニ依ルコト困難ナルカ又ハ不可ナリト認ムルトキ始メテ外國債ニ依ルニ至ルハ各國ノ公債歴史ニ徵スルモ明カナル事實ニシテ寧ロ財政困難ノ際外國債募集ノ要アルカ爲メ之ニ附帶シテ弊害ヲ來スコト少シト爲サズ昨年我國ノ外債募集ニ對シテモ亦之カ消息ヲ付度スルニ難シト爲ササルナリ大數觀測ヲ以テ言ヘハ内國債却テ外國債ヨリ起債容易ナルヘキヤ未タ知ルヘカラス殊ニ東洋諸國其他半開ノ國ニ在リテハ巨額ノ資本ヲ以テ充實セル歐米ノ市場モ猶ホ此カ投下ヲ爲スニ躊躇シ信用ノ薄弱ナル決シテ外國債ヲ以テ容易ニ成立シ得ヘキモノト認ムヘカラサルモノアリ是レ消極論者カ根本ニ於テ全然同意ヲ表スヘカラサル所以ニシテ其財政上生スヘキ弊害ハ内外國債ノ區別如何ニアラスシテ一ニ當事者ノ手腕如何ト既往財政上ノ狀勢トニ存スヘキコト

ト言ヲ俟タサルナリ

昨年五月末日大藏省令第二十二號ニ依ル外債ノ如キハ其成立ニ至ルマテ實際ニ於ケル成行ノ難易ハ姑ク之ヲ問ハス四分利ニシテ發行價格百磅ニ付キ拂込額九十磅之ニ百分ノ四ノ手數料ヲ控除シテ結局八十六磅ノ實收ト爲レルカ如キ少クトモ外國債ヲ以テ内國債ヨリ容易ニ且ツ利益多キ條件ヲ以テ成立スルコトヲ得ヘキモノニアラサルコトヲ知ルニ至ルヘシ

第三款 經濟上外國債ノ利害ヲ論ス

外國債ノ募集ハ一時ニ通貨ヲ募集スルト相同シキヲ以テ金融市場ニ急激ナル動搖ヲ來シ物價ノ騰貴ハ正貨ノ流出ト相待チテ輸入超過ト爲リ漸次又通貨ノ缺乏ト爲リ社會事業ノ發達ヲ挫折シ經濟界ヲ紊亂スヘシトハ消極論者カ經濟上ノ弊害トシテ舉クル所ナリ此論點モ亦等シク絶對的ニ是非スヘキモノニアラスシテ内國債ニ於テモ經濟上ノ弊害ヲ來スヘキ場合アルト共ニ外國債モ亦此等ノ弊害ヲ除去シテ却テ巨多ノ利便ヲ來スコトアリ其是非ハ一ニ内國金融界ノ狀勢如何ニ存スルモノナリ若シ内國ノ金融界逼迫ヲ告グルコトナク所謂

游金ノ存スル場合ニハ内國債ノ募集ハ容易ナルノミナラス民間資本家モ亦希望スル所ナリ此際猶ホ安キヲ避ケテ特ニ外國債ヲ起サシカ金融界既ニ通貨ノ潤澤ヲ告タルニ加フルニ外資ノ輸入ヲ以テス前掲述フルカ如キ弊害ノ生スヘキコト又火ヲ賭ルヨリモ明カナリト謂フヘシ然レトモ容易ニ起債シ得ヘキ内國債ヲ避ケテ外國債ニ依ルコトハ事實トシテ想像シ得ヘカラサルコトニシテ一般ニ外國債ヲ起スハ内國債ニ依ルコト不利ナルカ又困難ナル場合ニ在リ今内國債ヲ募集スルニ際シテ其公債カ流動公債即チ短期ノ公債カ又ハ經令確定公債ナリトモ應募者カ其資金ヲ外國ノ生産事業ニ投下セルモノヨリ之ヲ回收スル場合ニハ内國經濟界ニ及ホスヘキ影響ハ稀少ナルヘキモ一般ノ場合ニ於テ内國金融界逼迫ヲ告ケ資本ハ總テ生産事業ニ投下セラレ游金ノ存セサル場合ニハ苟モ内國債ヲ起シテ成功ヲ期セシムルニハ必スヤ金利ヲ高クシ拂込額ヲ低クスル等勢ヒ財政上不利益ナル條件ヲ以テセシムルハアラハス換言スレハ既ニ生産事業ニ投下セル資本家ヲシテ其資本ヲ引戻サシムル丈ノ條件ヲ與フルニアラスンハ成功ヲ期シ難キコト言ヲ竣タス此ノ如キ場合ニ於テハ資本家其モノ

ノ利害關係ハ姑ク之ヲ措キ社會全般ハ一時資本ニ急激ナル變化ヲ受クル爲メ物價其他ニ影響ヲ受ケ經濟界ニ一種ノ亂調ヲ呈スヘキト共ニ中産者以下ハ一方ニ於テハ其公債ノ元利支拂ノ爲メ結局租稅ノ負擔ヲ増加スルト共ニ從來投資セラレシ事業中絶ノ爲メ其職ヲ失ヒ勞働ノ供給過多ノ結果トシテ營業所得勞銀ノ暴落ト爲リ社會問題ニ牽聯シテ尠カラサル害毒ヲ與フヘキコト又消極論者カ唱道スル場合ノ比ニアラサルナリ此ノ如ク一方ニハ内國債ノ起債カ民間生産事業ノ進捗ヲ障害スヘク一方ニハ政府カ起債スル目的ハ交通事業ノ如キ確實ニシテ有利ナル事業ヲ開クニ在ルトキハ外國債ヲ募集スヘキコトハ當然ノ事理ニ屬シ却テ好箇ノ良策ト謂ハスンハアラハス利子ノ流出ハ固ヨリ巨額ノ外資流用ノ報酬ナリ一方ニ民間ノ生産事業ヲ障害セス一方ニ有利ノ官業ヲ興スニ於テハ毫モ弊害ノ發生スヘキ理由ヲ見サルモノトス經濟上ニ於ケル外國債ノ利害又絶對ニ之ヲ論斷スヘカラサルト共ニ事實外國債ニ依ル場合ハ内國債ニ依ルカハサルカ又之ニ依ルトキハ一層ノ害毒ヲ生スヘキ場合ナルヘキコト知ルヘキナリ其起債ノ目的ノ良否ニ至リテハ又内外國債ノ間ニ何ノ差異



カアラシヤ

第四款 政治上外國債ノ利害ヲ論ス

外國債ノ通弊トスル所ハ財政ノ不整理ニ伴ヒテ外國干渉ノ端ヲ啓クニ在リト
 ハ一般ニ唱道セララルル所ニシテ時ニハ又債權國ハ債務國ノ信用ヲ墜落セシメ
 ンカ爲メ故意ニ債務國ノ公債ヲ賣出スカ如キコトアリ外國干渉ノ實例トシテ
 引證セララルルハ多ク埃及突尼斯等ニシテ國際法上外債償還ノ不履行ハ干渉ノ
 原因ト認ムヘキヤ否ヤハ姑ク之ヲ措キ「ワツタル」氏ノ如キハ「臣民」ノ財產ハ即チ國
 家ノ有スル富ノ總額ニシテ國民ノ財力ハ直チニ國方ヲ消長スルモノトシ正當
 ナル干渉ノ原由ト看ルモノノ如シ事實ハ外國干渉ノ結果トシテ其獨立權ヲ失
 フニ至レリ

埃及政府カ土耳其ヨリ内政上ノ獨立ヲ得シハ一千八百四十一年、六十六年及
 ヒ七十三年ノ條約ニ依リシモノニシテ一千八百八十二年七月ニハ其公債總
 額一億九百一萬六千六百五十磅人口一人ノ負擔額十九磅十九志其利子ノ負

擔額十八志四片ニ當リ公債費ハ歲入ノ五分ノ三ヲ占ムルニ至レリ一千八百
 七十六年英人「クープ」氏派遣委員トシテ入りテ埃及財政ノ整理ニ著手シ後「ゴ
 ツシニン」「ジューベル」氏等又之ニ次キテ此處分ヲ勵行シ一千八百七十九年檢
 査總官ノ制ノ下ニ埃及ノ財政ハ舉ケテ英佛二國ノ手裡ニ歸シ其債務ヲ果ス
 ニ不能ナルコトヲ公言セラレテヨリ英佛獨逸伊、匈等ノ聯合償還委員會ノ編
 成ト爲リ財政干渉ニ對スル國內ノ反抗ハ武力干渉ト爲リ今ヤ英兵ノ埃及ニ
 駐屯シテ文武其實力ヲ控制スルハ世人ノ知ル所ナリ

然レトモ此等ハ毫モ外國債其モノノ弊害ニアラスシテ公債ノ管理其宜ヲ得ザ
 ルニ基因ス信用ヲ輕視シテ契約ノ條件ニ違背スルハ政府自體ノ失錯ニ出ツル
 モノニシテ彼ノ「ケー」氏ノ報告ニモ埃及ハ一方ニ於テ東方ノ無智不正浪費ノ
 弊風行ハレ一方ニハ一時ニ歐米ノ文化ヲ輸入セントシ事業ノ緩急經理ノ方法
 ヲ謬リ無謀ノ企業ヲ爲シタルニ因レリト財政紊亂ニ伴フ弊害ハ固ヨリ外國債
 ニ限ルヘキニアラス其利害ハ一ニ財政ノ管理如何ニ在リテ存ス埃及突尼斯等
 ヲ以テ一般ニ律セントスルハ根本ニ於テ誤レリト謂フヘシ

之ヲ要スルニ公債ハ銳利ナル武器ナリ其任用ノ方法如何ハ能ク國ヲ活シ又能ク國ヲ亡スハ前ニ縷述セル所ナリ殊ニ外國債ニ於テ其著シキヲ見ルコト予輩亦信シテ疑ハス外國債ハ其起債管理價還ニ於テ殊ニ慎重ナル注意ヲ要スヘキコトハ言フ埃タサルト共ニ外國債其モノハ決シテ忌ムヘキモノニアラサルノミナラス却テ特種ノ效果ヲ有スヘキコトハ上述スル所ノ如シ而シテ實際ニ於テハ内外國債ノ利害ヲ對照シテ選擇スヘキ餘裕アル場合ハ稀ニシテ多クハ需要ニ應スルニ急ナルノ餘復タ之カ選擇ヲ爲スコトヲ得サルヲ例ト爲スモノナリ近時輸入超過シ正貨流出シ經濟界ノ變調ヲ來サントスルニ際スル調和策トシテ外債ニ依ルコトアリ露國ノ如キ是ナリ又一方ニハ信用機關ノ發達ニ伴ヒ巨額ノ資金一時ニ流入スルコトヲ避ケ一方ニハ手數經費ヲ節減スルノ策トシテ先ツ官業ノ材料等ヲ債主國又ハ其附近ニテ購買スルコトアリ況ヤ外債ニ依リテ各國ヲ通シテ財政上互ニ相牽聯スルコトハ國際上喜フヘキ現象ニシテ其利害關係ハ平和ノ健トシテ直接間接ニ戰亂ノ害毒ヲ防遏スルノ效果ナシト爲ササルナリ

第四節 強制公債ト任意公債

第一款 強制公債

強制公債トハ政府カ相手方ノ合意ヲ經ス強制シテ起債スル公債ナリ其強制方法ノ直接ナルト間接ナルトニ依リ又再分シテ直接強制公債及ヒ間接強制公債ノ二種ト爲ス

第一項 直接強制公債

直接強制公債ハ往時廣行ハレシモノニシテ一種ノ非常稅ト視ルコトヲ得ヘシ其租稅ト異ナルハ其強制シテ借入レタル元金ニ付キ支拂ノ義務アルト其元金ニ對シ通常低利ヲ附スルコトアルニ在リ隨テ又其證書ヲ賣却スルコトヲ得ヘシ所謂強募法ト稱セラルルモノ是ナリ

直接強制公債ハ又其強制ノ方法ニ依リテ之ヲ借入強制公債ト支拂強制公債ノ二種ニ再分スルコトヲ得ヘシ即チ

借入強制公債又ハ割付國債トハ國民ノ財産ニ對シ或標準ヲ以テ拂込額ヲ割付ク此カ借入ヲ強制スルモノナリ

支拂強制公債トハ政府カ國民ニ對スル債務ノ支拂ニ際シ合意ナクシテ現金ノ代リニ公債證書ヲ以テ支拂ヲ強制スルモノナリ

第一目 借入強制公債

借入強制公債ハ種種ノ標準ニ據リテ此カ割付ヲ強制スルコトアリ府縣郡市町村等自治團體ノ階級ヲ通シテ順次此カ借入高ヲ配付スルアリ或ハ政府カ各人ノ拂フ所ノ直税ノ歩合ニ比例シテ割付クルアリ或ハ富裕ナル地方ヲ指定シテ所定ノ出金ヲ命ジ此カ租税ヲ免除スルコトアリ此等何レノ方法ニ依ルモ政治上人心ヲ離畔シ政府ノ信用ヲ減却スヘキハ固ヨリ其不公平不便ナルコトハ復タ説明ヲ埃タス即チ國民財産ノ實額ヲ知悉シ難キト又其財力ヲ詳悉スルモ租稅論ニ於テ既ニ知レル如ク財力ト被稅力ハ互ニ正比例ヲ爲ササルモノナルヲ以テ結局公平ヲ失スヘキノミナラス租稅ト異ナリ不時ニ割付公債ヲ強制スル

トキハ國民ニ與フル害毒著大ナルヘシ往器諸國ニ於テ邪方法ハニ依リ非常ノ費用ヲ辨セントシ悉ク失敗ニ了リシバ又怪シムニ足ラサルナリ

佛蘭西ニ於テハ一千七百九十三年及ヒ一千八百十五年奧太利ニ於テハ一千七百五十年、一千七百六十年、一千七百九十四年、一千八百六年、一千八百五十年、一千八百五十九年西班牙ニ於テハ一千八百三十八年ニ於テ行ヘル強暴法ハ其ニ有名ナルモノニシテ其他、バーデン等ニ於テモ行ハレタルモ何レモ失敗ニ了リ一千七百九十三年佛蘭西ニ於テ募集ノ場合ハ四億圓ニ對シ四千萬圓ヲ得ルニ過キサリキ唯稍、成效ニ近カリシハ一千八百十五年ノ場合ニシテ其額ノ四千萬圓ノ少額ニ止マリシト當時那破翁連年戰亂ノ餘國民平和ヲ望ムコト切ニ政府ノ信用亦厚カリシヲ以テ年内ニ豫定ノ額ヲ得タルコトアリ

第二目 支拂強制公債

支拂強制公債モ其政治上、經濟上、財政上何レノ點ヨリ觀ルモ害毒ノ大ナルコト復タ言フ埃タス殊ニ證書ニ其當時ノ市價ヲ以テ支拂フコトナク額面價格即チ

平價ヲ以テ支拂フニ於テ殊ニ然リト爲ス佛國ニテ那破翁一世平價ヲ以テ支拂
 ヲ強制シ殆ト二割餘ノ損失ヲ債權者ニ負ハシメタリ蓋シ債權者カ物品供給ノ
 結果ナルト公債ノ所有者ナルトヲ問ハス多ク其支拂ニ因リ現金ノ收得ヲ豫期
 ヒルモノニ際シ猶ホ證書ヲ以テ交付スルトキハ必スヤ之ヲ賣却シテ現金ヲ收
 得セスンハアラス而シテ其收得金ハ證面額ニ比シテ固ヨリ少カルヘク尙ホ多
 少ノ手數ト時間ヲ要スルヲ以テ物品供給者ノ如キ此等事實ノ發生ヲ豫期スル
 トキハ其損失ヲ填補スルニ足ルヘキ價格タケ高ク賣込ムヘキハ當然ノ事理ニ
 シテ政府カ強制支拂ノ弊風ヲ學ヒテ偶々寸毫モ利スル所ナキニ至ルヘキナリ而
 シテ其證書交付ノ爲メ受クル所ノ損害ハ物品供給者其他大藏省證券ノ如キ短
 期公債ノ所有者ニ於テ大ナルヘキハ亦明カナリ信用ハ經濟社會ノ根底ヲ形成
 スルモノナリ若シ政府財政ノ不振ニ因リ現金支拂ヲ以テ難シト爲セハ債主ト
 信議シテ此カ支拂ノ延期ヲ爲シ又ハ他ノ證書ト借換ヲ爲スハ猶ホ可ナリ事
 公然普通ノ方法ニ依リ大藏省證券又ハ長期ノ公債ヲ起シ以テ信用ノ維持ヲ計
 フスンハアラサルナリ

第二項 間接強制公債

茲ニ間接強制公債トハ不換紙幣ヲ指スモノニシテ合法貨幣トシテ強制通用ヲ
 爲スモノナリ即チ買賣貸借等ニ於テ額面價格ヲ有シ何人ト雖モ之カ授受ヲ拒
 ムコト克ハサルモノナリ不換紙幣ハ利子ノ支拂ナク募集ノ費用ヲ要セス其原
 料品ノ價格發行ノ費用ノ如キ僅少ノ額ニ止マリ其モノ自體ノ利用價值ハ殆ト
 皆無ト謂フヘク殊ニ元金ノ銷却スル法律上制限ヲ受ケサルモノナルヲ以テ一
 種ノ直接支拂強制公債ニシテ債主不定ニ且ツ元利支拂ノ義務ナキモノナリ
 論者或ハ不換紙幣ノ發行ヲ以テ貨幣ノ吹換又ハ賈鑄ト同一ナリト極論スル
 者アレトモ不換紙幣ノ發行ハ貨幣ノ吹換ノ場合ノ如ク常ニ不正ノ手段ヲ包
 含セサルノミナラス其管理宜ヲ得ハ毫モ額面價格ヲ下ルコトナク財政危急
 ノ際ニハ唯一ノ良策トシテ偉效ヲ奏スルコトアリ
 不換紙幣ハ銀行ノ手形發行ニ濫觴シテ法律上政府又ハ銀行カ發行セシ紙幣ニ
 強制通用ノ性質ヲ與ヘ正貨ト兌換スルノ義務ナキモノナリ其發行ノ容易ナル

ヨリシテ現時各國ヲ通シテ盛ニ此制行ハレ其濫用ノ結果到ル處害毒ヲ流布シ「ウエプスター」氏ノ如キ紙幣ノ爲メニ吾人カ被リタル災害ハ實ニ甚シク人民ヲ殺戮シ國家ノ利益ヲ破壞シ正義ヲ亂リ其害毒造ニ戰爭レリト言フニ至レリ蓋シ不換紙幣ノ問題ハ貨幣論ニ於テ攻究スヘキモノニシテ茲ニハ之ヲ詳論スルノ機ナキカ故ニ唯財政上ノ點ヨリ此利害ニ付キ其梗概ヲ述フルニ止メントス

不換紙幣ハ積極ニ不換紙幣其モノヲ發行セラルル場合ト在來ノ兌換券ノ兌換ノ停止ヲ爲スト二箇ノ場合アリ前者ハ非常ナル財政困難ニ遭遇セルトキ又戰時等ノ事變ニ際シ豫メ巨額ノ經費ニ應スヘキ爲メ發行セラルルヲ常ト爲シ其例枚舉ニ違アラス後者ハ多ク一大銀行カ恐慌ニ遭遇シ又ハ營業上ノ失敗アリシトキ銀行カ信用ヲ恢復シテ融通ヲ爲シ得又ハ恐慌ノ經過スルマテ倒産ノ患ヲ避ケンカ爲メ行ハルルモノニシテ千六百九十五年ニ於ケル英國銀行千八百四十八年ノ佛蘭西銀行ノ如キ皆此趣旨ニ因リ支拂停止ヲ爲シタリ

不換紙幣ノ發行方法ニハ政府自體カ直チニ其要スル所ノ額ヲ發行スル場合ト

金融機關ヲ指定シテ其機關ヨリ政府所要ノ額丈ノ銀行紙幣ヲ納付セシムル場合トノ別アリ即チ後者ノ場合ハ銀行委託發行法ト稱セラレ主トシテ英佛ニ行ハルル方法ニシテ金融機關即チ銀行若クハ銀行組合ヲシテ其營業需要外ニ紙幣ヲ發行スルコトヲ許シ其責任ハ政府自ラ之ヲ負フモノニシテ銀行ハ唯假面ノ債主ニ過キス銀行ノ納付スル紙幣ニ付テハ銀行ハ毫モ資本ヲ要スルコトナク又之ニ對シテ正貨ト交換スルコトヲ要セス即チ無名ニシテ不定ナル眞ノ債主即チ國民ト政府ノ間ニ媒介保證ノ勞ヲ取ルモノニシテ其納付額ニ對シテ政府ヨリ受クル金ヲ利子ト云フモ其實ハ製造費其他ノ手數ヲ包含セル一種ノ報酬ニシテ債主ノ國民ニ對シテ政府カ債務ヲ負フニ於テハ政府自ラ發行スル場合ト異ナルコトナシ

不換紙幣ノ長處ハ政府租稅又ハ通常公債ノ方法ニ依ルコト能ハナルカ又能フヘキモ時日金額其他條件ニ於テ非常ナル困難ヲ來スニ際シ課稅又ハ起債ノ手數ト經費ヲ要セス隨時所要ノ額ヲ發行スルコトヲ得ル唯一ノ手段トシテ認メラルルニ在リ不換紙幣カ此特種ノ效果ヲ奏セシハ普佛戰爭後ニ於ケル財政整理

ノ歴史ヲ以テ好實例ト爲スヘシ普佛戰爭ノ大敗ニ因リ人命財産ヲ消耗セシコト固ヨリ算ナク戰後尙ホ巨額ノ償金ヲ支拂ヒ而モ十年ヲ出ナスシテ財政ノ整理其全キヲ告ケ能ク今日ノ佛蘭西アルヲ致セシハ實ニ不換紙幣ノ效ニシテ不換紙幣ニ依ルニアラスンハ又他ニ救正ノ手段ヲ見出タスコト克ハナリシモノナリトス

普佛戰爭ノ際「フール」ニ「ボルドニー」ニ設置セラレシ假政府ハ財源乏シク信用薄弱ニシテ抵當モ亦確實ナラス故ニ殆ト八分ノ利子ヲ以テ八千萬ノ公債ヲ募ルニ苦メリ此際政府ハ佛蘭西銀行ヨリ五億八千八百萬圓ヲ借受ケ戰爭中ハ六分ノ利子トシ戰爭後直チニ三分ニ下ケテ遂ニ一分ニ下ケタリ而シテ政府ハ千八百七十一年及千八百七十二年ニ公債ヲ募集シ其翌年又三億圓ノ公債ヲ募リ此年ヲ以テ全然不換紙幣ヲ銷却シ得ルニ至レリ然レトモ公債ハ其利子六分ナレトモ不換紙幣ノ借入利子ハ九厘二分中印紙稅一厘差引高ニ過キタルヲ以テ不換紙幣ヲ存スレハ公債總額四億四千萬圓乃至八千萬圓ニ付キ年年二千萬圓ノ利子ヲ利スヘキヲ以テ之ヲ保存シタリ而シテ千八百七十三

年以後ハ正貨ト紙幣ト價格相平均シテ民心安シ國民毫モ其害ヲ受クルコトナク千八百七十九年三月ヲ以テ不換紙幣ノ銷却ヲ告グルニ至レリ蓋シ不換紙幣ニシテ此ノ如キ著效ヲ奏セシハ政府ヲ始メ銀行及ヒ國民ハ一時ノ便宜手段トシテ直チニ兌換恢復ノ期ニ達スヘシト信シ當時ノ流通高ハ十二億圓ニ上リシモ一方ニ四億圓ノ正貨ハ一時ニ償金トシテ佛國ヲ去リシヲ以テ不換紙幣其後ヲ填メ正貨過多ノ獨逸ヨリ正貨ノ漸次復歸スルニ至リテハ紙幣又漸次銷却セラレテ金紙ノ價額其平均ヲ失ハス而シテ一方ニハ四億萬圓ノ多クハ爲替手形ヲ以テ支拂ハレ其手形ハ輸出超過佛國來遊外人ノ所持セル正金手形佛人所有ノ外國債利札等ヲ以テ成リ外國爲替ハ常ニ順境ナリシヲ以テ佛國ニ支拂額ノ超過ハ外國市場ニ於テ不換紙幣ハ金貨ニ對シテ却テ打歩ヲ生スルニ至レリ此ノ如ク千八百七十年ノ佛國不換紙幣ハ非常ノ場合ニ於ケル唯一ノ救濟手段トシテ財政上稀有ノ偉效ヲ奏セタリ或論者ハ千八百七十年ノ佛國ノ財政ニ付キ反論シテ曰ク當時佛國ニ於テハ經濟上積極ニ擾亂ヲ來シタルコトナシト雖モ其不換紙幣ノ價格ヲ維持シタ

ル所以ノモノハ一時數週間打歩千分ノ二十七ニ下落シタルコトアリ畢竟人爲ヲ以テ通貨ノ額ヲ制限シタルニ因ルモノニシテ獨逸ニ支拂ロタル債金ノ爲メニ大ニ通貨ノ額ヲ減少シ其拂底ヲ告クルノ際ナリシヲ以テ紙幣ト正貨トノ間ニ格段ノ差異ヲ見サリヤト雖モ既ニ人爲ニ因リテ通貨ヲ制限シ經濟上自然ノ運轉ヲ妨害シタルカ爲メ其發達進歩ヲ害セタルコト夥シク從來歐洲金融界ノ覇ヲ唱ヘシ佛國ハ其權力ヲ英國ニ奪ハルルニ至レリト此反論ニ對シテハ又多言ヲ用フルコトヲ要セス唯不換紙幣發行ノ爲メニ普佛戰爭ヲ開キテ大敗ヲ招キシニアラス戰爭大敗後ノ復舊策トシテ不換紙幣發行ノ手段ニ訴ヘシモノナルコトヲ知レハ足レリ戰亂ノ罪ヲ以テ其戰敗ニ對シ偉效ヲ奏シタル不換紙幣ニ嫁セントス論理ノ矛盾亦甚シト謂フヘキナリ

上述スルカ如ク不換紙幣ハ固ヨリ絕對ニ非難スヘキモノニアラサルノミナラス財政上異常ノ場合ニ於テ特種ノ效果ヲ奏スルモノナルニ拘ラス多數ノ學者カ猶ホ不換紙幣ニ付キ其弊害ヲ舉ケテ之ヲ非難スル所以ノモノハ要スルニ不換紙幣ハ濫發セラルルヲ常ト爲スニ在リ即チ各國財政ノ沿革ニ徵スルモ不換

紙幣ノ發行ハ夫敗ニ了ルヲ以テ例ト爲シ不換紙幣其モノヲ以テ直チニ此カ濫發ノ害毒ヲ聯想セシムルニ在リ蓋シ不換紙幣發行ノ度數及ヒ發行額ノ多キニ過クルコト即チ不換紙幣ノ濫發ハ一ニ其發行ノ容易ナルニ存ス而シテ其濫發ノ害毒ノ大ナルハ一ニ其屈伸力ヲ有セサルニ存ス即チ利用價值ヲ有スル正貨又ハ常ニ正貨等ノ準備額ニ比例シテ増減スル兌換紙幣ニ在リテハ貨幣ノ價格ノ高下ハ直接間接ニ國際貿易ニ依リテ此カ均衡ヲ保持スヘキモ國外ニ流出セサル不換紙幣ハ忽チ國內流通貨幣ノ膨脹ト爲リ價格ノ暴落ヲ告ケ物價ノ暴騰ヲ來スモノナリ即チ其濫發シ易キ所以ハ利用價值ナキ一ノ紙片タルニ存シ又同時ニ其害毒ノ大ナルヘキコトヲ示スモノナリ「ホワイト氏カ「アッシニヤ」證券ノ發行ニ付キ物理學上物體ノ高所ヨリ加速度ヲ以テ墜落スル原則ハ等シク不換紙幣増發ノ場合ニ生スル現象ニシテ財政上及ヒ經濟上戰慄スヘキ害毒ノ附隨スルニ拘ラス世人ハ恰モ醉狂者ノ如ク物價ノ騰貴事業ノ勃興等一時假面ノ現象ニ眩惑シ害毒ノ浴ク浸蝕セラルルニ及ヒテ始メテ其非ヲ悟ルモノナリト曰

ヘルハ又此理ヲ形容セルモノナリ

第十八世紀ノ終リ及ヒ第十九世紀ノ初ニ在リテハ諸國ノ人民紙幣ノ爲メニ損害ヲ被リシ者少カラス英國ニ於テハ一方ニハ自家ノ存亡ニ關聯シテ政府ノ行動ヲ牽制シ一方ニハ一般金融界ノ狀態ニ通曉セル銀行ノ手ニ由リテ發行セルモ猶ホ不換紙幣ノ下落ハ二割五分二五ニ達シ高下常ナク頗ル經濟界ヲ苦シメタリ然レトモ遂ニ銀行ノ破産ヲ見ルニ至ラザリシハ仍ホ銀行ニ由リテ發行セシメシメシ效果ニシテ彼ノ北米合衆國佛蘭西埃太利ノ如キニ至リテハ不換紙幣暴落ノ極殆ト其價格ヲ失墜シ破産ノ慘況ヲ見ルニ至レリ

佛國ノ「アツシニヤ」證券ハ利子及ヒ期限ヲ附シテ支拂ヲ爲スヘキ質入證書トシテ發行セラレシモノニシテ一年ヲ經スレテ千七百九十年五分ノ利子ハ三分ト爲シ尋テ同年中全ク無利子ト爲シタリ千七百九十二年ニハ發行高八億萬圓ヲ超エ每年國內ニ増加スル貯蓄高及ヒ該證書ヲ償却スヘキ資本金ト其權衡ヲ失スルニ至リ隨テ期限來ルモ償却セラレコトナク一種ノ強制紙幣ト爲リ其後連年濫發セラレテ千七百九十三年ニハ流通高八十億圓ニ上リ千七百九十六年二月十九日ニハ千七百八十九年以後ノ發行ニ係ル「アツシニ

ヤ」紙幣ノ高百八十二億餘圓當時ノ流通高百六十億圓ノ巨額ニ達シ二十四「アツシ」ノ金貨ハ七千五百「アツシ」ノ「アツシニヤ」紙幣ト交換セラルルニ至レリ是レ「アツシニヤ」紙幣ハ増發スルモ價格ヲ損セサルヘシトノ謬見ノ外ニ土地ヲ以テ貨幣ノ補助若クハ代用物ト爲ス紙幣ノ基礎ヲ爲スヘキコトヲ唱道シ十八世紀ノ初ニ於テ失態ヲ現ハセシ「ジョンロー」愚ヲ再演セシモノナリ後千七百九十六年拂下殘リノ官有地ヲ抵當トシ「マンダー」テレトリヤル下稱スル土地抵當紙幣九億六千圓ヲ發行シ「アツシニヤ」紙幣ノ三十倍ノ價格ヲ以テ交換ヲ爲スコトトシ破産ノ失態ヲ自白シテ辛ウシテ「アツシニヤ」濫發ノ害毒ヲ瀾絶スルニ至レリ

埃太利ニ於テモ千八百十年ニハ不換紙幣ノ發行高十億圓ヲ超エ千八百十一年ニハ「國家屢」不幸ニ遭遇シ物價騰貴シ紙幣ノ價格益々下落シ日高低常ナク銀貨百「フローリン」ヲ以テ紙幣千二百「フローリン」ニ交換セシコトアルニ至レリ云云ノ勅諭ト共ニ不換紙幣ノ通用ヲ止メ引換紙幣ナルモノヲ發行シテ五倍ノ價格ヲ以テ交換スルコトト爲セリ是レ佛國ノ「マンダー」テレトリヤ

ル同一ノ窮策ニ出クシモノナリ其後屢兌換制度ニ復セントセシモ常ニ政
 治上ノ動搖ニ由リ之ヲ果スコト克ハサルハ世人ノ知ル所ナリ
 此他千八百六十一年以降南北戰爭ニ於ケル北米合衆國ノグリーン、ペーパー
 千八百六十六年伊埃戰爭後ノ伊太利ノ不換紙幣クリミヤ戰爭ニ於ケル露西
 亞ノ不換紙幣ノ如キ皆其失態ノ歸スル所ハ不換紙幣其モノニアラスシテ之
 ヲ處理スル方法ノ不可ナルニ基因セシコト復タ言フ埃タサルナリ
 不換紙幣濫發ノ害毒ヲ便宜ノ爲メ列舉スレハ左ノ如シ是レ唯リ不換紙幣ノ
 ミニ限ラス一般ノ公債濫發ニ於テ等シク附帶スヘキ現象ナリトス

第一 社會政治上ノ弊害

- イ 投機心ヲ挑撥ス
- ロ 奢侈ノ風ヲ馴致ス
- ハ 背徳ノ弊ヲ助長ス
- ニ 勞働問題ヲ誘起ス

第二 經濟上ノ弊害

- イ 紙幣下落シ物價騰貴ス
 - ロ 正貨ノ流通停止シ正貨ハ海外ニ流出シ又ハ銷解セラレ若クハ貯藏セ
 ラル
 - ハ 事業ノ急激ナル濫興及ヒ其挫折
 - ニ 貸借關係ノ紊亂
 - ハ 投機事業ノ誘發及ヒ恐慌ノ發生
 - ヘ 勞銀ノ實價ヲ減少シ貯蓄ヲ阻害ス
 - ト 濫費ニ伴フ資本増殖ノ抑制
 - チ 貧富ノ動搖急激ニ失シ分配ノ秩序ヲ亂ス
 - リ 濫發紙幣銷却ノ方法ヲ執ルモ一時市場ノ溢滞ヲ來シ各事業ノ進捗ヲ
 破壊ス
- 第三 財政上ノ弊害
- イ 政府信用ノ基礎ヲ弱メ將來ノ起債力ヲ減殺ス
 - ロ 政府發行ノ他ノ證券ノ價格ヲ低落ス

法政大學圖書印

は 政府内外ノ行動ニ應スル實力ノ伸張ヲ失フ

に 收入ノ實力ヲ減殺シ經費ヲ増加ス

は 民力ノ疲弊ニ伴ヒ納稅力應募力ヲ弱ム

不換紙幣濫發ノ害毒ハ貨幣需要ノ増加ニ因ルカ若クハ紙幣銷却ノ方法ニ訴フルノ外善後策ナキモ前者ハ事實ニ於テ之ヲ望ムコト難ク後者ハ一時金融ヲ引締ムルニ因リ從來勃興セシ諸種ノ事業中道ニ挫折シテ市場ノ滯滯ヲ來シ下民ハ職ニ離レテ益々困憊ヲ重テ上流社會ハ奢侈ニ馴致セルノ餘又非常ノ苦厄ヲ受ケスンハアラス此ノ如ク不換紙幣濫發ノ害毒ハ大ニシテ且ツ之カ救正ニ難キヲ以テ此カ濫發ヲ慎ムヘキコト論ナク若シ之ヲ發行セサルヘカラサル時期ニ際會セハ宜シク金融市場ノ狀況ヲ觀察シテ正貨ト紙幣ノ間ノ權衡ヲ失ハサラシコトヲ力メ一方ニハ又外國貿易ノ順逆ヲ精査シテ外國爲替ノ逆戻又ハ順適ニ伴ヒテ紙幣ノ流通高ヲ緊張スル等金紙平分法ト外國爲替平分法トヲ併セ照應シテ内國ニ流通スル正貨ノ額ト紙幣ノ額トノ間ニ平均ヲ保持スルコトヲ要ス英國等ニ於テ不換紙幣ノ害毒比較的少カリシモ普佛戰後ノ佛蘭西ノ財政ノ

倣功ヲ奏セシモ其ニ金融界ノ狀況ニ通曉セル銀行ノ經理ニ任シタルコト又其

一 因タルコト明カナリトス

我邦維新以後ノ貨幣ノ變遷ニ付テ見ルモ明治元年政府カ太政官札ヲ發行セシ當時ハ人民未タ之ニ馴レタルト政府ノ信用未タ薄弱ナリトニ因リ流通類ル困難ヲ極メ或ハ紙幣ヲ以テ納稅スヘキコトヲ命ジ或ハ紙幣ノ相場ヲ立テ或ハ正金ノ引替ニ打歩ヲ取ル者ヲ罰スル等訓告勸誘至ラサル所ナカリシカ當時紙幣ノ價格低落シ流通ノ困難ナリシハ發行額ノ過多ナルニアラスシテ信用ノ薄弱ナルニ基因セシヲ以テ信用ノ朝野ヲ通シテ發達スルト其ニ太政官札ハ一般ニ流通シ遂ニ正貨ニ對シ打歩ヲ生スルニ至レリ然レトモ一方ニハ藩札ノ交換歲入ノ填補其他十年ノ役ノ爲メ年年増發ノ必要ヲ生シ明治十一年末ノ新紙幣ノ流通高ハ一億千九百八十萬餘圓ニ上リタリ而シテ政府ハ一方ニハ紙幣増發ニ伴フ輸入ノ超過正貨ノ流出ヲ以テ通貨ノ缺乏金融ノ逼迫ニ因リテ内國生産業ノ不振ナルニ在リトシ政府紙幣整理ノ爲メ設立セラレシ國立銀行ヲシテ公債ヲ抵當トシテ紙幣ノ發行ヲ許シ又從來正貨ト交

換スヘキ銀行紙幣ヲ政府紙幣ト交換シ得ルコトトシ不換紙幣發行ノ制ヲ立
 テシヨリ國立銀行ハ十年ヨリ十三年マテニ三千五百萬圓ニ近キ紙幣ヲ發行
 スルニ至レリ之ニ二千萬圓ノ豫備紙幣ノ流通高ヲ合算スレハ一億七千萬圓
 ノ紙幣ヲ見ルニ至リシヲ以テ紙幣ノ銀貨相場ハ明治十年ヨリ漸次下落シ十
 四年四月ニハ一圓七十九錢五厘ニ上リタリ當時政府已ニ當初ノ謬見ヲ自覺
 シ十一年以來大ニ紙幣整理ノ事ニ注意シ十三年後酒造稅ヲ改正シ地方稅支
 辨ノ費目ヲ増加シ諸官省ノ經費ヲ節減シ金札引換證書條例ヲ改正シ紙幣ノ
 償却ト正貨ノ貯蓄ニ勉メ中央銀行ノ設立國立銀行條例ノ改正ト爲リ遂ニ十
 八年ニ至リ銀紙ノ價格平分シ紙幣ハ減少シテ八千八百餘萬圓ト爲リ兌換紙
 幣ノ制度ヲ確定シ國立銀行紙幣モ昨年十二月九日ヲ以テ通用期限ヲ滿了ス
 ルニ至リタリ即チ我國ニ在リテモ不換紙幣ハ一時五割五分ニ下落セシモ其
 總額ノ僅少ナリト直チニ之カ整理ニ從事セシヲ以テ害毒ヲ遠シウスルコ
 トナカリシハ我國ノ至幸ト謂フヘシ彼ノ藩札引換其他十年ノ役等ノ爲メ紙
 幣ノ増發アリシハ不可ナキノミナラス若シ明治九年ノ國立銀行條例ノ改正

ナク紙幣整理ノ方針ヲ一貫スレハ十年以後銀紙ニ付キ殆ト差異ヲ見ルコト
 ナクシテ結了セシヤモ知ルヘカラス不換紙幣ノ害毒ヲ生シ易ク而モ不換紙
 幣其モノハ國家事變ニ際スル財政上特殊ノ方策タルコト復タ言フ埃タサル
 ナリ

第二款 任意公債

第一項 愛國公債

愛國公債ハ又勸誘國債ト稱シ國民ノ愛國心ニ訴ヘ政府ニ利益多キ條件ヲ以テ
 募集スルモノニシテ強制公債ノ如ク國家命令權ノ作用ニ出ツルニアラスシテ
 唯國民ノ感情ニ訴ヘテ勸誘スルニ過キス故ニ一部少數ノ人民ノ義捐ニ浴スル
 コトヲ得ヘキモ到底政府所要ノ巨額ノ資金ヲ愛國公債ニ依リテ求メシコトハ
 不能ノ事理ニ屬スルモノナリ要スルニ愛國公債ナルモノハ公債ノ一分類トシ
 テ看ルヘキ價值ナキモノニシテ唯政府ノ勸誘行爲カ附帶スルコトト一般ニ其
 利子ノ低キコトト内國債ニ限ラルルコトヲ常ト爲スヲ極度トシ而モ通常ノ公

債ニシテ愛國公債ヨリ低利ナルモノアルヘク政府積極ニ勸誘セザルモ軍事公債等ニハ實質ニ於テ國民ノ愛國心ハ比較的の低利ヲ以テ巨額ノ募集ニ應スルコトアリ

之ヲ要スルニ國民ハ一般ニ愛國ノ情ヲ缺クコトナキハ疑ヲ容レサルト同時ニ其愛國ノ情カ又自愛ノ情ニ比シテハ到底數歩ヲ輸スヘキコト亦明カナリ方今財政ノ發達ト共ニ一國ノ金融市場ヲ擾亂スルコトナク資本ヲ外國ヨリ輸入シテ其臨時ノ需要ヲ充タシ後徐徐トシテ之カ償却ヲ計ルノ方便ヲ有スルノ際内國市場ヨリ巨額ノ資金ヲ吸收スルハ又策ノ得タルモノト謂フヘカラス愛國公債ノ利益ハ其利子ノ低キニ在リト云ハンカ政府ノ利スル所ハ債權者ノ損失ナリ一國ノ富ニ於テハ其間ニ寸毫ノ軒輊ナキト共ニ爲メニ金融市場ヲ動搖シ人心ニ不快ノ念ヲ抱カシムル損失ニ比スレハ又以テ之ヲ償フニ足ラサルナキヲ保セス況ヤ愛國公債其モノカ古來各國ニ於テ之カ失敗ヲ事實ニ於テ證明スルニ於テラヤ

當府公債ヲ起スノ必要急迫ナル時ハ其ヨリ生スヘキ義務ノ負擔亦益々重カル

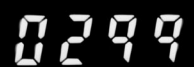
ヘキ時ニシテ政府カ國民ノ愛國心ニ訴ヘ低利ノ公債ヲ起サントスル時ハ通例ノ方法ニ依ルトキハ非常ノ高利ヲ支拂ハサルヲ得サル時ナリ佛蘭西ノ千八百三十年千八百四十八年ノ革命ノ際共ニ國家ノ事態頗ル急ニシテ國民ノ愛國心最モ熾ナリシ時ナリ佛蘭西政府ハ國民ノ愛國心ニ訴ヘテ此際國民ハ私利ヲ捨テテ政府ヲ助クヘシ政府ヲ助クルハ偶以テ自ラ助クル所以ニシテ又公共ノ秩序恢復セラレ凡百ノ事業勃興スルニ至ルヘキ旨ヲ鼓吹セシモ共ニ奏功スルコトナク千八百三十一年ノ際ハ五分利附平價ノ募集ニ對シテ僅ニ二千四十三萬餘法ヲ得ルニ過キサリキ當時國內ノ富有者間ニハ殊ニ政府ノ人望厚キヲ加ヘ一般ノ愛國心又大ニ挑撥セラレタル際ニ拘ラス猶ホ此ノ如キ狀況ヲ呈シ千八百四十八年ノ交ニ在リテハ五分利附平價ヲ以テ募集額一億法ニ對シ應募額僅ニ二千六百餘萬法ニ止マリ其他伊太利諸國ニ於テ施行セラレシ愛國公債モ亦之ト同一ノ失敗ヲ以テ了リタリ

第二項 契約公債

財政學 兼支通論 公債ノ分類 強制公債ト任意公債

契約公債トハ政府カ定期中又ハ無定期ニ支拂又ハ支給ヲ約束スルモノニシテ、
 特定人ニ對スル場合ト不特定人ニ對スル場合トアリ再分シテ支給又ハ支拂約
 束及ヒ特別借入ノ二ト爲ス。一、特別借入ノ場合ニ於テハ、
 支給又ハ支拂約束ニシテ特定人ニ對スル場合ハ彼ノ私人ニ若干年間若クハ或
 事故ノ存在又ハ不在中ニ限り與フル補給金恩給金等ニシテ通常支給約束ト謂
 ヒ不特定人ニ對スル場合ハ政府發行ノ兌換若クハ不換紙幣ニシテ通常支拂約
 束ト謂フ後者中不換紙幣ニ屬スヘキモノハ前款間接強制公債ニ於テ之ヲ詳述
 セリ兌換紙幣ニ付テハ次節流動公債中財政上ノ公債ノ下ニ於テ之ヲ述フヘク
 又前者中恩給其他ノ支給約束ハ同シク次節流動公債中行政上ノ公債ノ處ニ於
 テ之ヲ述フヘク茲ニハ主トシテ前者中通常補給金ト稱スルモノヲ一言スヘシ
 補給金ハ通常政府カ或會社或ハ地方ノ共同體ニ對シテ補助金ヲ與フルコトヲ
 約束スルカ若クハ行政上ノ處分ニ由リテ政府カ私立會社ノ會計及ヒ管理ヲ擔
 當スルニ因リテ生スルモノニシテ契約ニ因リテ生スル給與金ハ人民ノ負擔上
 ニ於テハ恰モ政府カ年金ヲ起シテ事業ヲ企圖シ之ニ對シ年賦ヲ支拂フニ異ナ

ラス其財政上費用ヲ増加スルハ公債ノ増募セルト相異ナルコトナシ蓋シ給與
 金ヲ與フル多數ノ場合ハ公共ノ利益ヲ目的トスル事業ノ獎勵擴張ヲ期スル場
 合ニシテ築港、運河、航海、鐵道等ノ如ク經濟上、軍事上重要ナル關係ヲ持スルモノ
 ニ於テ殊ニ然リト爲ス而シテ其補給金ヲ與フル方法ハ大畧分テテ次ノ三種ト
 爲ス。一、單純ナル補給金。二、起業ノ完成ヲ目的トスル補給金。三、利子ノ補給金。
 此等ノ補給金ニシテ利子ヲ附スルアリ又ハ附セザルアリ又第三ノ場合ノ如キ
 利子カ一定ノ額ニ充ツルマテ補給スルト同時ニ一定ノ額ヲ超過セル場合ニハ
 返還ヲ命スルアリ又此等三種ノ外政府カ株主ト爲リテ巨資ヲ投シ實質上ノ補
 給ヲ爲ス場合アリ其孰レノ方法ヲ採ルニ拘ラス巨額ノ給與金ヲ與スル場合ニ
 ハ爲メニ事業公債ヲ起スコト稀ナリトセス而モ其被補給者ニ對シテ契約上法
 律命令ノ規定ニ依ル場合アリ政府カ債務ヲ負フニ於テハ一ナリトス固ヨリ年



ナル所ナリトス

特別借入トハ銀行其他ノ特定人ヨリ契約ニ因リ借入ルルモノニシテ通常私人間ニ於ケル貸借關係ト其性質相似タリ但シ場合ニ依リテハ利子ヲ附セザルコトアリ各國通例中央銀行ニ對シテ借入ルルヲ例ト爲シ其借入ノ方法ニ至リテハ或ハ交互計算ニ依ルアリ爲替ニ依ルアリ擔保ヲ附スルハ現時殆ト稀ニ見ル所ニシテ唯直接間接ニ銀行ニ特權其他ノ利益ヲ付與スルコト多ク其最モ生シ易ク且ツ弊害大ナルハ其貸出銀行ニ紙幣ノ發行權ヲ許シ又ハ其權限ヲ擴張スルニ在リ蓋シ特別借入ノ高多キニ上ルトキハ銀行ハ勢ヒ之ニ應スルカ爲メ市場ノ通貨ヲ吸收シ物價ノ下落金融ノ逼迫ヲ來スヲ以テ少クトモ其借入當時ニ於テ流通貨幣ノ不足ヲ告クルヲ例トス隨テ巨額ノ借入ハ間接ニ不換紙幣濫發ノ導火ト爲ルヘキモノニシテ黨國政府カ信用ノ薄弱ナルヨリ公債ノ募集ヲ爲スコト克ハス盛ニ中央銀行ヨリ借入ヲ爲セシ時又等シク此失敗ヲ招キタリ蓋シ借入ノ性質タルヤ毫モ非議ヲ容ルヘキモノニアラザルモ其借入ノ條件ノ寬嚴之ニ伴フ間接ノ利害ハ當路者ノ大ニ注意スヘキ點ニシテ彼ノ我政府カ明治

十年ノ役ニ第十五銀行ヨリ征討費トシテ一千五百萬圓ヲ借入レシ場合ノ如キ其據置期限ヲ銀行ノ營業期間ト爲セシカ如キ長期間ノ高利ノ支拂ヲ約束セシモノニシテ借入ノ條件ニ於テハ成功セルモノト謂フヘカラサルモノナリ

第三項 通常公債

通常公債又商業的公債ト云フハ多クノ著書ニ於テ所謂任意國債ト稱セラルルモノナリ余カ任意公債ノ下ニ愛國公債契約公債通常公債ト分類セシハ單ニ字句ノ末ニ付テ爭フニハアラス此三種ヲ總稱シテ廣義ノ契約公債ト稱スルモ亦可ナリ三種共ニ應募者カ國家命令權ノ作用ニ由リテ強制セラルルコトナク各自自由意思ヲ以テ政府ト締結シタル契約ニ依ル公債タルニ於テ一タレハナリ唯特ニ政府ノ勸誘ニ基クモノト政府ノ勸誘ニ基カスシテ或特定人ニ對シテ契約ヲ結ヒシ場合ト不特定人ニ對シテ契約ヲ結ヒシ場合ニ付キカ分類ヲ設ケシニ過キササルナリ

通常公債トハ政府カ元金拂込高利子ノ歩合元金ノ償還ノ有無又ハ方法拂込ノ



順序其他各種ノ體様ヲ公布シ不特定人ノ自由意思ニ訴フルモノナリ政府強制力ヲ用フルコトナク勸誘手段ヲ行フコトナク一ニ各個人ノ利己心ニ放任スルモノナリ故ニ其公債ノ成功ノ如何ハ一ニ金融市場ノ狀態政府ノ信用ノ厚薄募集條件ノ體様ノ如何ニ存ス若シ其條件ノ體様カ普通ノ事業ヲ營ム場合ヨリ利益少キトキハ私人ハ其既ニ投下セル資本ハ之ヲ回收スルコトナク又未タ投下セサル資本ハ普通事業ニ吸收サルヘク若シ利益大ナルトキハ浮動ノ資本ヲ吸收スルノミナラス又投下セル資本ヲモ回收スルニ至ルヘキハ言フヲ埃タサルナリ是レ最モ合法ニシテ且ツ公平ナル手段ニシテ現時公債ノ大部分ハ總テ通常公債ニ依リ通例世人ハ公債ナル意義ヲ以テ直チニ通常公債ト爲スニ至レリ其分類批評ハ便宜ノ爲メ之ヲ次節ニ譲リ其募集ノ如何ハ之ヲ公債募集ノ章ニ於テ詳述スル所アルヘシ

第五節 流動公債及ヒ確定公債

第一款 緒論

流動公債ト確定公債ノ區別ハ單ニ期間ノ長短ヲ以テ之カ標準ト爲スコトヲ得ス又其期間ト雖モ固ヨリ其間ニ絕對ノ區別存セルニハアラス蓋シ二者ノ區別ハ其期間ノ長短ノ外ニ其募集ノ目的其體様ノ性質等ニ於テ大ニ其趣ヲ異ニセルモノアリ今二者ノ相異ナル點ノ重ナルモノヲ列擧スレハ次ノ如シ

第一 償還ノ時期ハ流動公債ニ在リテハ短期ニ限ラレ確定公債ニ在リテハ長期ヲ例ト爲シ時ニ無期ノ場合ナシトセス但シ其長期ト云ヒ短期ト云フハ相對的ノ語ナルハ前ニ述フル所ノ如シ

第二 起債ノ目的ハ流動公債ニ在リテハ國庫一時ノ不足ヲ補ヒ又ハ一年度ノ不足ヲ補フカ爲メ後年度ノ收入ヲ以テ之カ償還ヲ期シタルモノニシテ確定公債ニ在リテハ國家カ多少永續ノ行動ノ資ニ供スルモノニシテ短期ノ收入ヲ以テ償還ヲ期シ難ク又ハ短期間ノ償還ヲ以テ不利ト爲スモノナリ

第三 支拂請求權ノ擔保ハ流動公債ニ在リテハ期限其他ノ條件ニ於テ廣ク認メラルルモ確定公債ニ在リテハ支拂請求權ノ效力少ク時ニハ全ク支拂請求權ノ存在セサルコトアリ所謂支拂請求權ノ少キコトハ政府ノ信用上財政ノ整理



上最も便宜ト爲ス所ニシテ一方ニハ又債權者ニ於テ毫モ不利ヲ感セザル點ナリトス

第四 元金利子ノ歩合其償還支拂等總テ公債ノ體様ニ關シテハ流動公債ニ在リテハ變動常ナキヲ例トシ確定公債ニ在リテハ法規ノ下ニ其條件期限等明カニ制定セラル是レ確定流動ノ名稱アル所以ニシテ所謂憲法第六十二條第三項ニ於テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキ國債トハ國家自體ノ起債スル確定公債ヲ指スモノニ外ナラサルナリ

第五 公債ノ性質ニ於テハ流動公債確定公債共ニ財政上ノ公債ナリト雖モ流動公債ニ在リテハ別ニ國家行政上ノ目的ニ出ツル債務ヲ包括ス所謂行政上ノ流動公債ト稱セラルルモノ是ナリ

第二款 流動公債

第一項 行政上ノ流動公債

第一目 緒論

行政上ノ流動公債トハ其類ノ一定セス期間ノ短期ニ限ラルル等流動公債ノ特質ヲ保有スルモ其公債自體ノ性質ハ以テ財政上一年度又ハ數年度ニ亘ル收支ノ適合ヲ目的トスルニアラス其公債ハ政府カ財政上ノ機能ニ充ツルモノニアラスシテ單ニ行政上ノ目的ニ出ツルモノナリ故ニ其公債ノ數額及ヒ種類ハ其行政ノ組織如何ニ存シテ財政上ノ點ヨリ觀察スレハ全ク利害ノ外ニ超脱スルモノナリ隨テ行政上ノ流動公債ハ本來收支適合論ノ下ニ論スヘキモノニアラスシテ又通常世人ノ傳唱スル公債其モノニアラス單ニ行政上ノ目的ヨリ政府カ債ヲ所ノ債務ナリトス

行政上ノ流動公債ニハ自動的ニ生スルモノト他働的ニ生スルモノトアリ自動的ニ生スルモノハ身元保證金俸給差引預金積立金裁判上ノ保證金等ニシテ形式實質共ニ行政上ノ公債タルモノ多シ他働的ニ生スルモノハ所謂郵便貯金郵便生命保險郵便年金其他預金ノ類ニシテ形式上純然タル行政上ノ公債タルモ實質上財政ノ上ニ效果ヲ與フルコト尠シト爲ササルナリ

行政上ノ公債ニ付キ逐次之ヲ論述スルコトハ利益少ク且ツ本論ノ要旨トスル



所ニテラナルヲ以テ茲ニ身元保證金俸給差引預金及ヒ郵便貯金ニ付キ其大體ノ概念ヲ述フルニ止メントス

身元保證金ハ行政上ノ目的ヨリ主トシテ官吏ニ強制スル行政上ノ債務ナリ金錢物品ノ出納ヲ爲ス官吏其職務取扱上故意又ハ過失ニ因リ政府ニ損害ヲ生セシムルカ如キ官吏ノ賠償責任ノ擔保トシテ就職ノ際政府ニ納付セシムルモノニシテ其大小ハ一ニ職務ノ輕重種類ニ由リテ之ヲ定メ預金局ハ納付ノ日ヨリ一定ノ利子ヲ付シ退職後責任ノ解除ヲ待テ之ヲ併セ返還スルモノナリ但シ保證金ノ種類ハ現金ノ外ニ確實ナル有價證券ヲ許ス例ト爲セリ工事又ハ物品請負人ノ身元保證金ノ如キ又大體ニ於テ其趣ヲ一ニスルモノニシテ共ニ其額期間ノ變動常ナキ點ニ於テ行政上ノ流動公債タリ

俸給差引預金トハ官吏在職中其俸給ノ幾分ヲ控除シテ在職中政府之ヲ強制保管シ一定ノ利子ヲ附シ退官又ハ死亡ニ際シテ之ヲ返還スルモノナリ即チ俸給差引預金ノ本旨ハ官吏カ一旦職務ヲ離レシ場合ニ於ケル困難ヲ減殺スルニ在リテ一種有期ノ預金ト視ルコトヲ得ヘシ然レトモ此種ノ預金ハ拂戻ヨリ預入

第二目 郵便貯金

ノ多キヲ原則ト爲スヲ以テ不意ニ巨額ノ差引ニ遇フノ危險少ク強テ政府ハ實質上國庫融通ノ手段ニ供シ重ニ恩給資金トシテ之ヲ使用スルヲ常ト爲スモノナリ

郵便貯金ハ行政上ノ公債ニシテ又實質上財政上ノ公債ノ效用ヲ爲スモノナリ蓋シ政府ガ貯金ノ制度ヲ設ケシハ主トシテ國民ノ貯蓄心ヲ養成スルニ存ス故ニ貯金高ノ絕對的ノ增加ハ固ヨリ國家ノ望ム所ナリト雖モ相對的ノ增加トシテハ金額ノ大小即チ預入高ノ増加ヨリモ預ケ人ノ増加ヲ目的ト爲スモノナリ是レ一般ニ政府ノ貯金ニハ一人ノ預入額ニ制限ヲ附シ又其金利ノ歩合ハ常ニ一般市場ノ金利ニ比シテ低下セル所以ナリ乃チ政府ハ營業トシテ無制限ノ預入ヲ許シ金利ヲ高メテ民間ノ貯蓄銀行又ハ普通銀行ノ預金ト競争スルノ意思ナキコト明カナリトス

我國郵便貯金ノ制度ニ依ルモ貯金ノ預入ハ一人一口ニ限ラレ預入制限高ハ

從來千圓ト爲セシヲ明治二十三年ヨリ五百圓トシ金利ノ如キモ明治八年ニハ三分ナリシカ一年毎ニ一分ヲ引上ケ明治十一年ニ至リテハ六分ト爲シタリ而シテ明治十四年ニ至リ之ヲ七分二厘ト爲シ明治十八年ニ及ヒテハ之ヲ復舊シテ六分ト爲シ翌年之ヲ四分二厘ニ引下ケ爾來此利率ヲ繼續シ遂ニ昨年四月ニ至リ六厘ノ引上ヲ斷行セリ而シテ此等ノ利子ハ常ニ當時ノ民間ノ利子ニ比スレハ常ニ平均二分ヨリ三分ノ低利ト爲セルモノナリ

政府ハ一般國民ノ貯蓄ノ念ヲ養成セントスルニ拘ラス金利ヲ低減シ預入高ニ制限ヲ置クハ一見相矛盾スルカ如キ觀ナント爲ササレトモ蓋シ一方ニハ少クトモ政府ハ民間ノ銀行ト同一又ハ以上ノ利子ヲ以テ競争スルコトハ多額ノ支出超過ヲ豫期スルニアラサレハ事實困難ナルノミナラス別ニ此等ノ不利益ノ條件ト相殺スヘキ利益アル條件少シト爲サス今其重ナルモノヲ舉クレハ之ヲ絕對ノ利益條件ト相對的ノ利益條件トニ區別スルコトヲ得ヘシ

第一 絕對の利益條件 此ニ所謂絕對の利益條件ト稱スルハ主トシテ其機關普及ノ點ニ在リ蓋シ民間ノ銀行ハ皆營利ヲ目的トスルモノナルヲ以テ其

取引高ノ稀少ナル所ニ之カ機關設備ノ普及ヲ見シテ固ヨリ期スヘカラス故ニ銀行ノ營利ノ方面ヨリ見レハ商工業ノ隆盛ナル都市ニノミ之カ機關ヲ設備セント至當ノ事理ニ屬スト雖モ全國國民ヲシテ貯蓄ノ念ヲ養成セシメントスル政府ノ方面ヨリ見レハ文化發達セス人口又稀少ナル地殊ニ居常財産ノ安全ヲ保シ難キ地ニ於テモ亦久シク之カ利便ヲ享有セシメスンハアラス然ルニ政府ハ都鄙ヲ通シテ全國ニ普ク郵便局ヲ施設シ其業務ノ傍貯金ノ事務ヲ附帶シテ經營スルヲ以テ僻陬ノ地ニ在ル者及ヒ臺灣ノ如キ財産ノ安全ニ付キ一般國民カ未タ危懼ノ念慮ヲ懷抱セル土地ニ在ル者ニ對シテハ重要ナル預金ノ機關タリ故ニ臺灣等ニ在リテハ現ニ預金セル預入人ノ職業別又ハ預入高ヲ見ルニ官吏及ヒ軍人ハ預入人ニ於テハ六割弱預入高ニ於テハ八割強ヲ占ムルヲ見ルナリ是レ少クトモ政府ハ民間ノ金融機關ヲ設備ナキ地ニ於テ之カ制度ノ存在ノ必要ナルコトヲ證明スルモノナリトス

第二 相對の利益條件 此ニ所謂相對的の利益條件トハ主トシテ國家ノ信用ヲ指スモノナリ蓋シ民間ノ銀行ト政府ト相對照スレハ確實安全ノ點ニ於テ

ハ政府ハ遂ニ勝ル所アルノミナラス未タ信用經濟ニ慣レサル階級及ヒ政府ニ對シテ絕對の信用ヲ置ク階級ハ何レノ時ト所ヲ問ハス存在スヘキノミナラス又利子ノ多少ニ付テ利害關係ヲ置カサル者モ亦少シト爲サス此等ノ團體ニハ下級團體ニ於テ殊ニ多ク又農業者官吏軍人等ノ多數ヲ占ムルモノナリ而シテ此等ノ團體ハ決シテ文化ノ進歩ニ伴ヒ減少セラルヘキノニアラサルヲ以テ苟モ國家自體ニシテ信用ヲ失フニアラスンハ必スヤ國家ノ信用ヲ基礎トシテ或一部階級ノ貯金ニ對スル唯一ノ機關タラスンハアラサルナリ利子歩合ノ低減ト預入高ノ制限ハ已ニ述ヘタル如ク決シテ貯金制度ニ於テ矛盾スル所アルヲ見サルノミナラス事實問題トシテ至當ノ事理ニ屬スルモノナリ隨テ利子歩合ハ常ニ市場金利一般ノ趨勢ニ伴ヒ昇降スヘキモ常ニ必スシモ一定ノ比率ヲ以テ朝令暮改スルノ要ヲ見ス是レ事務ノ進捗上重大ナル困難ヲ與フルノミナラス金利ハ常ニ一時ノ幻影トシテ高低常ナラサルモノナルヲ以テ全局ニ通シ大勢ノ趨勢所ニ從ヒ慎重ナル措置ヲ爲スコトヲ要ス是レ延シテハ政府ノ威信ヲ損レ却テ反而ヨリ金融界ノ動搖ヲ誘導スルモノナレハナリ又預

入高ノ制限ニ付テハ強ヒテ之ヲ存スヘキ理由ハ之ヲ見ルニ難ク唯貯金制度ハ國民貯蓄心ノ養成ノ爲メ多少ノ支出超過ヲ甘シテ經營スル所ニ係ルヲ以テ巨額ノ貯金ヲ爲スモノハ又一一定ノ額以上特ニ之ヲ保護奨励スルノ要ナク又之カ負擔ノ増加ニ堪ヘサル所ナリト云フニ存スルナルヘシ然レトモ一方ニハ貯金制度ハ必ス支出超過ヲ豫期スヘカラス必スヤ利子ノ歩合貯金ノ利用貯金事務ノ經費等ノ上ニ於テ斟酌ヲ加ヘ之カ多少ノ收入超過ヲ豫期スヘキモノナレハ一定ノ制限高以上ノ預金ニ付テハ少クトモ積極ニ弊害アルモノト謂フヘカラス近時各國ニ於テ多クハ其制限ヲ解除シテ一方ニハ定額以上ノ預金ニ對シテハ利子ノ歩合ヲ減少スルコトトナシ或ハ其制限ヲ形式上解除セサルモ別ニ公債證書ノ購入保管制度ヲ開始シ以テ預高制限法ヲ實質ニ於テ破ルニ至レリ乃チ貯金預入ハ貯金ノ全部又ハ一部ヲ以テ政府ニ公債證書ノ購入及ヒ保管ヲ委託シ其證書ノ通數ニハ制限ヲ設ケサルヲ以テ公債證書ニ變形スルコトヲ條件トシテ無制限ニ預入ヲ爲シ得ルコトト爲レリ蓋シ政府ノ預リ金ハ受動的ノ國債ニシテ一方ニハ之ヲ流用シテ短期國債ノ募集ノ費用ト手數ヲ省畧シ得ヘ

キモノナルト同時ニ一方ニハ政府ノ意ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得ス國家信
用墜落セル時又ハ國民一般ニ預金拂戻ノ必要切迫スル時ハ一時ニ巨額ノ拂戻
請求ニ遭遇スルコトナキヲ保セサルナリ故ニ之ニ對シテ公債證書購入保管ノ
途ヲ開ケハ預ケ人ハ公債ノ利子ハ預入金ノ利子ヨリ多キヲ以テ益、之カ貯蓄心
ヲ増シ一方ニハ僻陬ノ地ニ居住スル者ヲシテ公債證書購求ノ便法ト爲ルヲ以
テ益、預リ金ヲ増加シ而モ政府ハ預金ヲ減少スルヲ以テ拂戻ノ請求ニ應スル克
ハサルノ窮況ニ陥ルノ憂ナク又預入金ヲ公債證書ニ變更セシニ由リ其元金ヲ
支拂フコトヲ要セサルヲ以テ他ノ公債證書ヲ償還セハ之カ爲メニ公債ヲ増加
スルノ憂ナク流動公債ヲ減シテ確定公債ヲ増シ公債ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル
コトヲ得ヘシ

我國ニテモ明治二十三年ヨリ公債證書購入保管ノ制ヲ施行シ三十年度ニ於
テハ既ニ委託者二千九百餘人購入保管ノ額而現在高百二十三萬圓ニ上ルニ
至レリ今後此方法ノ世人ニ周知セラルルニ隨ヒ蓋シ長足ノ進歩ヲ爲スヘキ
モノナルヘシ

貯金ハ政府行政上ノ一手段トシテ必要ナルコト上述スル所ノ如シ殊ニ近時國
家社會主義ノ熾盛ニ赴クト共ニ下級社會殊ニ勞働者ニ對シテハ強制的預入ノ
制ヲ唱道スル者多ク工場條例其他勞働者ノ保護取締ニ關スル法令ニ於テ又各
種ノ制度ニ依リ此主旨ヲ遂行セル者尠シト爲ナス殊ニ英國始メ歐米諸國ニ於
テハ又近時郵便貯金年金ノ制度ヲ設ケンモノアリ其概念ニ付テハ別ニ確定公
債ノ綱目ノ下ニ叙述スヘキ機會アレハ此ニ之ヲ略ス

郵便貯金獎勵ノ方法トシテ文書又ハ口述ニ依ル獎勵及ヒ勸誘ハ各國ヲ通シ
テ行ハルル所ナレトモ別ニ貯金ノ取扱ニ關シテハ或ハ印紙稅ヲ免除シ或ハ一
定ノ限度以内ノ貯金ニ對シテハ差押ヲ免除スル等各種ノ特權ヲ付與スル者
アリ近時又別ニ一定ノ金額以上預入ヲ爲セシ者ニ對シテ割増金ヲ付與スル
コトアリ現ニ羽陽貯蓄銀行ノ如キ其例ヲ取ル者ナルコトヲ聞ケリ蓋シ割増
金付與ノ方法ハ富籤ノ一變形ニシテ各國財政ノ整理セシ國ニ在リテハ法文
ノ明カニ禁スル所タリ現ニ我勸業銀行ノ割増金附社債ニ付テモ學說ノ之ヲ
非難スル者少シト爲ナス(其詳論ハ確定公債ノ節ニ叙述スル所アルヘシ)況ヤ

貯金ノ如キハ其名ノ示スカ如ク國民ノ貯蓄心ヲ養成セントスルモノナリ故ニ事實割増方法ノ程度言スレハ國民ノ投機心ヲ抑壓セントスルモノナリ故ニ事實割増方法ノ程度論ニ販スヘキモ大體ニ於テ單ニ預入高ノ多キヲ目的トスレハ割増金付與ノ方法ハ或ハ良策タルヘキモ貯金本來ノ精神ヨリ云ヘハ自殺ヲ爲スノ手段ト謂ハスンハアラサルナリ

郵便貯金ハ其預入拂戻ハ大體ニ於テ變動少ク國庫ハ融通上大ナル利益ヲ得ルモノナリ現時我國ノ郵便貯金ハ未タ海外諸國ニ比シテ幼稚ナルモノナレトモ年年其歩武ヲ進メ一方ニハ民間ノ銀行殊ニ貯蓄銀行ハ各所ニ増設セラレシヲ見ルモ國民全體ニ通シテ其發達ノ程度更ニ大ナルヘキコト論ナク政府貯金ノ一部ハ又民間銀行ノ手ニ吸收セラレシモノ少シト爲ナス蓋シ郵便貯金ノ預入拂戻ノ狀況ハ等シク經濟界ノ變動ニ伴フモノニシテ戰時事變ニ際シテハ殊ニ此影響ヲ貯金ノ上ニ認ムルコトヲ得ヘシ即チ我國ニ於テモ近時貯金ノ發達ハ一定ノ比率ヲ以テ其歩武ヲ進メシニ拘ラス日清戰爭ノ開始セララルト共ニ斯業ノ進歩ニ對シ著シキ變調ヲ呈シタリ今預金現時ノ狀況ト戰爭前後ノ關係ヲ

統計ニ依リテ示セハ左ノ如シ

年 度	預 入 額	拂 戻 額	現 在 額	預入人口ノ平均額	人口百人ニ對スル預入員
二十五年	二、九五四、五七七	一、四七三、六三八	二、二八二、〇六〇	二四〇	二
二十六年	一、五三三、二九一	一、二〇二、七五二	二、六一五、四九八	二四六	三
二十七年	一、四五一、八九一	一、四七三、〇九三	二、五九〇、一三三	二五三	三
二十八年	一、八三二、七九二	一、五二六、三六九	二、八九六、五四二	二六六	三
二十九年	一、七〇八、九一一	一、七八三、〇二〇	二、八二五、一九七	二七一	三
三十年	一、三六七、四三七	一、七三四、〇七五	二、五七五、四二五	二五五	三

第二項 財政上ノ流動公債

第一目 緒 論

流動公債ノ主要ナル部分ハ財政上ノ流動公債ニ存シ財政上ノ流動公債ノ主要ナル部分ハ短期公債ニ存ス蓋シ短期ノ公債ハ歲計上一時ノ歳入不足即チ收入ニ先チテ支出ヲ要スヘキ所謂金庫上ノ不足又ハ歳入ノ減少若シハ臨時ノ歳出

等ノ爲メ一年度ノ收支相償ハサル場合即チ所謂真正ノ不足アルニ際シ一年度内又ハ三四年度ニ之カ償還ヲ期シ其年度ノ歲計ヲ結了スルヲ目的ト爲スモノナリ隨テ其不足ノ多寡ニ伴ヒ之カ公債發行額亦増減セラルルモノニシテ所謂流動公債ノ名稱アル所以ナリ

蓋シ政府ノ歲計豫算ハ過去現在ヨリ未來ヲ付度シ其年度ノ收支ノ狀況ヲ精査シ以テ此カ適合ヲ計ルモノナルヲ以テ主觀的ニ歲計豫算ニ重大ナル過誤アルカ客觀的ニ豫期スヘカラサル異常ノ事變發生スルニ非スハ年度ノ終ニ於テ大ナル過不足ヲ生スルコトナキモノナリ然ルニ同一年度内ニ於テ收入カ常ニ支出ニ先ツモノニ非スシテ一方ニハ俸給廳費公債利子等支出ノ時期確定セルモノノ外ニ天變其他豫期スヘカラサル事變ノ爲メ軍事警察其他衛生恤救土木等ノ內務行政ニ於テ不慮ノ支出ヲ要スル場合アリ殊ニ國家自ラ諸般ノ營業ニ從事シ又地方行政體ニ對シテ資金ノ貸主タル地位ニ在ルヨリ豫算外ノ臨時支出ヲ爲スコト多キ佛蘭西ノ如キアリ而シテ一方ニハ經常收入ノ大部ハ常ニ一定ノ期限ヲ埃テテ始メテ國庫ニ收容セラルルモノナルヲ

以テ結局其支出巨額ニ失スルコトナクシテ其年度間ノ收入ヲ以テ之カ適合ヲ計リ得ヘキモノモ時期相前後スルカ爲メニ一時資金ノ必要ヲ見ルコトアリ殊ニ經費論ニ於テ物品費ト稱セララルルモノハ物價ノ高低ニ因リテ常ニ之カ費額ヲ消長スルモノナルヲ以テ物價其物ノ變動ニ伴ヒ收支ノ不適合ヲ來スコト最モ多クシテ所謂真正ノ不足ヲ生スルコト少シト爲サス然レトモ其額ハ未タ確定公債ニ依ルノ要ヲ見ルコトナク三四年間ニ於テ此ヲ償還スルコトヲ豫期シ得ヘキ場合アリ總テ此等ノ場合ニハ或ハ特別借入ヲ爲シ或ハ紙幣ヲ發行シ或ハ短期公債ヲ發行シ以テ此カ收支ノ適合ヲ計ルヘキコト最モ便宜ナル手段ト謂フヘキナリ

流動公債殊ニ財政上ノ流動公債カ財産上必要ノ手段タルコト正ニ上述スル所ノ如シ殊ニ一般ニ短期ノ公債ナルヲ以テ利子ハ確定公債ニ比シテ遙ニ低ク而シテ一方ニハ普通ノ指名債權ト異ナリテ賣買移轉ノ自由アルヲ以テ國民ハ放棄ノ手段トシテ最モ歡迎スル所タリ

然レトモ流動公債ニ伴フ通弊ハ此カ濫用ニ在リ若シ十分ノ成算ナクシテ流動

公債ヲ増發スレハ其償還期限ノ短期ナルニ由リ其害毒又確定公債ニ比シテ大ナルモノアリ彼ノ佛蘭西ノ千八百四十八年ニ於ケル流動公債ノ如キ其適例ヲ示スモノナリ彼ノ財政紊亂セル西班牙土耳其埃及ノ如キニ至リテハ其害毒膏旨ニ入りテ又之ヲ救済スルニ由ナキモノノ如シ故ニ流動公債ハ常ニ成ルヘク狹隘ノ範圍内ニ限リ普通ノ行政事務費ノ如キ其年以内ニ支辨シ盡シテ負擔ヲ後ニ殘スコトナカラシメ貯蓄銀行ニ對スル預金地方行政體ニ對スル貸金ノ如キハ別途ノ會計トシテ取扱ヒ後者ノ如キハ之ヲ確定公債ニ組入ルルヲ可トス「バスタープ」氏ノ如キハ流動公債ノ額ハ須ク確定公債ニ對スル一年ノ利子ヲ超過スヘカラス若シ確定公債ノ甚ダ少額ナル處ニ在リテハ流動公債ハ歲入ノ四分ノ一ヲ超過スヘカラスト論セリ

蓋シ短期公債ハ收支ノ適合其序ヲ失フカ或ハ民力ノ疲弊其他天災地變ノ爲メ豫定ノ收入ヲ得ル能ハサルカ或ハ政府ノ信用薄弱ナルニ由リ普通ノ公債ヲ募集シ能ハサル等財政上不幸ナル現象ニ起因スルモノニシテ革命前ノ佛蘭西西班牙土耳其埃及等ノ如キ何レモ此等諸原因ノ爲メニ一時ノ急ヲ支

ルニ切ナルノ餘或ハ擔保ヲ附シ或ハ特權ヲ附與シ或ハ非常高利ヲ附シテ密ニ特別借入ヲ爲シ其期間ノ僅僅數箇月ニ過キサル短期ノ借入ニ一割五分ヨリ二割五分ニ至ル高利ヲ附セシ例少シト爲サス隨テ償還期限ノ到來共ニ借繼ヲ爲スヲ例ト爲シ年年歲歲新舊相累計シテ又拾收スヘカラサルニ至ル西曆千八百七十四年債權國ノ委員等土耳其ノ流動公債ヲ調査セントシテ竟ニ其額ヲ知ルル克ハサルニ至リシカ如キ又其一例ニシテ又彼ノ埃及ニ於ケル場合ノ如キ既ニ本章第三節第四款ニ於テ敘述セル所ノ如シ

本項ノ分類ニ付テハ先ニ短期借入大藏省證券及ヒ紙幣ノ三種ヲ掲ケテ特ニ短期公債ニ付テ舉ケル所ナシ蓋シ短期公債ハ有期確定公債ト殆ト其趣ヲ一ニシ唯其期間ノ長短ニ於テ特徵アルニ過キサルノミナラス所謂大藏省證券ハ短期公債ノ一種ニシテ又事實大部ヲ占ムルモノナルヲ以テノ故ノミ敢テ大藏省以外ノ短期公債ヲ認メサルニハ非タルナリ本項ニ於テハ短期借入ハ第三節第二款第二項契約公債ノ下ニ於テ既ニ其大要ヲ掲ケタレハ茲ニハ主トシテ大藏省證券及ヒ紙幣ニ付キ敘述スル所アラントス

第二目 大藏省證券

大藏省證券トハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ニ由リ發行スルモノトス(明治十七年九月二十四號布告第一條參照)大藏省證券ノ大藏省紙幣ト異ナルハ猶ホ商業手形ノ銀行紙幣ニ於ケルカ如シ大藏省又ハ銀行ノ紙幣ハ正貨ノ代用トシテ日用ノ流通ヲ資クルヲ目的トス其流通ノ機能ヲ全ウスル所以ノモノハ常ニ正貨ト兌換サレ得ル條件ヲ具フレハナリ商業手形又ハ大藏省證券ハ彼ノ確定證券抵當貸付及ヒ其他此種類ノ他ノ證券ト異ナリ一時ノ放銀ノ爲メニ流用セラシルモノナリ大藏省證券カ利子ヲ拂フハ短期貸付ニ於ケル利子ノ性質ヲ有シ即チ割引タルノ特色ヲ帶フ是レ長期貸付ノ利子ト相異ナル所以ナリ大藏省證券ノ發行ハ確定公債ノ如ク募集ノ方法ニ由ルコトアリ或ハ政府カ支拂ニ當リ貨幣ノ代リニ之ヲ受取ラシムルコトアリ該證券ハ多ク二三ノ銀行ヨリ借入ルルヲ常トスルカ故ニ特別借入ト相似タル所アレトモ大藏省證券ハ何人ニテモ之ヲ授受賣買スルコトヲ得(同布告第五條參照)又其支拂ニ對シテ貨幣ノ代リニ

證券ノ引受ヲ爲サシムル點ニ於テ異ナリ又其金額ハ每年不足ノ多寡ニ伴フテ一定スル所ナク又之ヲ蔽フニ經常收入ヲ以テスル點ニ於テ確定公債ト異ナリ該證券ハ往時英國財政家ノ發明スル所ニシテ今日ハ各國皆此制ニ則リ財政ノ整理ヲ計ルニ至レリ是レ收支ノ時期ノ不適合ハ免レサルノ數ナルヲ以テ其度度現金ナキノ故ヲ以テ支拂ヲ停止スルノ不便ヲ避ケ一方ニハ短期內ニ償却シ得ルヲ原則ト爲スヲ以テ確定公債ヲ起スノ煩ヲ避ケルニ在ルハ先ニ叙述セル所ノ如シ我邦モ明治十七年九月第二十四號布告ヲ以テ大藏省證券條例ヲ發布シ其支拂期日償還ノ方法發行金額及ヒ利子金額等ハ豫メ規定セラル即チ無記名利附定期拂トシ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ支拂フコトト爲レリ同布告第二條參照)隨テ人民ハ一時不用ナル資金ノ放銀物トシテ確實且ツ便利ナルカ故ニ此カ授受賣買又盛ニ行ハル支拂期限ハ通常三月、六月、九月、十二月等ト爲スヲ例ト爲シ英佛等ニテハ一箇年ヲ超過スルモノ少カラス(クリミア戰爭ノ當時英國カ五箇年ヲ期間トセル大藏省證券ヲ發行セシハ本論ノ首ノニ於テ既ニ叙述ナル所ナリ)而シテ通常六箇月以下ノモノニ對シテハ利子ヲ附スル代リニ割

引ヲ爲スヲ例ト爲セリ現行法ハ證券額面高ヲ百圓五百圓千圓五千圓一萬圓及ヒ十萬圓ノ六種ニ分テ其支拂期限ハ十二箇月以內ト爲シ(同布告第四條參照)其支拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ之ヲ取扱ハシム(同布告第六條參照)

大藏省證券ハ財政上便利ナル方便ナリト雖モ物品買上ニ際シ該券ヲ以テ交付スルハ結局政府ノ不利益ヲ來スヘキコトハ本章第四節第一款第一項中支拂強制公債ニ付テ論スル所ト相同シ而シテ現行法モ上述セル該券濫發ノ通弊ヲ制止センカ爲メ明治二十二年二月法律第四號會計法第九條ハ明カニ毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ムル旨ヲ規定シ明治三十二年二月二十二日公布ノ明治三十二年度ノ豫算第四條ハ其最高額ヲ三千五百萬圓ニ限レリ

大藏省證券ニ付テ最モ歴史ヲ有スルハ英佛ノ二國トス此等ノ國ニ在リテハ漸次年ヲ逐フテ其額ヲ減少シ整理ノ步武ヲ進ムルヲ見ル殊ニ英國ニ於テハ西曆千六百九十一年ヨリ千七百十一年マテハ流動公債ハ常ニ確定公債ノ額

ニ超過センモ千七百十二年以後ハ確定公債ノ額ニ下リ千七百五十五年ノ如キ其高大ニ減少シテ僅ニ七百三十六萬五千圓ニ過キタリキ然レトモ千八百七年ヨリ千八百十九年ニ至ル維納會議ノ前後ハ再ヒ増加シテ四億圓ヲ昇降シ其後千八百四十年マテハ二億圓ニ上下シ其後千八百六十二年マテハ一億六千萬圓ト二億圓ノ間ヲ昇降セリ但シクリミア戰爭ノ時ハ二億八千萬圓ニ上レリ爾後漸次減少シテ八千萬圓ヲ上ルコトナク率テ千八百七十四年ニハ四千四百八十萬圓ト爲リ僅ニ確定公債ノ千分ノ五ヲ占ムルニ過キタリキ然レトモ其後漸次再ヒ上騰シテ千八百七十七年ニハ一億四千萬圓ト爲レリ是レ露土戰爭蘇士運河株券四千萬圓ノ買收等ニ起因スルモノニシテ其後印度亞弗利加等ノ事變ニ因リ尙ホ多少増加スルニ至レリ蓋シ英國ノ大藏省證券ハ數年ニ亘ルモノ多ク我國ト大ニ趣ヲ異ニスル所アリトス

佛國ニテハ(ルイ、フヒリツブ)ノ時代ニ流動公債大藏證券及ヒ貯蓄銀行ノ預リ金ハ一億圓ヨリ三億圓ニ上リ西曆千八百四十八年ニハ革命政府之ニ代リテ又此カ處分ニ窮シ銀行預金ノ拂戻ヲ減センカ爲メニ其利子ヲ五分ト爲セシ

モ尙ホ此カ拂戻ヲ停止スルコト能ハス途ニ之ニ對シテ公債證書又ハ大藏省證券ヲ付與シ尙ホ大藏省證券ノ期限ヲ延長シタリ然レトモ此發行價格ト償却價格トノ差異ヨリ生スル利益ハ證書組換ニ因リテ直チニ現金ヲ得ル能ハサルノ不利益ト相償フニ足ラス大ニ人民ノ不平ヲ喚起シ政府財政ノ失態ヲ重スルニ至レリ其後尙ホ流動公債ノ總額ニ至リテハ千八百六十四年ノ如キ四億圓ヲ上リ千八百七十年ニハ猶ホ三億圓ヲ上下シタリ然レトモ大藏省證券ハ千八百四十八年ニハ一億一千三百萬圓ナリシモ千八百七十年ニハ三千六百萬圓千八百七十八年ニハ七百萬圓ト爲リ近時大藏省證券ハ人民ニ於テモ大ニ其利便ヲ感シ利子ハ期限ノ長短ニ由リ半朱ヨリ一朱マテニテ自由ニ發行スルコトヲ得ルニ至レリ

蓋シ此種ノ流動公債ハ通常公債ヨリモ預ケ人カ現金取得上ノ便アルニ由リ低キ利子ヲ以テ發行スルコトヲ得若シ此制ヲ全廢センニハ財政上必ス別ニ相當ノ準備ヲ要スルカ又ハ年年相應ノ歲入剩餘ヲ殘サスニハ非ス然ルニ國庫準備金ノ弊害ハ既ニ第一章ニ於テ詳論スル所ニシテ此カ爲メニ永ク租額

ヲ重課スルノ弊害ハ元利償却ノ爲メ一時租額ヲ増スノ弊害ニ比シテ遙ニ大ナルモノナリトス

第三目 紙幣

紙幣ハ或ハ本紙幣ト準紙幣ニ分チ本紙幣ヲ一ニ狹義ノ紙幣國家紙幣又ハ本位紙幣ト稱シテ硬貨ノ代用ヲ爲ス價格ノ表章ヲ爲ス物ヲ指シ紙ヲ以テ作り強制的ニ通用シテ兌換ナキモノナリ所謂不換紙幣ト稱スルモノニシテ既ニ本章第四節第二款第二項強制公債ノ下ニ詳述セシ所ナリ

準紙幣ハ紙ニテ作り價格ノ表章タルニ於テ一ナリト雖モ強制シテ通用セサルモノニシテ兌換シ得ヘキモノナリ不換紙幣ト準紙幣ノ中間ニ強制的ニ通用セサル不換紙幣ト強制的ニ通用スル兌換紙幣ノ二アリ其ニ準紙幣ト稱スルヲ例ト爲ス然レトモ通用ノ強制力ヲ有スルモノハ本紙幣ト同様ノ性質ヲ有スルモノニシテ等シク間接ノ強制公債タルヘキナリ其孰レニ屬スルヲ問ハス其金額ノ増減常ナク發行者ノ希望ハ短期間ニ回收スルニ在リテハ一ナルヲ以テ共ニ

流動公債タルコトヲ妨ケサルナリ
 準紙幣ハ流通ノ強制力ナキカ兌換ノ義務アルカ又ハ二者ヲ兼有スル紙幣ナルヲ以テ何レモ外面上銀行手形ノ性質ヲ有スルモノナリ然レトモ其發行者ヲ異ニシ且ツ其發行ノ制限ハ最モ注意ヲ要スルモノタリ兌換準備金ヲシテ紙幣ト同額ナラシムルハ特ニ兌換紙幣其モノヲ發行スル效果ヲ失ハシムルモノニ外ナラス又準備少キニ失スルカ又ハ少キニ失スルコトナキモ正貨ヲ以テセザルトキハ一朝事變ニ際シテ兌換ノ請求ニ應スルコト能ハス國家ノ信用ヲ失墜セシムルニ至ルヘシ即チ兌換紙幣發行法ノ問題ハ財政上重要ニシテ研究ノ必要大ナルモ由來貨幣論ノ主トシテ論究スヘキモノナレハ此ヲ略シ唯我邦現行ノ兌換紙幣發行法ノ大要ヲ述フルニ止メントス
 兌換紙幣發行權ハ日本銀行條例第十四條ニ依リ日本銀行之ヲ有ス其細則ハ舉ケテ明治十七年五月第十八號布告十八年第九號布告二十一年勅令第五十九號二十三年法律第三十四號及ヒ三十年法律第十八號ニ在リ兌換紙幣ノ兌換正貨ハ金貨ニ限ラレ兌換銀行券條例第一條合法貨幣トシテ租稅海關稅其他一切ノ

取引ニ通用スルコトヲ得同第四條但シ引換ハ日本銀行ニ於テ營業時間中之ニ應シ唯支店ニテハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間ノ延期ヲ爲スコトヲ得同第六條若シ反對ニ金貨ヲ以テ兌換券ト引換ヘンコトヲ請フ者アルトキハ無手数料ニテ之ニ應スルモノトス同第七條其種類ハ一圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓二百圓ノ七種ニシテ同第三條其發行額引換準備ノ規定ハ兌換銀行券條例第二條ニ定ムル所タリ即チ
 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及ヒ地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘン但シ銀貨及ヒ銀地金ハ引換準備總額四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
 日本銀行ハ前項ノ外特ニ一億二千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但シ本項一億二千萬圓ノ内二千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス
 日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大

0314

臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但シ其割合ハ其時大藏大臣之ヲ定ム

即チ獨逸制ニ據シテ又之ニ勝レリト爲ス所ニシテ金貨金地金四分ノ一マテハ銀貨銀地金ニテモ宜シノ引換準備ニ對シテハ固ヨリ無制限トシ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ノ保證ニ對シテハ九千三百萬圓ハ絕對的ニ許サレ二千七百萬圓ハ二十二年以降ノ國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限度トシテ許サレ其以上ハ大藏省ノ許可ト五分以上ノ發行稅ヲ條件トシテ許可セララルモノト爲スナリ

兌換紙幣發行額引換準備ニ付キ一言注意ヲ要スヘキハ明治三十一年四月在來ノ制限高八千五百萬圓ヲ擴張シテ一億二千萬圓ト爲シ而モ爾後今日ニ至ルマテ猶ホ舊ニ依リテ繼續制限外ノ發行ヲ爲スコト是ナリ

由來制限額ヲ擴張セルハ在來ノ制限ノ下ニ在リテハ勢ヒ制限外ノ發行ヲ防正スルコト能ハサルヲ以テ此ノ如キ異例ノ發行ヲ來スヘキ場合ヲ減殺セントスルニ在ルコト固ヨリ言ヲ俟タサル所ニシテ若シ制限外ノ發行キ平時相次テ起ルトキハ所謂制限外ノ制限外タル所以ノモノ根本ヨリ破却セラレ毫モ亦制限其モノヲ認ムルノ要ナキニ至ルヘシ之ヲ歐洲ニ於ケル重ナル實例ニ徵スルモ英國ニ在リテハ現行兌換銀行券條例ハ一千八百四十四年ノ制定ニ係リ今日ニ至ルマテ六十年ニ近キ歲月ニ於テ條例ノ停止(即チ兌換ノ停止)ヲ爲セルコト前後三回ニ止マリ英國銀行カ制限外ノ發行ヲ爲セルハ一千八百五十七年ニ於テ前後唯一回ヲ見ルニ止マリ爾後四十餘年又制限外ノ發行ヲ見ルコトナシ又獨逸ニ於テハ一千八百七十五年帝國銀行條例制定セラレテヨリ今日ニ至ルマテ二十有五年ノ間未タ一回モ制限外ノ發行ヲ見タルコトナシ然ルニ我邦ニ在リテハ明治十七年制定後明治二十三年三四月ノ交五分利附五十萬圓ノ制限外發行アリ二十七年十二月二十九日第二次ノ制限外發行ヲ爲セシヨリ年々又制限外ノ發行ヲ見サルコトナク三十年ニハ七分初メ六分利附ニテ尙ホ五千萬圓ニ近キ發行ヲ爲シ爾後八千五百萬圓ノ制

限ヲ一億二千萬圓ニ増加セシニ拘ラス尙ホ制限外ノ發行ヲ見サルコトナシ
蓋シ此ノ如キ喜フヘカラサル現象ヲ見ル所以ノモノハ一ニ制限高ノ高低ヲ
以テ直チニ制限外ノ發行ヲ左右スヘキ唯一ノ方策ナリト誤解セル結果ニ外
ナラスシテ制限外ノ發行ヲ左右スヘキ眞ノ動力ハ制限外ノ發行額ニ課スヘ
キ發行税ノ高低ニ存スルコトヲ忘却セルモノナリトス換言スレバ制限外ノ
發行ヲ爲スハ金融逼迫ノ爲メニ生スヘキ經濟界ノ毒ヲ救正スル手段タル
カ故ニ我國ノ如ク居常金利ノ六分内外ヲ昇降スル經濟界ニ於テ五分以上ノ
發行税ヲ條件ト爲ストキハ居常尙ホ日本銀行ハ制限外ノ發行ヲ爲シテ市場
ノ金利ト發行税ノ差額ニ因リ多少ノ收益ヲ得ヘク所謂金融逼迫ノ際ニ於ケ
ル救正方法タル非常手段ヲシテ平素濫用セシムルノ途ヲ開ケルモノニ外ナ
ラス即チ歐洲列國ノ如キ平時ノ金利カ二分内外ヲ昇降スル經濟界ニ於テ五
分以上ノ發行税ニ甘シテ尙ホ制限外ノ發行ヲ爲スハ必スヤ金利ハ少クトモ
五分以上ニ昂騰シタル金融逼迫ノ秋ニ外ナラサルヘキモ我邦ノ如キ五分以
上ノ金利ヲ以テ平時ノ常況ト爲ス經濟界ニ於テ等シク五分以上ノ發行税ヲ

條件ト爲スハ權衡ヲ失スルノ甚シキモノニシテ之ヲ歐洲各國ノ立法例及ヒ
實際ニ對照シテ發行税ヲ少クトモ一割以上ト爲スニ非スハ所謂非常手段
ノ非常手段タル效果ヲ保持スルニ由ナク事實金融逼迫シテ爲メニ制限外ノ
發行ヲ要スルカ如キ場合ニ至ラサルモ漫然一部起業者ノ要求ニ驅ラレ自己
ノ多少ノ收益ニ眩惑シ制限外ノ發行ヲ濫用スルニ至ルハ又毫モ怪シムニ足
ラサル所ナリトス

第三款 確定公債

第一項 緒論

單稅論カ租稅制度トシテ實際理論共ニ不可ナルカ如ク國家財政上單一ナル公
債ノミニ依リテ收支ノ適合ヲ計ルコトハ又等シク事理ヲ得タルモノニ非ス流
動公債ト曰ヒ確定公債ト曰フ各特有ノ長處アリ二者其一ヲ捨テヘカラス宜シ
ク臨時支出ノ性質ト財政ノ狀況ニ應シ其間ニ權衡ヲ保持シ斟酌ヲ加フルコト
財政整理上重要ナル事項ニ屬セリ

確定公債ノ流動公債ニ勝レル點ハ其期限ノ長期ナルト其償還ニ急切ヲ要セス
裁量ノ餘地多キヲ以テ國庫ノ急迫ヲ告グルコトナキニ在リ國家ノ信用ヲ失墜
シ市場ノ恐慌ヲ來スノ患ハ常ニ短期ノ公債ニ於テ之ヲ見ルコト多ク殊ニ兌換
紙幣等ニ於テ然リト爲ス然レトモ公債ノ一部ニ偏重スルハ固ヨリ喜フヘキ現
象ニ非ス其借用期限ノ長期ナルニ安シテ此カ償還ヲ等閑ニ付シ逐次累積シ
テ後世ノ負擔ヲ大ニスルニ至レハ率テ國家ノ信用ヲ削キ公債ノ發達進步ヲ阻
害スルコト又言フ埃タサルナリ

蓋シ確定公債ハ唯リ財政上政府ノ信用ニ止マラス一國ノ信用ヲ利用スルモノ
ニシテ國民ノ負擔力ト密接ノ關係ヲ有スルモノナリ蓋シ其國民ノ負擔額ニ至
リテハ確定公債ノ總額ノ大小政府ノ收入額ト國民ノ收入額ノ比例確定公債ノ
利子ト市場利子ノ比率等ヲ標準トシ之ヲ各種ノ方面ヨリ觀察スルコトヲ要ス
ヘキモ結局確定公債カ人民ノ負擔ヲ増スハ明カナルヲ以テ現時ノ立憲國ニ在
リテハ何レモ憲法ニ依リ帝國議會ニ確定公債募集許否ノ權ヲ留保スルヲ例ト
爲シ又一方ニハ公債原簿ノ調製及ヒ記入公債證書ノ發行證書額面ノ記入ヲ爲

シ法令ニ依リテ募集ノ方法拂込ノ期限利子ノ歩合償還ノ方法等ヲ規定シ以テ
債權者ノ權利ノ確實ヲ保障スルニ至レリ

確定公債ハ大別シテ二種ト爲ス有期確定公債及ヒ無期確定公債是ナリ今此區
別ヲ述フルニ先チ先ツ確定公債ノ過去將來ニ亘ル大體ノ趨勢ヲ一言スヘシ
紀元十八世紀ノ末葉ニ至ルマテ所謂確定公債ト稱セラルルモノモ其實質ハ全
ク流動公債ト其趣ヲ一ニセリ即チ其償還期限短期ナリシノミナラス豫定ノ償
還期限滿了ノ有無ニ拘ラス債權者ハ自己ノ利害關係ヨリ臨時公債償還請求ノ
權利ヲ有シ又負債主タル政府モ財政上ノ便宜ニ從ヒ必スシモ豫期ノ年限内ニ
償還セサルコト少シト爲サス此ノ如ク償還期限短期ニシテ其償却方法モ亦確
定セサルヲ以テ政府ハ財政調和劑タル公債ハ却テ政府財政整理ノ累ヲ爲スニ
至リタリ是レ政府ハ財政ノ緩急ニ拘ラス償還ノ義務急迫ナルヲ以テ公債額ノ
増加ト共ニ却テ政府ノ負擔ヲ大トスルモノナレハナリ而シテ此弊害ハ消費公
債ノ多キ當時ニ於テ殊ニ甚シク政府ハ償還ノ時期方法等ヲ自ラ規定シ債權者
ノ容喙ヲ許ササルノ必要益大ナルヲ見ルニ至レリ彼ノ外國債ヲ以テ絕對ニ有

害ナルモノトシ之ヲ非難スル者多カリシハ當時ノ公債制度ニ於テ又故アリト謂フヘキトナリ

消費公債トハ重ニ戰時事變ニ一時ニ消費セラレ之ニ應スヘキ有形的收入ノ存セサルモノニシテ他ノ收入ニ依リテ之カ償還ヲ計ルヘキモノナリ所謂國民ノ負擔ヲ増スコト大ナルモノニシテ非常公債ハ多ク此種ニ屬スルモノナリ

貯蓄公債トハ又事業公債或ハ間接抵當公債ト稱セラレ其公債ノ消費ニ伴ヒ直接ニ政府ノ收入ヲ増シ間接ニ人民ノ幸福ヲ増進スルモノナリ故ニ償却ノ方法期限等之ヲ豫定シ易キモノニシテ經濟上ノ平常公債ハ此種ニ屬スルモノナリ

固定公債ハ又借換公債ト曰ヒ財政整理ノ爲メ流動公債又ハ確定公債ヲ固定公債ニ變更シタルモノニシテ財政上ノ平常公債ハ此種ニ屬スルモノナリトス

第十九世紀ニ至リテ各國皆公債ヲ募集スルニ當リ先ニ債權者ノ容喙ヲ禁レ債

還期限ヲ長クシ財政上ノ緩急ニ應シテ辨濟スルノ主義ヲ執リ彼ノ減債基金法ノ如キモ此段階ニ於ケル一ノ方便トシテ政府ノ信用扶持ノ爲メニ用ヒラレ記名ノ制ニ依リテ債權者ノ權利ヲ確保セラレタリ爾後信用經濟ノ發達ニ伴ヒ減債基金法ハ廢セラレ無記名ハ記名ニ代リ擔保又ハ花札附ノ制度ハ廢セラレ償還期限ハ漸次延長セラレ遂ニ償還期限ノ長短ハ又應募力ヲ左右スルノ力ナク所謂無期ノ公債ト云ヒ永久ノ公債ト稱セラレモノノ認メラルルニ至レリ

第二項 有期確定公債

第一目 割増公債

割増公債ハ必スモ無期確定公債ニ適用スルコト克ハサルモノニ非スト雖モ通例有期確定公債殊ニ比較的短期ニシテ少額ナル公債ニ適用セラルルモノニシテ元金及ヒ利子ノ償還支拂ノ外籤札ヲ附シ其當選者ニ利拂ノ際別ニ金額ヲ付與スル公債ナリ其體様ニ至リテハ種別甚タ多シト爲ス

割増公債ニ對スル消極論者ハ此ヲ三種ニ分ツコトヲ得道德上ヨリ觀察セル消

極論者法律上ヨリ觀察セル消極論者及ヒ財政上ヨリ觀察セル消極論者はナリ
道德上ヨリ觀察セル消極論者ハ割増公債ハ勉強儉約才能ノ外人民ヲシテ富ヲ
得ルノ道アルコトヲ指示スルモノニシテ投機心ヲ誘導スルモノナリト云フニ
在リ彼ノフランクリン氏カ勞力者ニ告ケシ語即チ人アリ汝ニ勉強ト儉約ニ由
ラスシテ富ヲ得ルノ道アリト教示セハ之ヲ以テ汝ニ毒ヲ與フルモノトセヨト
言ヘルカ如キ又此精神ヲ表彰スルモノニシテ道德上復タ一點ノ非議ヲ容ルヘ
カラサルモノナリ

法律上ヨリ觀察セル消極論者ハ抽籤ニ依リテ射利ヲ爲サシムルハ文明國ノ法
文上明カニ禁スル所ナリ政府カ割増公債ヲ發行シ又ハ此カ發行ヲ許スハ自ラ
刑法ノ正文ニ悖戻スルモノナリト云フニ在リ蓋シ富籤及ヒ之ニ類似セルモノ
ハ其掛金少ク富籤金ノ不平均ナルニ從ヒ廣ク社會ニ流行シテ其大多數ハ落
選ノ爲メ自己ノ貯蓄ヲ消耗シテ恒心ヲ失ヒ投機ノ惡風上下ニ浸潤スルニ至ル
モノナリ^ワヴアリエー氏ハ千八百七十年佛蘭西上院ニ於テ報告セル一部ニモ
「富籤ハ第一多數ノ利益ヲ剝奪シ僥倖ニ由リ之ヲ少數ニ與フルモノナリ第二籤

札發行者ト其買入人トハ平等ノ地位ヲ占ムル能ハス其利益ヲ得ルノ機會ハ發
行者ニ多ク籤札買入人ニ少シト云ヘリ

千八百三十六年ノ佛蘭西法律第二條ニハ富籤ヲ以テ僥倖ヨリ出ツル利益ヲ
與フル所ノ動産不動産若クハ商品ノ賣買及ヒ其他一般ニ僥倖ヲ以テ公衆ニ
利益ヲ得ヘキ望ヲ置カシムル所行ハ總テ之ヲ富籤ト認メ一切之ヲ禁止スト
アリ(我國現行刑法第二六二條參照)

財政上ヨリ觀察セル消極論者ハ濫用ノ弊害大ニシテ且ツ此カ管理ニ困難ナリ
ト云フニ在リ蓋シ多少人民ノ僥倖心ヲ利用スルコトハ頗ル便利ニシテ所定ノ
需要額ヲ容易ニ收メ得ヘキニ由リ濫用ノ極所謂法文禁制ノ純然タル富籤ト同
一ノ現象ヲ呈スルニ至ルコトアリ彼ノ土耳其鐵道會社發行ノ籤札附社債ノ如
キ一口ノ當籤二十四萬圓ノ巨額ニ上リ又バルレタ府ノ地方債ノ如キモ掛金僅
ニ八圓ニシテ無利子トシ一方ニ當籤金ヲ不當ニ大ナラシメシカ如キ共ニ濫用
ノ極ニ失セルモノニシテ一方ニハ國民ノ投機心ヲ挑發シ一方ニハ不公平ナル
富ノ分配ニ由リ多數ノ失産者ヲ生セシムルノミナラス政府ハ信用ヲ失墜シ將

率財政ノ伸張力ヲ絕對ニ抑壓スルニ至ルモノナリ信用經濟ノ發達セル國民ハ割増制度ナルモノハ不信用ヲ自白セルモノトシ却テ募集ニ應セサルヲ例ト爲スニ至ルハ既ニ現時英國等ニ於テ見ル所ナリトス

割増公債ノ管理上困難ナリト云フハ其取扱方法ノ錯雜ヲ極ムルノミナラス巨額ノ公債ハ五十年百年ヲ期シテ償還ヲ了ル能ハサルモノナルニ其間ニ便宜借換ヲ爲スヘキ好機ニ際遇スルモ之ニ應スルコト克ハサルノ不利アリ是レ當初ヨリ低利ヲ以テ募集シ利子ノ外ニ尙ホ割増金ヲ支拂フヨリ生スル當然ノ結果ニシテ巨額ノ公債ニ割増法ヲ採用スヘカラスト爲ス理由又茲ニ存ス

以上ハ割増公債ニ對スル消極論ノ大要ナリトス固ヨリ割増ノ性質タルヤ道德ノ原則ニ違背セル變則ノ手段ニシテ若シ其方法ニシテ宜キヲ得サレハ其害毒ノ恐ルヘキ又一財政問題トシテ賦過スヘキモノニ非ス然レトモ其額巨大ニ失セス其方法ニシテ宜キヲ得ンニハ又絕對ニ非難スヘカラサルモノニシテ以テ間接ニ下級人民ノ勤儉貯蓄ヲ獎勵シ所謂道德上及ヒ法律上ノ非難ヲ事實ニ於テ之ヲ防遏ナシ得サルニハ非ス即チ此等ノ弊害ヲ避クヘキ重ナル方法ハ大凡

次ノ如ク

第一 割増附ノ公債證書ニハ必ス全數ニ利子ヲ附スヘシ但シ一方ニ割増金額ヲ支フル範圍内ニ於テ成ルヘク通例ノ歩合ト差異ノ少キコトヲ要ス

第二 當籤ノ數ハ成ルヘク多クシテ其一箇ノ當籤額ノ巨額ナラサルコトヲ要シ一方ニハ割増金總額ハ其割増公債ノ利子ノ低下ナルニ由リ生スル利

得額ヲ超過セサルコトヲ要ス

第三 元金ノ償還ハ必ス拂込高ヨリ下ルコトナキヲ要ス

第四 割増抽籤ノ度數ハ一年二回ヲ超ユルコトナキヲ要ス

第五 割増公債ノ總額ハ巨大ニ失セス且ツ其償還期限ハ長期ニ亘ラサルコトヲ要ス

之ヲ要スルニ割増公債ハ公債ノ常道ニ非ステ一時臨機ノ一方便タリ英國ニ在リテハ今世紀ノ初期ヨリ全ク廢棄セラレ普國ニ在リテハ千八百五十五年以後復タ此公債ノ發行サレシヲ聞カス佛伊兩國ニ於テ猶ホ行ハルルモノノ如キモ各國ヲ通シテ漸次廢絶ニ趣クモノノ如ク我國ニテハ近時勸業銀行ニ割増附

0320

社債ノ發行ヲ認メシ外復タ其例ヲ聞カス其方便ニシテ時ト處ニ依リ絕對ニ非議スヘキモノニ非サルモ唯一時ノ手段トシテ最モ此カ方法ニ付キ慎重ノ措置ヲ執ルヘキコト論ナキナリ

第二目 年金公債

年金公債トハ政府カ借入タル一定ノ金額ヲ償還スルニ際シ其債權者ニ利子ト元金ヲ區別スルコトナク元利ヲ込メタル金高ヲ年賦ヲ以テ償還スル公債ナリ
年金公債ハ其元金ト利子ヲ區別セサル點ニ於テ他ノ公債ヨリ分チテ之ヲ論述スル者尠カラス然レトモ元金ト利子ヲ區別スルノ有無ハ流動確定ノ二公債ノ除外ニ置クノ必要ナキヲ以テ予ハ此ニ確定公債中ノ有期公債ノ一部ニ編入シタリ定期年金ノ有期公債タルヘキハ固ヨリ異論ナキノミナラス終身年金ト雖モ永久公債ニ比スレハ政府カ財政ノ緩急ニ從ヒテ元金ヲ償還スルコトヲ得永久ニ償還ノ義務存在セサル點ニ於テ全ク其性質ヲ異ニシ唯其償還ノ最終期限カ不確定ナルニ過キササルヲ以テ共ニ一種ノ定期公債ト視ルヘキモノナレ

ハナリ

年期國債ヲ分チテ終身年金及ヒ定期年金ト爲ス

年金年賦ノ方法ハ定期年金ノトキハ其定期ノ期間ヲ標準トシ終身年金ノトキハ死亡生殘表ニ據リテ一定ノ期間ヲ標準トス故ニ今定期年金ノ約定期間ヲ十年又ハ終身年金ノ請求者五十歳ニシテ十年間生存スヘシト豫定セル場合ハ債權者ハ其債權成立ノ年ヨリ次ノ比例ヲ以テ年賦額ヲ受取ルコトト爲ルヘシ

- 第一年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金總額ノ利子
- 第二年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金ノ十分ノ九ノ利子
- 第三年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金ノ十分ノ八ノ利子

(以下略之)

然レトモ此方法ハ政府ノ手數ヲ増スノミナラス債權者モ毎年額ノ差異アルハ好マサル所ナルヘキヲ以テ通例右表ノ年年遞減スル利子ノ總額ヲ元金ニ加算シ此ヲ十分シテ毎年一定額ヲ支拂フヲ例ニ爲セリ

甲 終身年金公債

終身年金公債ハ其債權者ノ終身間年年元利ヲ込メタル一定ノ年賦金ヲ支拂フ公債ニシテ其債權者ノ死亡カ豫定期限ヨリ先ツヤ否ヤニ由リテ損益ノ一定セサルモノナリ此公債ハ子孫ニ財産ヲ殘スコトヲ要セス年年一定ノ金額ヲ得テ餘命ヲ送ラントスル者等ニ便利ナル方法ニシテ殊ニ「トントン」法ニ至リテハ多少僥倖心ヲ利用シテ往時盛ニ行ハレタルモノナリトス然レトモ近時一般ニ政府及ヒ民間ニ貯金ノ機關設備セラレ殊ニ生命保險ノ制行ハルルニ及ヒ漸次其跡ヲ絶ツニ至リ近時終身年金ノ變形トモ視ルヘキ政府ノ生命保險法ニ由リ其殘影ヲ殘スニ過キス

英國ニ於テ「ハビット」以前ニ盛ニ行ハレ殊ニ「ウヰリヤム」第三世ハ百磅ノ拂込ニ對シ拂込人又ハ其指名人ニ終身十四磅ヲ支拂フコトヲ約シテ百萬磅ノ公債ヲ起セシコトアリ

終身年金ノ複雜セル「トントン」法ナルモノアリ此法ハ同年齡ノ人ヲ集メ之ヲシテ同一ノ年金ヲ有スル年金證書ヲ購買セシメ政府ハ常ニ年年一定ノ年金ヲ其

加入者ノ全減スルマテ支拂フモノナリトス故ニ加入者ノ年ヲ送フテ死亡シ其數ヲ減スルニ從ヒ其生殘者ノ受領スル分額遞増スルモノトス此方法ハ第七世紀伊太利ノ銀行家「ローレン」トントン「ノ意匠ニ係ルモノニシテ英佛各國ヲ通シテ盛ニ行ハレシモノナリ但シ此「トントン」法ハ財政學上ノ價值ヨリモ死亡生殘表ノ根原トシテ人口統計ニ密接ナル關係ヲ有シ統計學上最モ重要ナルモノトス

「トントン」法ノ實例ヲ一此ニ列舉スルハ煩雜ニ堪ヘサルヲ以テ此ニ英佛二國ニ於ケル「トントン」法ノ重ナル場合ヲ摘記スルニ止ムヘシ

佛蘭西ニテハ路易十四世ノ朝千六百八十九年及ヒ千六百九十六年ニ「トントン」法ヲ行ヒシニ千七百二十六年ニハ唯一婦人ヲ殘スニ至レリ此婦人ハ九十六歳マテ生存シ上述第一及ヒ第二「トントン」ニ各百二十圓ヲ拂込ミ一人ト爲リテヨリ二萬九千四百圓ノ年金ヲ受ケルニ至リタリ

英國ニ於テ千六百九十二年千七百六十六年及ヒ千七百八十九年ノ三次「トントン」法ヲ行ヒタリ但シ死亡生殘ノ統計明カナラサルヨリ成效セス却テ愛

聞ニ於テ千七百七十三年同七十五年及ヒ同七十八年ノ三次ニ行ヘルトシテ
シ法其效ヲ奏シタリ

乙 定期年金公債

定期年金公債トハ政府カ其債權者ニ所定ノ期間年年元利ヲ込メタル一定ノ年
賦金ヲ支拂フ公債ニシテ英國ニ於テ最モ盛ニ行ハレシモノニシテ其最長期間
ハ九十九年ナリキ蓋シ定期年金公債ノ利子ハ通常公債ノ利子ヨリ多キヲ例ト
爲シ又其期間ノ長短ニ依リテ相異ナリ是レ本項緒論ノ際叙述セルカ如ク年年
等一ノ額ヲ支拂フヨリ生スル當然ノ結果ナリトス

定期年金ハ其債權者ノ生死ヲ問ハサルモノナルヲ以テ一方ニハ此カ自由ノ賣
買授與ヲ許スヲ例ト爲シ若干年間其資金ニ對シテ定期ニ最大ノ收入ヲ得ルニ
便利ナル方法ナリトス殊ニ學生ノ如キ若干年ノ後成業ヲ期シ得ヘキ者カ其期
間内ノ放銀ノ手段トシテ最モ其效果多キモノトス又政府ニ於テモ他ノ公債ノ
如ク一時ニ巨額ノ元金支拂ヲ爲スノ要ナク年年元金ノ一部ヲ支拂ヒ不知ノ間
ニ之ヲ償還シ盡スノ利アリ英國ニ在リテハ此定期年金ノ制ヲ單獨ニ用ヒス低

利ノ永久公債ノ債權者ニ對シ其低利ノ補償手段トシ用ヒラレシコト多シ

千七百年ニ英國ノ永久公債ノ利子ハ僅ニ二百六十圓ナリシモ年金(終身年金
ヲ包含ス)支拂高ハ一千二百餘萬圓ニ上リ千七百十一年ニハ猶ホ六百七十八
萬餘圓ノ利子ニ對シ九百十二萬餘圓ノ年金ヲ支拂ヒタリ千八百六十九年ニ
ハ永久公債ノ利子ハ二億二千八百餘萬圓ニ上リ年金支拂額ハ四千餘萬圓ニ
上リ其比率ハ遙ニ下リシモ其絕對額ハ又巨額ニ上レルモノト謂フヘキナリ
佛蘭西ニ於ケル年金ハ英國ノ年金ト異ナリテ政府カ國立銀行鐵道會社其他地
方團體ニ支拂フヘキ年金即チ予カ第四節第二款中契約公債ノ下ニ於テ補給金
トシテ舉ケシモノノ外向ホ有期定期支拂ノ公債(大藏省證券ヲ含ム)ヲ包含セリ
隨テ全ク此ニ之ヲ詳述セルノ要ナキモノニシテ千八百七十六年ニハ其年金支
拂豫算高ハ六千八百八十萬圓千八百八十一年ニハ一億四千三百餘萬圓ナリシト
云フ

上述スル所ニ據リ終身及ヒ定期年金公債ノ概念ヲ叙述シタリ而シテ此年金公
債ハ固ヨリ其體様ノ輕重ニ依リ一樣ニ論斷スヘカラスト雖モ債權者ニ於テ便

利ナル方便ナリトス然レトモ財政上概シテ弊害多キモノトシ現時年金制度ハ漸次其跡ヲ收ムルニ至レリ是レ一方ニハ生命保險又ハ貯金ノ方便完備スルカ爲メ其必要ノ度ヲ減セシノミナラス一方ニハ其體様如何ニ依リ民間ノ資本ヲ吸收スルノ害アルト共ニ長期ノ年金公債ハ通常公債ノ如ク時ノ便宜ニ依リ之ヲ借換又ハ償還ヲ完了スルコト克ハス必ス元金ノ一部及ヒ利子ヲ定期ニ支拂フノ要アレハナリ

之ヲ要スルニ年金ノ制度ハ今日ニ於テハ唯郵便貯金年金ノ制ノ如ク少額ニ限り一種ノ行政上ノ公債トシテ認ムルハ猶ホ可ナリト爲スモ政府カ財政上巨額ノ收入ヲ得シカ爲メ不利益ナル條件ヲ以テ募集シ財政ノ緩急ニ應スルコト能ハス定期ニ定額ノ元利支拂ヲ爲スハ財政上執ラサル所ニシテ十七世紀十八世紀ニ通シテ盛ニ行ハレシモ畢竟政府カ國內ニ存スル債務ニ對シテ利子ヲ支拂フモ人民ハ決シテ損害ヲ被ラスト斷定セル誤見ニ基クモノニ外ナラス隨テ近時社會政策主義ノ發達ハ年金制度ハ又國民ノ多數ヲシテ國民ノ一部ニ支配ヲ爲サシムル所以ヲ闡明シ社會政策上即チ富ノ所得分配上ヨリ觀察シテ等シク

其無益有害ナルコト一般ニ證明セララルルニ至レリ

第十七世紀第十八世紀ニ際シテハ一般ニ公債ヲ以テ其金額ニ比例シテ社會ノ富ヲ増殖スルモノナリトシ公債ヲ以テ絕對ニ利益アルモノトセリ其利害得失ノ如何ハ又茲ニ辯明スルノ要ナキヲ以テ茲ニハ此等論者ノ重ナル所說ヲ列舉スヘシ

「ウポルテール」氏曰ク若シ政府カ内國人ニノミ公債ヲ募ルトキハ該國ハ決シテ衰頹スルコトナク却テ各種ノ事業ヲ獎勵スルモノナリト

「ムロン」氏曰ク政府ハ其公債ニ因リテ衰頹ヲ來スコトナシ如何トナレハ其利子ハ右手ヲ以テ之ヲ收入シ左手ヲ以テ之ヲ支給スルモノナレハナリト

「バルケリー」僧正曰ク公債ハ一種ノ金坑ナリト

「ピントウ」氏曰ク公債ナルモノハ其額面ノ金高ニ等シキ資本ヲ以テ國家ノ富ヲ増加スルモノナリト

「ジュレース、セイム、レヤン」氏曰ク政府ハ公債ヲ募リ以テ一時世間ニ流通スル資本ヲ奪フト雖モ常ニ直チニ之ヲ返還シテ復タ之ヲ融通セシムルモノナリ

如何トナレハ政府ノ公債ヲ募集スルハ之ヲ支出センカ爲メナレハナリト

「カニール氏曰ク英國ノ繁榮ハ一ニ公債ニ存スルモノナリト

或學者曰ク公債ハ大砲ノ如シ若シ彼國民之ヲ用フルトキハ此國民モ亦之ヲ用ヒスンハ危難ヲ避クルコト能ハサルモノナリト

以上列擧スルカ如キ思想ノ行ハレシ際ニ在リテハ年金ヲ他ノ公債ヨリ尊重セルハ又怪ムニ足ラサルナリ

第三目 定期確定公債

甲 定期一時支拂公債

定期一時支拂公債トハ一定ノ期限ニ於テ一時ニ全額ノ支拂ヲ約スル公債ニシテ其期限内ニ於テハ財政甚ク緩裕ニシテ償還ヲ爲スヲ便ト爲スモ此カ償還ヲ遂行スルコトヲ得ヌ又利子ノ歩合ノ變動ニ因リ公債ノ借換ヲ爲スヲ便ト爲スモ此カ借換ヲ遂行スルコトヲ得ヌ而シテ一方ニハ其期限ニ際シテハ財政ノ緩急ニ拘ラス一時ニ其全額ノ償還ヲ期セスンハ非ス隨テ此種ノ公債ハ其額巨額

ニ上ルトキハ絶對ニ採用スヘカラサルモノニシテ若シ財政上ノ方面ヨリ觀テ幸ニ容易ニ之カ償還ヲ爲スコトヲ得ヘキモ一時ニ巨額ノ流動資本ヲ投下スルモノナルヲ以テ物價ノ暴騰ヲ來シ輸入超過ト爲リ貨幣ノ購買力ノ減少ハ事業ノ濫興ト爲リ投機心ヲ挑發シ經濟上ノ害毒ヲ流スニ至ルコト又勤シト爲ササルナリ故ニ此種ノ公債ハ便宜少額ノ募集ニ際シ稀ニ用フヘキ手段ニシテ一般ニ此方法ヲ執ラサルヲ原則ト爲スモノナリ

乙 定期定期支拂公債

定期定期支拂公債トハ一定ノ期間内ニ償還年限及ヒ一定ノ一部償還額ヲ定メテ支拂フ公債ニシテ一時ニ全額ヲ支拂フノ危險及ヒ不利ヲ年限ノ分配ニ依リテ避クルノ法ナリ故ニ通常其全額ノ一部ヲ豫算ニ組入ルコトヲ得ヘク國庫ハ一定ノ公債元利支拂資金ヲ支出シテ漸次濟崩ノ法ニ依リテ此カ完済ヲ期スルモノナリ故ニ其償還年度ヲ經ル毎ニ其前同ニ償還セシ元金ニ對スル利子ハ之ヲ元金ノ償還高ニ加算スルヲ以テ政府ハ同額ノ支出ニ由リ漸次償却高ヲ増加スルコトヲ得ルモノナリ

0325

此公債ノ利益ハ收入金ノ使用法ヲ明カニシテ一ノ特別會計ヲ設クルニ在リ即
 濟崩法ニ依リ精確ナル豫算ヲ設クルコトヲ得ルニ在リ隨テ國家カ平和無事
 ニシテ毎年巨額ノ歲入剩餘ヲ有シ償還ヲ豫期シ得ヘキトキハ其弊害ヲ見ルコ
 ト尠シト雖モ此ノ如キハ稀有ノ例ニ屬スルモノニシテ僅ニ一千八百三年十一
 月三日ルイジニヤ州買上ノ爲メ四箇年ノ年賦償還ヲ以テ起債セル北米合衆國
 ノ例ヲ見ルニ過キス蓋シ此場合ニハ募集額ハ其國ノ財政上少額ニ止マリ隨テ
 此カ支拂期限モ短期ヲ以テ足レリト爲セシモ一般ニ四五十年ヲ以テ償還期間
 ト爲スヲ以テ其間政府カ終始無事平穩ニシテ財政ノ餘裕ヲ期セシコトハ不能
 ニ屬スヘキノミナラス所謂政府カ財政ノ緩急ニ應シテ之カ償却又ハ借換ヲ爲
 スノ便ヲ缺キ(獨逸各州ニハ猶ホ此種ノ公債ノ爲メ市場ノ金利歩合三分四分ノ
 間ヲ昇降スルニ拘シス五分利附ノ支拂ヲ繼續セルモノアリ)又ハ期限ノ到來ニ
 因リテ定額支拂ノ債務ヲ負ヒ爲メニ新ニ高利ノ公債ヲ起スカ如キ弊害少シト
 爲サス殊ニ土耳其埃及等ノ如キ財政ノ信用薄弱ナル國ニ在リテハ債權者ハ自
 己ノ債權ヲ確保スルカ爲メ公債ヲ發行スルニ當リ其契約中每年利子ノ外更ニ

若干ノ金額ヲ支出シ之ヲ以テ償還基金ヲ積立ツヘシト定ムルコトアリ故ニ此
 種ノ公債ニシテ商法ニ於テ所謂建築利子ヲ認ムルカ如キ事業即チ其收益ノ期
 限ニ違スルニ數年ヲ要スヘキ事業ニ投シ又ハ消費公債ニ屬スヘキモノニ在リ
 テハ國庫カ尙ホ資本借入必要ヲ感スルニ際シ負債ノ償還ヲ期スヘキモノニシ
 テ公債ノ發行ト公債ノ償還ヲ同時ニ混合セル變體ト謂フヘク(アダム)氏ノ如キ
 ハ評シテ一種ノ贅澤ナル遊戯ナリト爲セリ

之ヲ要スルニ此種ノ公債ハ一方ニハ國家平和無事ニシテ財政ノ餘裕アルニ際
 シ少額ニ限り短期ニ償還ヲ期スヘキトキハ強テ之ヲ非難スヘカラザルモ此等
 ノ場合ニハ他ニ救済ノ方法尠カラザルヲ以テ定期一時支拂公債ニ比スレハ尙
 ホ一段ノ進歩ヲ見ルモ財政上政府ノ信用ノ薄弱ナルコトヲ證スル不利ノ公債
 ト認メスハ非ザルナリ

丙 定期隨時支拂公債

定期隨時支拂公債トハ一定ノ償還期限ヲ定メ其期限内ニ於テ政府カ隨時ニ支
 拂フ公債ニシテ定期定額支拂法ニ比シテ又一段ノ進歩ヲ爲セシモノナリ即チ

定期一時支拂法ニシテ其期限到達前償還借換ノ自由ヲ有スルモノト見ルコトヲ得ヘシ此公債ハ北米合衆國ニ於テ大藏長官チエース氏ノ始メテ用ヒモノニ係リ合衆國ニ於テ盛ニ行ハルルニ由リ又之ヲ米國法ト稱ス我邦ニ於ケル公債モ亦此制ヲ取ルモノニシテ共ニ公債ノ發行ニ際シ一定ノ据置期限ヲ定メ五十年ヲ以テ通例ノ償還期限ト爲セリ

此公債ノ利害ハ一ニ當局財政家カ其期限内ニ於ケル措置ノ如何ニ存スルモノニシテ若シ立法部行政部共ニ唯其年ノ經費ノ減少ヲ目的トシ隨時ノ支拂タルニ安シシテ平素之カ償還ニ勉メサルトキハ滿期ノ際ニ受クヘキ弊害ハ正ニ定期一時支拂公債ト全ク其轍ヲ同シクスヘキモノナリ故ニ政府此カ滿期ニ際シ平素之カ償還ヲ怠リ殊ニ戰事其他ノ事變起ルトキハ臨時費支給ノ爲メ公債募集ノ必要アル外更ニ舊公債ノ借換又ハ償還ノ爲メ又此カ新公債募集ノ窮況ニ陥ルコトナシトセス「アダム」氏ノ如キハ此點ヨリ永遠公債ノ利ヲ主張シテ又別ニ此公債制度ニ有害無益ニシテ臣民ニ又寸毫ノ保障ヲ與フルモノニ非サルコトヲ論セリ固ヨリ唯リ定期隨時支拂公債ニ限ラルヘキモノニ非サルノミナラ

ス全然同着ヲ表シ難キ點アルモ參照ノ爲メ其大要ヲ掲載スヘシ

定期隨時支拂ノ公債ハ果シテ如何ナル特別ノ利益ヲ有スルカ公債ノ所有者ヲシテ之カ償還請求ノ期限ヲ定ムルモ又以テ永久ニ公債ヲ存續セシメサルコトヲ保證スルニ足ラス如何トナレハ一ノ内閣ハ公債償還ノ主義ヲ實行スルモ將來ノ内閣ヲシテ此方針ヲ遂行セシメ能ハサルノミナラス將來ノ内閣ハ隨時法律ヲ以テ此カ償還期限ノ變更ヲ爲スニ容易ナルヘシ殊ニ一ノ公債ヲ償還スル爲メ更ニ新公債ヲ發行スルコトヲ得レハ公債其モノノ消滅ニ對シテハ何等ノ效果ヲ生スルナク寧ロ當初ヨリ永遠ノ公債ト爲スノ勝レルニ如カサルナリ人或ハ此種ノ法律ノ存在ハ少クトモ公債ノ永續ヲ德義上豫防スルノ效果アルヘシト論スル者アラン然レトモ普通ノ商業ニ於テ長期ノ契約ヲ爲シ又ハ新負擔ヲ起シテ舊負擔ヲ償却スルコトカ廣ク行ハルル慣例タルコトヲ知ラハ以上ノ立論モ亦一片ノ空想タルコトヲ免レサルヘシ

然レトモ此法ハ据置期限經過ノ後ハ財政ノ緩急ニ應シ隨時之カ償還又ハ借換ヲ行ヒ又財政ノ窮況ニ際會スレハ強テ之ヲ償還スルノ要ナク一方ニハ永遠公

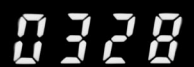
債ノ場合ノ如ク償還ヲ永遠ニ期スルモノニ非サルヲ以テ自然此カ償還ニ勉メ累テ後世ニ貽スノ弊害ヲ輕減スルノ利アリ故ニ財政上ノ措置宜キヲ得ハ有益無害ノ制度ニシテ殊ニ北米合衆國又ハ我邦ノ如キ新開ノ國ニシテ沿革上未タ永遠公債ノ發達セサル所ニ於テハ最モ適當ナル公債ト謂フヘキナリ

第三項 無期確定公債

無期確定公債又ハ永遠公債トハ利子ノ支拂ノミヲ約シ元金ノ償還ニ付テハ期限ヲ定ムルコトナク政府ハ隨時ニ之カ償還ヲ爲シ得ル公債ニシテ現時英佛伊獨等歐洲各國ノ公債ノ大部分ヲ占ムルモノナリ
無期公債ハ債權者ヨリ元金償還ノ請求ヲ受クルコトナク唯之カ利子ヲ支拂フノ責ニ任スルニ過キス即チ臨時費ハ許多ノ小支拂金ニ分割セラレ經常費トシテ認ムルモ敢テ差支ナキニ至ルヲ以テ其負擔ハ勢ヒ緩和ニシテ一方ニハ財政上ノ緩急ニ應シ臨時市場ノ買上又ハ元金ノ支拂ニ由リ便宜所要ノ額ヲ償還スルコトヲ得ルモノトス

學者或ハ無期ノ確定公債ハ唯市場ノ買上ノミニ依リテ之ヲ償還シ得ヘキモノナリト論スル者アレトモ探ルニ足ラス

蓋シ文化ノ進運ハ益實幣ノ供給信用ノ發達ヲ増加シ金利ハ漸次低下スルヲ原則ト爲スヲ以テ今世ノ公債ハ後世ニ於テ高利ノモノト爲リ低利ヲ以テ之ヲ借換ヘ率テ國家ノ經費ヲ節減スルコトヲ得ヘク國家信用ノ遞増スルニ從ヒ當事者雙方ニ於テ利便ヲ享有スルコト鮮少ナラストス
無期ノ確定公債ハ元金償還ノ請求權ヲ認メサルニ拘ラス人民ノ以テ不便ト爲ササル理由ハ一ニ其公債證書ノ賣買授與自由ナルニ存ス故ニ一方ニハ一定ノ資金ヲ放銀シテ永久ニ確實ナル一定ノ利子ヲ所得セントスルモノニ對スル好箇ノ方法タルノミナラス一方ニハ利子ノ支拂金利ノ高低政府ノ信用其他各種ノ理由ヨリ其公債ノ取引價格ノ變動ニ因リ株式市場ニ利益ヲ得ントスル者ニ對シテ又一般ニ歡迎サルルヲ常ナリトシ元金ノ收得ヲ要スルトキハ臨時之カ賣買ニ因リテ毫モ不便ヲ受クルコトナキヲ以テ各國ノ文化ノ發達ニ伴ヒ永久公債ハ漸次遞増ノ趨勢ヲ示スニ至レリ



株式取引所ニ於ケル公債ノ取引高ハ近時遞増シ倫敦取引所ノ如キ取引ノ目
物タル三千八百餘種ノ證券中三百五十種以上ハ公債證券ニ屬セリ殊ニ永
遠公債ハ無記名トシ動産ト同一視セラルルヲ以テ株式取引所ニ於テ取引サ
ルルコト大ナルノミナラス殆ト金融界ニ於テ紙幣ト同一ノ效果ヲ生スルモ
ノナリトス

之ヲ要スルニ無期ノ確定公債ハ全然國家ノ信用ヲ基礎ト爲スモノニシテ無期
公債ノ起債ノ成立セラルル所以ハ適以テ其公債カ市場ニ於テ好價格ヲ保持ス
ルコトヲ表彰スルモノニ外ナラス故ニ若シ其償還期限ノ定ナキニ安シテ等
閑ニ付テ一公債償還セラレサルニ一公債ヲ起シ漸次累積シテ後世ノ負擔ヲ遞
増スルニ至レハ實ニ財政ノ發達整理ヲ阻碍スルノミナラス率テ無期公債成立
ノ基礎タル國家ノ信用ヲ減殺スルコトナキヲ保セス故ニ永遠公債ハ猶ホ租稅
制度ニ於ケル地租又ハ所得稅ノ如ク全ク單獨ニ此ノミニ依頼スヘキモノニ非
スシテ他ノ諸制度ト相持チテ以テ收支ノ適合ヲ計ルヘキモノナルト共ニ經濟
財政ノ發達セル國ニ在リテハ公債ノ最モ重要ニシテ且ツ發達セルモノタルコ

トヲ認メスンハ非サルナリ

第四章 公債ノ募集

第一節 緒論

公債募集ノ方法ハ之ヲ各種ノ標準ヨリ分類スルコトヲ得ヘシ而シテ之ヲ大別
スレハ此カ募集ノ手續ヲ標準ト爲スモノト此カ公債ノ體様ヲ標準ト爲スモノ
ノ二者ト爲スコトヲ得ヘシ今此カ分類ヲ示セハ次ノ如シ

- 第一 募集ノ手續ヲ標準ト爲ス公債募集ノ方法
 - 甲 直接發行法
 - 乙 代理發行法
 - 丙 請負發行法
- 第二 公債ノ條件ヲ標準ト爲ス公債募集ノ方法
 - 甲 發行價額ヲ標準ト爲ス法
 - 乙 割増發行法

ろ 平價發行法

は 割引發行法

乙 籤札ノ有無ヲ標準ト爲ス法

丙 償還基金又ハ抵當物ノ有無ヲ標準ト爲ス法

丁 記名ノ有無ヲ標準ト爲ス法

戊 募集ノ回數及ヒ拂込高ノ多寡ヲ標準ト爲ス法

い 一時發行法又ハ高額拂込發行法

ろ 漸次發行法又ハ低額拂込發行法

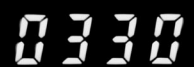
第一及ヒ第二ノ標準ノ區別ハ主トシテ前者ハ公債ノ募集ヲ主觀的ニ觀察セルモノニシテ政府カ直接募集間接募集孰レノ方法ニ依ルヘキヤヲ主トシ公債其モノノ體樣條件ニ就テ論究スルモノニ非ス所謂公債證書發行法ト稱セラルルモノ是ナリ後者ハ公債ノ募集ヲ客觀的ニ觀察セルモノニシテ公債ノ體樣條件ヲ主トシ其如何ナル方法ニ依リ發行セラルルカハ問フ所ニ非サルナリ然レトモ此二者ハ常ニ相關聯シテ第二ノ種別ニ屬スヘキ募集條件カ單獨又ハ二箇以

上合同シテ必ス第一ノ種別ノ孰レカニ依リテ發行セラルルモノニシテ互ニ密接ナル利害關係ヲ有スルモノナリ

上述二種ノ募集方法ニ通シテ別ニ限地發行法限人發行法ト稱セラルルモノアリ

限地發行法及ヒ限人發行法トハ通常特別募集ト稱セラルルモノニシテ政府カ或事業公債ヲ起スニ際シ其事業ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル土地又ハ人民ニ對シテ募集スルモノナリ此方法ハ公債ノ體樣募集ノ手續ヲ標準ト爲スニ非スシテ應募者ノ主體又ハ地域ヲ標準ト爲スモノナルヲ以テ便宜ノ爲メ此ニ述フルコトト爲セリ

此方法ノ利益ハ爲メニ利率發行價格等ニ於テ一般ノ募集ヨリ政府ニ於テ多少ノ利益ヲ得ルニ在リ佛蘭西ニ於テハ各都市ノ公共事業ニ於テ此例ニ依リシモノ多ク其募集ノ方法モ一般ニ其所在ノ人民ヨリ募集スルヨリモ其所在ノ地方團體商業會議所等カ請負發行法ヲ爲スヲ例ト爲セリ今世紀ノ下半期ニ於ケル「ハーヅル」マルセイユ「ボルドー」「ドンケルク」「ローアン」「ガレイ」其他六港ノ築港事



業ノ如キ多ク此例ニ從ヘリ千八百七十年佛蘭西兵制改革ノ結果トシテ諸方ニ銀臺ヲ設置スルノ要ヲ見ルヤ又特別募集ニ依リ三千二百餘萬圓ノ借入ヲ爲シ其貸付ケシ都市ノ數凡ソ八十五ノ多キニ上レリ或特定ノ土地又ハ人民ニ利害關係大ナルモノハ多クハ地方債ニ現ハレ又公債ニ於テモ之ヲ一般募集ト爲ストモ多少其地方ニ於ケル應募力ヲ大ナラシムルモノアルヘキハ當然ノ結果ニシテ唯其特效ヲ奏スヘキハ其地方ノ人民カ經費成效等ノ困難危虞ニ由リ此カ經營ニ躊躇スルニ當リ政府カ契約上此カ起業ヲ爲ス場合ニ在リ即チ所在ノ人民ハ斯業ノ成效ニ因リテ巨大ノ利益ヲ得ヘク若シ失敗ニ了ルモ其投下ノ資本ハ之ヲ蕩盡スルノ患ナク政府ヨリ之カ償還ヲ受クヘキニ由リ普通ノ條件ヨリ利子ノ歩合發行ノ價格等ニ於テ多少ノ不利アルモ進ミテ之カ募集ニ應スルヲ常ト爲スモノナレハナリ

第二節 直接發行法及ヒ間接發行法

直接發行法トハ政府自ラ發行ノ局ニ當リ募集ノ危險手數等一切ノ責ヲ負フモ

ノナリ代理發行法トハ政府カ發行價格利息歩合等總テノ條件ヲ規定シ其執行手續ヲ銀行等ニ代理セシムルモノニシテ銀行ハ唯一定ノ手数料ヲ得テ募集ノ媒介ヲ爲スニ止ムルモノナリ請負發行法トハ銀行又ハ一人ト特約シテ公債募集總額ノ引受ヲ爲サシメ銀行ヲシテ一切ノ責ヲ負ハシムルモノニシテ銀行ハ漸次自己カ引受ケシ公債ヲ公衆ニ再賣スルヲ例トス直接發行法ノ不利ト爲ス點ハ要スルニ證書ノ價格ヲ廉ニシ利子ノ歩合ヲ高クスルノ二點アリ蓋シ銀行家ハ金融市場ノ實況ニ明カナルヲ以テ政府カ直接ニ發行スル場合ヨリ多少高キ割合ニテ引受クルコトアルヘク若シ政府直接ニ發行スルトキニハ銀行家ハ又應募者トシテ其間ニ同盟シテ非常ニ其價格ヲ下スコトアリ又直接發行法ハ請負發行法ノ如ク所定ノ總額ヲ得ルコトヲ確保スルコト克ハサルヲ以テ勢ヒ此カ募集ノ失敗ニ了ラサランカ爲メ利子歩合ヲ高クスル等其公債ノ體様ニ於テ不利ナル條件ヲ以テスルヲ例ト爲スヲ以テ徒ニ巨額ノ失費ヲ見ルコト多シト爲スモノナリ公債募集ノ成效ノ有無ハ應募額ト募集額ト相一致スルニ存シ應募額ノ募集額

ニ下ルコト大ナル場合ハ固ヨリ全然失敗ニ了リシモノナルト同時ニ應募額ノ募集額ニ上ルコト大ナル場合モ亦等シク失敗ニ了リシモノト謂ハスンハ非ス如何トナレハ應募額ノ募集額ニ上ルコト大ナリトハ所要ノ募集額ヲ得ルニ足ルヘキ條件ヨリ猶ホ不利ナル體様ヲ以テセルコトヲ示スモノナリ所要ノ貸財ヲ購買シ得サル場合ハ所要ノ貸財ヲ非常ナル高價ニテ購買セタルト共ニ失敗ニ於テハ一ナレハナリ而シテ直接發行法ニテハ需要額ヲ得ルノ難キヲ過慮スルカ爲メ募集額ヲ低下スルノ弊多キヲ以テ投機ヲ目的トスル申込ヲ挑發シ應募額大ニ募集額ニ超過シテ投機ノ獎勵ヲ爲スコト多ク政府ハ一方ニ募集取扱制戻等ノ手數ヲ要スルノミナラス一方ニハ民間ノ有力者資力ヲ盡シテ募集ニ應シ爾後必要ノ結果トシテ仲フヘキ公債市價ノ騰貴ニ由リ之カ再買ヲ試ミ徒ニ此等少數者ニ壟斷セラルル不當ノ利益ハ遙ニ請負發行法ノ場合ニ銀行ニ與フル請負手數料ヲ超過スルコト數百倍ニ上ルノミナラス却テ投機獎勵ノ害毒ヲ流スコトナキヲ保セサルナリ

應募額カ大ニ募集額ニ超過スルコトハ各國其例ニ乏シト爲サス千八百六十

八年ノ佛國公債ハ應募額募集額ノ三十倍ニ達シ三十億法公債募集ノ時ハ三倍ニ上リ露西亞ニテ「ファストウオ」ラレンボルグ間ノ四百萬圓ノ鐵道社債ハ四十倍ニ達シ千八百七十四年「ウイスタンブル」ワラル間ノ五百三十三萬圓ノ鐵道社債同年葡萄牙政府ノ鐵道公債ノ如キ共ニ百倍ニ上レリ此等ノ現象ハ明カニ應募額ノ募集額ニ下ルコトヲ悞ルルノ餘不當ニ公債ノ條件ヲ低下セルカ爲メ投機者流ノ應募ヲ盛ニシタルコトヲ示スモノニシテ彼ノ佛蘭西巴里府ニ於テ千八百七十六年ニ應募セシ公債ノ如キ當時ノ佛蘭西經濟雜誌ニ於テ「ボリユー」氏ノ如キ九十六ニテ發行スヘキコトヲ論述セルニ拘ラス九十三ノ割引ニテ發行セラレタルカ爲メ未タ十日ヲ經サルニ該證書ハ九十

七乃至九十八ニテ賣却セラレ政府ハ徒ニ三分餘ヲ失ヒタリ
此ノ如ク直接發行法ハ價格ヲ低下シ利子ヲ高ムルノ不利多クシテ結局實質上ノ請負發行法ト爲リ其弊害尠シト爲サス寧ロ公然請負法ニ依リテ資本家中請負ニ對スル競争ヲ利用シテ市場相當ノ價格ヲ以テ發行シ而モ安全ニ所要ノ額ヲ取得スルノ便ナルニ如カス況ヤ公衆ハ又政府ノ募集ニ應スルノ不便ヲ避ケ

銀行ニ依ルヲ便ト爲スニ於テヲヤ

千八百七十五年及ヒ千八百七十六年巴里府ノ公債募集ノトキハ公衆ハ當初募集ニ應セス其後八分若クハ一割丈ケ平價以上ニテ證書ヲ銀行ヨリ買入レシ者尠カラス蓋シ直接發行法ニ在リテ荷モ事應募額カ募集額ニ超過スルカ如キ應募者ニ利益アル場合ナランニハ低價遞減法又ハ高價遞減法等何レノ方法ヲ執ルモ結局其大部分ハ常ニ銀行家ノ手ニ墜ツヘキコト明カナリトス

代理發行法ハ單ニ直接發行法ノ事務取扱ニ付キ銀行カ代理スルニ止マルヲ寧ロ一種ノ直接發行法ト看ルヲ便宜ト爲スノミナラス其利害關係ニ於テ二者頗ル相類似セル所アリ而シテ此等方法ノ利害問題ニ付テハ既ニ上述スル所ニ據リ請負發行法ヲ以テ利便ナリトスルハ各國ノ實例ニ徴スルモ亦殆ト言テ埃タサル所ナリトス而シテ現時資本ノ増殖年ヲ逐フテ大ニ加ハリ銀行ノ數遞増シテ國際間ヲ通シ金融ノ利便アルニ至リテハ特ニ一定ノ銀行又ハ資本家ノ組合ト約ヲ定メテ請負ハシムルノ要ナク此カ請負ヲ一般ノ競争ニ付シ其銀行又ハ資

本家ノ組合中最モ高價ニテ買入ルヘキ者ニ之ヲ請負ハシムルノ法ヲ執ルニ至リシヲ以テ銀行等ヲシテ巨利ヲ壟斷セシムルノ非難ヲ除去スルコトヲ得ヘキノミナラス所定ノ募集額ヲ確實ニ收得スルノ利アルヲ以テ金融市場ノ狀況ニ暗キ政府カ進ミテ直接發行ノ衝ニ當ルハ殆ト近時各國ノ執ラサル所ニシテ唯代理發行法ニ於テ多少ノ例ヲ見ルアルノミ

英國ニ在リテハ第十七世紀ヨリ第十八世紀ノ初期ニ至ルノ間ハ重ニ代理發行法ヲ用ヒ英國銀行ヲシテ代理ノ衝ニ當ラシメタリ其後「ウヰリヤム・ピット」ノ時ニ至リ競争請負發行法ヲ行ヒ爾後一二ノ例外ヲ除クノ外ハ總テ競争請負發行法ヲ執レリ又佛國ニ在リテハ今世紀ニ於テハ中頭那破翁三世カ直接發行法ヲ執リシ外ハ概シテ競争請負發行法ヲ執リ近時歐米各國ハ皆競争請負發行法ヲ執ルヲ原則ト爲セリ我邦ニ在リテハ專ラ日本銀行ニ由リ代理發行法ヲ執ルモ其募集費ハ外國ノ場合ニ比シテ僅少ナルカ故ニ代理發行法トシテハ比較的良好ナルモノニ屬セリ殊ニ我邦ノ經濟界ハ未タ競争請負發行法ニ依ルコト能ハサルハ言テ埃タサル所ナリトス

直接發行法ノ不利ナルコトハ既ニ上述スル所ノ如シ然レトモ此方法ニ附帶シテ低價遞減法及ヒ高額遞減法ヲ行フトキハ又多少ノ利益ナシト爲サス此等ノ遞減法ハ請負發行法ニ於テハ之ヲ望ムコト難キヲ以テ代理發行法等ニ此等ノ遞減法ヲ用フルトキハ又特種ノ效果ヲ有スヘキモノナリトス

低價遞減法トハ應募高募集高ニ超過スルトキハ應募價格ノ高キ者ヨリ漸次ニ證書ヲ交付シ政府ノ募集高ニ滿ツルヲ以テ之ヲ止メ其同價ノモノニ對シテハ應募額ニ比例シテ之ヲ削減スルモノニシテ又高價發行法高價無減法ト曰フ蓋シ直接發行法及ヒ代理發行法ニ在リテハ政府之カ募集ノ衝ニ當ルモノナルヲ以テ政府ノ信用ヲ維持シ公債募集ノ成效ヲ熱望スルノ餘低價高利ノ弊ニ陷リ易ク其極應募高募集高ニ數十倍スルカ如キ失態ヲ見ルコト多キハ既ニ上述スル所ナリ隨テ此等ノ場合ニ於テ政府カ低價遞減法ヲ行フ旨ヲ明カニセハ應募者ハ其申込ノ全額ヲ受取ルコト能ハサルコトヲ虞レテ發行價格以上ノ申込ヲ爲シ需要供給ノ原則上自然ニ價格ノ昂騰ヲ來シテ市場相當ノ價格ニ至ルヲ例ト爲シ或ル程度マテハ低價高利ニ因ル弊害ヲ減殺スルコトヲ得ヘキモノナリ

低價遞減法ノ實例ハ各國其例ニ乏シカラス今我邦ニ於ケル實例ノ重ナルモノヲ舉レハ次ノ如シ

明治十七年ヨリ十八年マテ三回ニ發行セル中仙道鐵道公債ハ我邦ニ於テ低價遞減法ヲ以テ募集セシ嚆矢ニシテ第一回ノ發行額面高ハ五百萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十圓トシ其實收額ハ四百五十萬三千九百九十六圓ニ上リ第二回ハ發行額面高ハ一千萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十圓トシ其實收高ハ九百萬六千八百八十四圓ニ上リ第三回ノ發行額面ハ五百萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十五圓ニ改メ其實收高ハ四百七十八萬四千六十八圓ニ上レリ

明治十九年ヨリ二十年マテ四回ニ發行セル海軍公債第一回ノ發行高ハ五百萬圓ニシテ實收高ハ五百八十八萬七千八百圓ニ上リ其最高價格ノ百圓ニ對シ百十圓ノ多キニ上リタリ(第二回以下省略)

明治十九年ヨリ二十五年マテ前後八回ニ發行セル整理公債ハ第一回ニハ百圓ニ付キ發行價格九十八圓ト爲シ他ハ總テ平價發行ト爲セシカ實收高ハ常ニ百圓ニ超過スルコト四五錢ヨリ多キハ三圓餘ニ達シタリ

明治二十二年發行セラル鐵道費補充公債ノ如キハ平價發行ナリシモ實收額ハ百圓ニ付キ百三圓十五錢強ニ上リ募集額ニ超過スルコト七千〇九十一圓ニ達シタリ

其他鐵道公債軍事公債等何レモ低價遞減法ニ依リ皆多少ノ成效ヲ見ルニ至レリ然レトモ注意ヲ要スヘキハ低價遞減法ヲ用ヒテ之ニ因リテ削減セララル申込額ノ大ナル丈ク又其最高價格申込ノ高大ナル丈ク一方ニハ政府カ公債ノ募集ニ對シ低價高利ノ甚シカリシコトヲ證明スルコトニシテ高價遞減法ノ成效大ナル丈ク政府當初ノ豫定ノ事實ニ違カルコトヲ現ハスモノナリ高價遞減法トハ應募高募集高ニ超過スルトキニ一定ノ申込額以上ノモノニ限リ其申込高ニ比例シテ之ヲ削減スルモノニシテ又小額無減法、小額發行法ト曰フ此方法ハ主トシテ社會政策主義ヲ加味セルモノニシテ下級人民ノ手ニ落ツル所ノ證書ノ數ヲ増加シ應募者ノ數ヲ大ニシテ公債證書ノ普及ヲ期スル方策ナリトス即チ一方ニハ漸次下級人民ヲシテ貯蓄獎勵ノ端緒ヲ發シ一方ニハ一部ノ資本家ノ投機ノ具ト爲ルコトナク之カ證書ノ普及ハ之ニ對スル利害關係

者ノ數ヲ増スニ外ナラサルヲ以テ政府ノ信用社會ノ安寧維持ニ對シ又多少ノ效果ナシトセス此法ハ佛蘭西ニ於テ最モ多用ヒラレ我國ニ在リテモ整理公債ノ普通募集ノ場合ノ如キ又等シク此法ヲ行ヒタリ

第三節 公債ノ條件ヲ標準ト爲ス公債募集方法ノ分類

第一款 割増平價及ヒ割引發行法

割増發行法トハ額面高以上ノ價格ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高價還高ヨリ大ナル場合ナリトス此方法ハ其他ノ條件ノ如何ニ依リ又ハ市場遊金ノ多少公債其モノノ性質政府ノ信用ノ大小等ニ依リ此ヲ起スコトヲ得サルニ非サレトモ徒ニ人民ノ感情ヲ害スルノ嫌ナシト爲ササルノミナラス寧ロ利子其他ノ條件ヲ變更シテ平價發行ヲ爲シ得ヘキモノナルヲ以テ實際ニ殆ト其例ヲ見サル所ナリトス
平價發行法トハ額面高ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高ト價還高ト相等シキ場合ナリトス

割引發行法トハ額面高以下ノ價格ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高債還高ヨリ小ナル場合ニシテ又呼價發行法ト稱セララルモノナリ蓋シ割引發行ノ必要ハ多ク政府發行ノ公債ノ利子カ一般市場ノ利子ヨリ低キカ若クハ募集ノ結果市場ノ利息昂騰シテ公債ノ利息ヨリ上ルヘキ場合カ或ハ政府ノ信用薄弱ナル等總テ募集困難ノ際ニ於ケル一ノ調和策トシテ用ヒラルモノニシテ近時ハ一般ニ利子其モノノ歩合ヲ變更スル代リニ割引ノ高低ヲ爲スモノ亦尠シト爲ザス今其利益ナリトスル重ナル點ヲ舉クレハ次ノ如シ

第一 割引發行ノ場合ニハ低價遞減法ニ依リテ實際豫定ノ價格ヨリ多額ノ實收額ヲ得ヘキコト

北米合衆國ニ於テ大藏大臣ガラチン氏二百萬弗ノ公債ヲ募集スルニ際シ額面百弗ニ付キ總テ九十三弗ノ割引價格ヲ以テシ其申込價格ニハ額面百弗ニ付キ平價ヨリ九十三弗マテノ等差アリシモ總テ之ヲ九十三弗ニテ發行シタリ然レトモ此ノ如キ極端ナル公平ハ商業上ニ於テ行ハルルコトナキノミナラス經濟上需要供給ノ原則ニ依ルモ強テ九十三弗ニ一致セシムルコトハ却

テ公平ノ實ヲ舉クルモノト謂フヘカラス如何トナレハ應募者ノ各自其融通シ得ル資本ニ對スル事情國債ノ信用利益ニ對スル需要ノ程度ハ各自其趣ヲ異ニスルノミナラス公債其モノノ價格ハ他ノ貨物ノ價格ノ如ク精確ヲ得ヘキモノニ非サレハナリ故ニ此ノ如キ極端ナル例ハ一般ニ執ラサル所ニシテ隨テ低價遞減法ニ依リ多額ノ實收額ヲ見ルコト其例多シト爲スモノナリ

第二 割引發行ハ平價發行法ヨリモ利子低廉ナルカ故ニ外見ニ於テ政府ノ信用大ナルカ如キ觀アルコト

第三 利子ノ歩合比較的低下ナルニ由リ表面上人民ノ負擔上一般ノ感情ヲ害スルコト少キコト

第四 利息制限法ニ依リテ平價募集ヲ爲ス能ハサル場合ニ於ケル調和ノ手段ト爲ルコト

第五 平價發行法ニ比シテ政府ノ實收額大ナルコトヲ得ヘシ即チ今平價發行ノトキハAナル額ニ對シ五分利附ナリトシ之ヲBナル額ニ割引スルトキハ四分利附ト爲ルヘキ場合ニ於テハ事實四分利附ニテBナル額マテ割引スルコト

ヲ要セスBヨリ多キ額ニテ猶ホ四分利附ヲ以テ募集スルコトヲ得ヘキコト
 割引發行法ハ英國ニ於テ北米合衆國獨立戰爭ノ後、ウヰルヤム、ピント」カ當時國
 事多端ニシテ利息ノ歩合高キヨリ利息制限法ヲ避クルカ爲メ實收高百磅ニ對
 シ三分利附ノ百八十磅或ハ百九十磅ノ證書ヲ發行セルニ始マリ、爾後各國ニ於
 テ盛ニ行ハルル所ナリ殊ニ英國ノ如キハ此外平價發行法ニ年金ヲ附帶シテ事
 實上割引發行法ヲ行ヒ千八百五十五年クリミヤ戰爭ノ爲メ起セシ一億六千萬
 圓ノ公債ニ二分ノ利子ヲ附シ千圓ノ拂込ニ對シテ三十年間七圓二十四錢ノ年
 金ヲ附スルカ如キ近時ニ至ルモ猶ホ此錯雜ニシテ弊害多キ方法ヲ慣行セリ我
 邦ニ於テモ明治十一年ノ起業公債ニ於テハ六分利附ニテ額面百圓ニ付キ八十
 圓ノ割引發行法ヲ行ヒ近時軍事公債ニ至ルマテ割引發行法ヲ行ヘル例尠シト
 爲サス

割引發行法ニ於テ前掲利益アリト爲ス點ハ第一ノ如キ平價發行法ニ於テモ等
 シク低額遞減法ヲ行フコトヲ得ヘキヲ以テ割増發行法ニ特有ノ利益ト爲スヘ
 キノミナラス第二第三ノ如キハ固ヨリ表面上一時ノ利益ノ假現ニシテ却テ後

來ニ重大ナル害毒ヲ貽スモノタリ又第四ノ如キハ昔時利息制限法ノ規程存セ
 シ時代ニ於ケル理由ノ一タルヲ失ハサルヘキモ今日ニ於テハ利息制限法其モ
 ノカ一般ニ認メラレザルヲ以テ復タ割増發行法ノ利益ト認ムヘカラス而シテ
 第五ハ結局一種ノ割増公債ト同シク應募者ニ於ケル射利心投機心ヲ利用スル
 モノナリ即チ平價發行ノトキハ平價以上ニ上ルトキハ政府ハ進ミテ借換ヲ行
 ヒ其價格ノ變動ヲ防クコトヲ得ヘキニ依リ割引發行ノ場合ノ如ク變動ノ區域
 大ナルコトヲ得ス又平價發行ノ證書ノ利子ハ高シトモ割引價格ト償還價格ノ
 差異ニ由ル利益ノ如ク大ナルヲ得ス而シテ年年抽籤ニ由ル償還ニ因リ應募者
 カ早ク當籤スヘシトノ僥倖心ニ由リ平價發行ノ場合ヨリ利子及ヒ割引額ノ步
 合ニ因リテ多少ノ利益ヲ得ルコトナシト爲サス即チ眞ニ貯蓄ノ方便トシ資本
 ノ利殖ノ方便ト爲ス者ニ在リテハ利害關係尠キモ其證書價格ノ高低ニ依リテ
 利益ヲ博セントスル投機者流ノ最モ歡迎スル所タルヘキハ又言フ埃タサル
 ナリ

割引發行法カ一時利子ノ支拂ヲ輕減シ時ニ平價發行ヨリモ多少ノ實收ヲ増ス

（キ）ハ事實ナリト雖モ之ニ伴フ弊害ハ遙ニ之カ利益ヲ超過スルモノナリ如何トナレハ居常多少ノ利子支拂ニ於テ輕減セラルルモノハ償還ノ際ニ於テ一時ニ巨額ノ支拂ヲ爲スヘキモノタルヲ以テ此カ償還ノ時期漸次延期セラレ償還ノ困難ヲ助長スルハ定期公債ノ下ニ於テ違ヘタル所ト異ナルコトナシ而シテ其最モ通弊ト爲ス所ハ此カ借換ノ困難ナルニ在リ割引發行法ノ利子ハ市場ノ利子ヨリ歩合低キノミナラス公債募集後市場平穩ト爲リ年ヲ逐フテ金利漸次下落スレハ平價發行法ニ依ルモノハ便宜之カ借換ヲ爲シ得ルニ拘ラス割引發行法ニ在リテハ之カ利便ヲ失ヒ平價發行法ノ場合ニ比シテ多少ノ損害ヲ甘ンスヘキ觀ヲ生シ結局未來ニ重大ナル義務ヲ殘スコト平價發行法ヨリ大ナリト謂ハスルハ非ス北米合衆國ノ如キ割引發行法ノ比較的無事ニ償還セラレルハ一方ニハ其發行度數少キト一方ニハ產業隆盛ニシテ民富過増シ國庫ノ剩餘金又多キニ由ルモノニシテ千八百六年ガラチン氏ノ財政報告ニ於テハ割引發行法ノ公債償還ニ阻碍ヲ與フルコト大ナルコトヲ論シ三分利附公債ニ或變更ヲ行フヘキ權限ヲ與ヘラレンコトヲ請ヘリ而シテ之ヲ歐洲各國ノ實例ニ徵スレ

ハ近時公債ハ巨額ニ累積シテ久シク償却セララルコトナク「ルロア、ボリユー」氏ノ如キ歐洲諸國ノ公債ノ永續スルコトハ其原因專ラ割引發行法ニ存スルモノナリト言フニ至レリ

第二款 藏札附發行法

藏札附發行法トハ證書ニ藏札又花札ト曰フヲ附シ利拂ノトキ證書ノ所有者ニ抽籤ヲ行ハシメ其當籤者ニハ所定ノ利子ノ外更ニ若干ノ金額ヲ與フルノ方法ナリ其人ノ射伴心ヲ目的ト爲スハ割引發行法、年金附發行法ト相異ナルコトナク其利害問題モ亦絕對ニ之ヲ論定シ難キコトハ上述スル所ナリ本論ニ就テハ既に前章確定公債中割増公債ノ下ニ於テ其大要ヲ説明シタルヲ以テ此ニ之ヲ略ス

第三款 償還基金又ハ抵當物附發行法

公債ハ其募集ノ當時ニ元利支拂ノ方法等ニ付キ精確ナル計畫ヲ豫算スヘキコト

固ヨリ言フ埃タス而シテ往時信用未タ鞏固ナラサル時代ニ在リテハ債權者ニ對スル元利支拂ノ法トシテ償還基金ノ法ヲ設クルヲ例トシ英國ノ如キハ今日ニ於テ猶ホ此方法ヲ牢守セリ其設定ノ方法ハ或ハ當初ヨリ募集金ノ幾分ヲ割キ利倍増殖ノ法ニ依ルアリ或ハ特別ノ租稅ヲ以テ之ニ充ツルアリ或ハ一般收入ノ一部ヲ割キテ之ニ充ツルアリ英國ノ如キハ當初各公債ニ應シテ各特種ノ租稅ヲ以テ特別基金ト爲セシモ其煩雜不便ヲ避クル爲メ千七百十五年ヨリ特別基金ヲ合シテ一基金トシ便宜各種ノ公債ヲ償還スルコトト爲セリ
 抵當物ヲ附スルノ法ハ又往時一般ニ行ハレシ法ナリト雖モ今日ニ於テハ唯財政ノ薄弱ナル政府ニ貸與スル外國債ニ於テ之ヲ見ルニ過キス我邦ニ在リテモ維新前諸侯カ金主ヨリ借財ヲ爲ストキハ多ク物品稅ヲ抵當ト爲スヲ例ト爲シタリ方今ニ在リテ信用ノ發達上一般ニ抵當物ヲ附スルコトナキモ專業公債ノ類ハ其事業ノ收益ニ依リテ之カ元利ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ得ヘキモノナルヲ以テ其事業自體カ間接ノ擔保タルヘキモノナルニ由リ一般ニ他ノ公債ニ比シ起債力大ナリトス

各藩ノ租稅ハ概テ物品稅ニシテ此物品ノ處分ニ付テハ各藩多少ノ相違アレトモ要スルニ其物品ハ商買ニ賣却スルコトナルカ何レノ藩ト雖モ收入ノ大部分ハ江戸邸並ニ參勤交代ノ費用ト公役金賦課ニ費消セラレテ租稅收納前既ニ早ク借金ヲセサル者ナケレハ其收納物ハ之カ償却ニ仕向クルモノ多シ而シテ西國ノ諸侯ハ勿論其他ノ藩ト雖モ其債主ナルモノハ概テ大坂ニ在リテ收納物ハ皆大坂ニ運搬シ其之ヲ處分スルニ付テモ直チニ抵當物ナリトテ債主ニ引渡スヘ藩ノ不面目ナリトシ各藩各自ニ賣却スルカノ如ク錢フモ實際ハ債主ニ差押ヘラレタルト同一ノ結果ヲ以テ賣捌クナリ(中略)

當時ニ在リテハ其藩ノ財政好都合ナル時ハ抵當ヲ要セサルモ然ラサルトキハ皆抵當ナキハナシ左レト質物ノ如ク物品ヲ送ルニ非ス今同ノ借財ニ對シテハ何ノ租稅ヲ引當トセン或ハ平年大坂ニ輸送スル米ハ何萬石ナルモ何萬石ニ増加スヘシト片約束ノ如キコトヲ爲ス然ルニ其實當時ニ在リテハ相互ノ約束ト異ナルコトナク又引當ト稱スルハ今ノ抵當ト相同シキモノナリ云

云國家學會雜誌第三百三十七號末松博士ノ封建時代ノ財政參照

減債基金法ノ不可ナルコトハ公債ノ管理及ヒ償還ノ章ニ於テ之ヲ論述スル所アルヘキヲ以テ此ニハ其大略ヲ述フルニ止ムヘシ由來減債基金法ハ無用ニ巨額ノ資金ヲ遊金ト爲スノミナラス事實此法ノ設定ハ債權者ヲシテ必ス此基金ヨリ其負債ヲ支拂ハシムル權利ヲ與フルモノニ非スシテ政府ハ財政上此基金ヲ他ニ流用シ得ヘキモノナレハ單ニ名義上債權者ニ多少ノ安心ヲ與フルニ過キサルモノナリトス隨テ政府ノ信用發達セル今日ニ於テ特ニ此等始息ノ手段ヲ用フルマテモナク歳入ノ剩餘又ハ當該年度ノ特別收入アル場合其他財政ノ緩急ニ應シテ之カ償却ヲ爲スヲ以テ足レリト爲スモノナリ彼ノ抵當物ヲ附スルカ如キモ其抵當物ハ私人小額ノ取引ノ擔保ト爲ル場合ト異ナリ巨額ヲ要スルモノナルヲ以テ性質上無効ニ陥ル場合多シ秘魯ノ「グワノ」爲糞土耳其ノ「アナトリー」ノ羊ノ如キ此類ナリ

第四款 記名發行法及ヒ無記名發行法

公債證書ヲシテ其法價ヲ維持シ之カ利便ヲ大ナラシメンニハ先ツ此カ利用融

通ノ便ヲ開カスンハ非ス即チ單ニ普通ノ指名債權ト異ナリテ賣買取引ニ利用セシメ商事契約ノ擔保品ト爲サシメ紙幣發行ノ準備タラシムル等總テ金融上ノ利器トシテ此カ移轉ノ便ヲ計ルコトヲ要ス近時無期ノ公債認メラルルニ至リテハ殊ニ其必要大ヲ加ヘ無記名ノ制ハ廣ク行ハルル所ト爲レリ各國ノ法律又之ニ對シ多ク動産ト同一ニ看做シ交換ノ媒介トシテハ紙幣ト殆ト同一ノ機能ヲ有スルニ至レリ然レトモ一方ニハ公債其モノノ移轉ヲ望ムコトナク單ニ利息ノ收入ヲ以テ足レリト爲ス者ニ對シテハ記名ノ制ハ火災盜難紛失毀損等ノ危險ニ對シ一ノ保障ト爲ルヘキヲ以テ又無用ナリト謂フヘカラス隨テ所有者ノ請求ニ因リ一定ノ手数料ヲ附シテ記名又ハ無記名ト爲スコト最モ便利ニシテ各國ニ於テ又遍ク行ハルル所ナリ

第五款 募集ノ回數及ヒ拂込ノ多少ヲ標準ト爲ス法

募集ノ回數少ケレハ拂込高多ク募集ノ回數多ケレハ拂込高少シ而シテ募集ノ回數ノ多少換言スレハ一時ニ公債ヲ募集スヘキカ漸次ニ公債ヲ募集スヘキ

カハ主觀的ニハ其需要ノ緩急ニ支配セラレ客觀的ニハ供給ノ狀況ニ支配セラ
 ル蓋シ一時募集ノ法ハ市場ノ狀況ニ由リ稀ニ漸次募集ヲ爲シ難キ場合又ハ其
 公債ハ戰爭事變ニ際シ一時ニ總額ノ需要急迫ヲ告クルカ如キ例外ノ場合ヲ除
 クノ外ハ勉メテ避クヘキ手段タリ是レ一方ニハ一時ニ巨額ノ流通資本ヲ吸收
 シテ金融市場ノ擾亂ヲ來スヘク一方ニハ急促ノ需要ナキ資金ニ對シテ等シク
 無用ノ利子ヲ支出スルモノナレハナリ漸次ノ募集方法ニ於テモ猶ホ其募集回
 數ノ多寡ニ伴ヒ拂込高ニ大小ノ差異ヲ來スヘキコト固ヨリ言テ埃タス回数ヲ
 多クスルハ下級人民ノ貯蓄獎勵ノ一法タルハ高額遞減法ト同一ノ主旨ニ出ツ
 ルモ一方ニハ拂込ノ手續ヲ重スルノ不便アリ我邦ノ如キハ多ク二回乃至五回
 ヲ平均ト爲スモ佛蘭西ノ如キハ下級人民ノ貯蓄心厚ク政府亦此カ獎勵ニ留意
 スルヲ以テ通常募集ノ回数十回ニ亘ルヲ例ト爲シ普佛戰爭ノ際十二億圓ノ國
 債ヲ募集セン場合ノ如キ拂込ノ度數ハ二十一回ノ多キニ上レリ蓋シ募集ノ回
 數ハ市場ノ狀況募集額國債ノ性質等各種ノ點ニ由リ多少ノ斟酌ヲ加フヘキモ
 成ルヘク其回数ヲ多クシテ下級人民ヲシテ此カ募集ニ應スルノ便ヲ開クハ社

會政策上喜フヘキコトナリトス

募集回数ノ多少ニ拘ラス此カ拂込ノ當初ニ際シ保證拂ノ制ヲ設クルハ各國共
 ニ一致スル所ナリ保證拂トハ公債ノ申込ヲ爲ス時同時ニ申込ノ保證トシテ其
 申込高ノ一部ヲ拂込マシムルノ法ニシテ申込後市場ノ狀況應募者自體ノ都合
 上之カ拂込ヲ怠リ政府當初ノ目的ヲ誤リ再ヒ不足ノ部分ニ對シテ募集ノ手續
 ヲ重スルノ弊害ヲ避クルカ爲メニシテ各國保證拂ノ額ハ其申込額ノ一割ヲ以
 テ例ト爲セリ普佛戰爭ノ際ハ戰時ニ際シ此カ拂込ノ確實ヲ期スルコト必要ナ
 ルニ於テ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ若干ノ期間ノ猶豫ヲ與ヘ其期間中ニ拂込ヲ
 爲ストキハ之ニ其遲延利子ヲ附スルコトヲ條件トシ此期限ニ至リテ猶ホ拂込
 ヲ爲ササルトキハ之ヲ沒收スルヲ例トス整理公債條例第八條參照是レ一般株
 式會社ノ株式申込ニ於テモ等シク見ル所ニシテ數次ノ拂込ニ對シテ當然伴フ
 ヘキ制度ナリトス

公債ハ汎ク社會ノ階級ニ普及セラルルモノナルヤ又普及シ得ヘキモノナル
 ヤ若シ普及シ得ヘントスレハ社會現象トシテ喜フヘキモノナルヤ此等ハ財

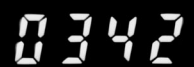
政治上經濟上政治上ニ通シテ最重要ナル問題ニ屬セリ茲ニ之ヲ詳論スルコトヲ得ケルハ余輩ノ甚々遺憾ト爲ス所方ビトモ左ニアダムス氏ノ所見ノ一
 片ヲ摘載シ公債ノ分配ニ關スル研究ノ實ニ供スヘシ但シ氏ノ所論ニ對シ全
 然同意ヲ表シ難キ點アルハ余輩ノ上述スル所ニ據リ自ラ明カセルヘシ
 公債ニ伴フ社會的勢力ハ公債ノ所有者カ國民間ニ分配スル有様ニ依リテ定
 マルモノナリ公債ノ所有者廣ク國民間ニ普及スルハ政治上産業上社會ノ健
 全ナル狀態ヲ示スモノナリトハ普ク世上ニ行ヘルル一說ナリ例ヘハ佛國ニ於
 テハ多數ノ國民公債ヲ所有スルハ佛國ノ學者常ニ自贊スル所ニシテ彼等ノ
 所謂平民的ノ公債ト稱スルモノナリ即チ一千八百七十年ヨリ一千八百七十
 六年ニ至ル六年間佛國ニ於テ發行シタル公債ノ額ハ從前ニ二倍シ公債所有
 者ノ數ハ四倍ニ上リ一千八百七十六年十二月三十一日ニ於テハ公債所有者
 ノ人員ハ四百四十萬四千七百六十三人ノ多キニ達セリト云ヘリ然レトモ之
 ヲ純然タル財政上ノ點ヨリ觀察スルトキハ公債ノ所有者一般ニ普及スルハ
 必スシモ喜フヘキコトニ非ス公債所有者ノ人員多キトキハ當ニ公債取扱上

ノ費用ト手續トヲ增加スルノミナラス政治家ニ黨派若クハ自己ノ便利ノ爲メ
 ニ公債所有者ヲ利用スルノ便ヲ與ヘ財政家ノ目的ヲ阻害スルコトアリ現ニ
 佛國ニ於テ政府ハ公債所有者ノ投票ヲ失ハンコトヲ恐レ公債ノ借換ヲ爲サ
 ス數年間一般ノ利率ヨリ高キ利息ヲ公債ニ支拂ヒタルコトアリ又經濟上ヨ
 リ論スルモ公債ノ普及スルハ必スシモ實費スヘキモノニ非ス蓋シ全國民總
 テ生産的ノ事業ニ熱中スルハ是レ經濟社會ノ健全ナル狀態ナリ故ニ公債ノ
 利子ヲ國家ヨリ受取リ安逸ノ生計ヲ爲ス者多キトキハ國家ハ經濟上國民ノ
 活動ヨリ生スル利益ヲ失フモノニシテ公債所有ノ一般ニ普及スルコトヲ可
 ト爲ス者ハ全ク社會的ノ思想ニ基ケルモノト謂ハサルヘカラス

第五章 公債ノ管理

第一節 緒論

公債ノ管理ナル意義ハ之ヲ廣義ニ用フルトキハ凡ソ三部ニ分ツコトヲ得ヘシ
 公債ノ募集公債ノ變更及ヒ公債ノ償還是ナリ之ヲ狹義ニ用フルトキハ其一部



タル公債ノ變更ノミヲ意味スルモノニシテ予ハ茲ニ公債ノ管理ナル意義ヲ狹
義ニ用ヒ公債ノ募集及ヒ公債ノ償還ニ至リテハ之ヲ前章及ヒ次章ニ於テ講述
スルコトト爲セリ

公債ニ關スル政府財政上ノ行動ハ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ルヲ目的
ト爲スヘキハ言フ埃タサル所ナリ而シテ此目的ヲ達スルカ爲メ公債ノ募集及
ヒ償還以外ニ新ニ公債變更ノ手段ヲ用フルニ至リシハ近時公債ノ發達ニ伴フ
特徴ノ一ニ算定セスンハ非ス蓋シ茲ニ公債ノ變更ト稱スルハ在來ノ契約ノ形
式ノ變更ヲ指スモノニシテ元金利子ノ歩合償還及ヒ支拂期限、据置期間擔保額
札等凡テ公債ノ體様ノ一ヲ變更スルモ又公債ノ變更ニ外ナラサルモ所謂最少
ノ勞費ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ヘキ財政上ノ手段ニ至リテハ常ニ利子ノ歩合ノ
變更ニ在リ故ニ學者或ハ公債ノ變更ト稱セスシテ公債ノ借換又ハ公債利子ノ
管理ト稱スルコトアリ

「ヘンリー、シ、アダムス氏ノ如キモ亦利子ノ低減ヲ主トシ公債ノ元利償還ハ絶
ニス國民ニ負擔ヲ貽スモノナルヲ以テ財政家ハ正當ノ手段ニ依リテ此負擔

ノ輕減ヲ計ルヘキモノナリトシ此目的ニ由リ政府カ公債ヲ管理スルニハ左
ノ三箇ノ理想ニ據ルヘキモノト爲セリ

一 平時公債ヲ利用スル方法アルトキハ公債ノ弊害ヲ除去シ此カ效驗ヲ
大ニスルコトヲ得ヘシ

即チ公債ノ利用ト稱スヘキモノニシテ氏ハ主トシテ公債ヲ以テ銀行ノ
紙幣發行ノ準備ト爲スコト商業上ノ擔保品トシテ利用スルコト利子ノ
期限前拂臨時ノ公債買上等ニ因ル金融市場ノ救濟等ヲ論述セリ

二 公債ノ利率ヲ低減スルコトヲ得ハ公債ノ負擔ヲ減少スルコトヲ得ヘ
シ

即チ氏カ公債ノ借換ト稱スルモノニシテ本章ニ於テ主トシテ講述スル
借換モノナリ

三 公債ノ負擔ハ借入レタル元金ノ償還ニ因リテ之ヲ除去スルコトヲ得
ルコトヲ得ヘシ

即チ氏カ公債ノ償還ト稱スルモノニシテ次章ニ於テ講述スヘキモノナ

公債ノ利子ノ變更ハ之ヲ大別シテ公債ノ借換及ヒ公債ノ利子引下ノ二者ト爲スコトヲ得ヘシ面シテ其ニ合法ナル場合ト違法ノ場合トアリ但シ公債ノ利子ノ引下ハ國家財政ノ非況ニ陥リシ場合ノ窮策トシテ之ヲ例外ト爲シ公債ノ借換ヲ以テ公債管理ト殆ト同意義ニ用フルハ多クノ著書ニ於テ見ル所ナリ予ハ本章ニ於テハ第二節ニ於テ公債ノ借換第三節ニ於テ公債ノ利子引下ノ二者ヲ論シ序次ノ便宜ノ爲メ第四節ニ於テ公債ヲ課稅物件ト爲スノ可否ニ付キ一言スル所アルヘシ

第二節 公債ノ借換

公債ノ借換ハ又廣ク既ニ現存セル公債ノ形式ヲ變更スル財政上ノ處分ヲ意味スルコトアリ然レトモ茲ニ所謂公債ノ借換トハ高利ノ公債ヲ新ニ低利ノ公債ト交換スル財政上ノ處分ヲ謂フモノニシテ之ヲ借換ノ強制ニ依ルト隨意ニ依ルトニ由リ強制的公債ノ借換ト任意の公債ノ借換ト二種ニ分ツコトヲ得ヘク

又適法ニ公債ノ借換ヲ爲シ得ヘキモノナルヤ否ヤニ由リ合法的公債ノ借換ト違法の公債ノ借換ト二者ニ分ツコトヲ得ヘシ

第一 合法的公債ノ借換トハ借換ヲ要スル公債ノ體様カ借換ヲ爲スモ契約ノ條件ニ反スルコトナキ場合ヲ指スモノニシテ反面ヨリ觀察スレハ有期隨時支拂公債及ヒ永遠公債ノ據置期限ヲ經過セル場合ノ如ク政府カ之カ償還ノ期限ニ對シ契約上毫無制限ヲ受ケサル場合ノ借換ヲ謂フ

第二 違法の公債ノ借換トハ借換ヲ要スル公債ノ體様カ借換ト相抵觸スル場合ヲ指スモノニシテ反面ヨリ觀察スレハ有期隨時支拂公債及ヒ永遠公債ノ據置期限内又ハ其他ノ公債ノ如ク政府カ之カ償還ノ期限ニ對シ契約上既ニ制限ヲ受ケタル公債ノ借換ヲ謂フ

第三 強制的公債ノ借換トハ其借換ヲ要スル公債ノ合法ナルト違法ナルトヲ問ハス之カ債權者ニ元金ノ償還ヲ爲スコトナク總テ新公債ノ交換ヲ強制スル借換ヲ謂フ

第四 任意の公債ノ借換トハ其借換ヲ要スル公債ノ合法ナルト違法ナルトヲ

問ハス之カ債權者ニ元金ノ償還ト新公債ノ交付ニ對シ選擇ノ自由ヲ與ヘタル借換ヲ謂フ

上述スル所ニ據リ公債ノ借換ニシテ合法ニシテ且ツ任意ナルトキハ常ニ債權者ヲ害スルコトナクシテ人民ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得ヘク財政ノ整理上重要缺クヘカラサル行動ニ屬スルモノタリ然レトモ公債ノ借換ニ對シテハ國家經濟上弊害アリト論スル者アリ其言ニ依レハ公債ノ利子低下スルトキハ之ト共ニ一般營業上ノ利潤ヲ減シ一般産業ノ不振ヲ來スヘシト云フニ在リ此論者ハ同一ノ根據ニ由リ營業上ノ利潤減スルトキハ物價ノ下落ヲ來シ社會全般ニ利益アリト反論スル者ト俱ニ論理上前提ニ於テ誤レルモノナリ如何トナレハ營業ノ利潤ノ高低ハ公債利子ノ上下ニ因リテ之ヲ左右シ得ヘキモノニ非サレハナリ蓋シ公債ナルモノハ必スシモ同一ノ狀況ヲ有スル市場ニ於テ募集シ得ヘキモノニ非ス政府ハ同一ノ信用ヲ有スルモ金融市場ノ狀況ニ左右セラレ得ヲ常ト爲シ殊ニ戰時事變等ニ際シテ然リトス此ノ如ク事情ヲ異ニシタル場合ニ募集シタル公債換言スレハ利子ノ歩合異ナル各種ノ公債ノ存在ハ公債ノ價

格ノ變動ヲ來スノミナラス同一ノ政府ノ募集ニ係ル公債ニシテ或種類ノ者ハ高ク或種類ノ者ハ低ク常ニ相統一スル所ナクシテ動搖常ナキハ政府ノ信用上財政ノ整理上不可ナルコト言フ埃タス隨テ公債ノ借換ノ利益ハ單ニ歲出ノ減少人民負擔ノ輕減ノミニ止マルモノニ非ス

公債借換ノ條件ハ第一(合法ナルコト)即チ借換ヲ爲ス權利ヲ有スルコト(第二)債權者ニ對シ元金ノ償還請求權ヲ認ムルコト即チ任意の借換ナルコト(第三)政府ノ信用大ニシテ市場又好況ヲ呈スルコトノ三者ニ在リ蓋シ政府ニシテ公債ノ借換ヲ強制スル場合ニ在リテハ固ヨリ條理ヲ破リシモノナルヲ以テ茲ニ之ヲ論述スルノ要ナキモ苟モ任意の借換ヲ爲サンニハ事實借換ノ實效ヲ舉クルコトヲ期セスンハ非ス故ニ一方ニハ政府ノ信用厚クシテ債權者カ政府ニ對スル不安ノ念慮ニ驅ラレテ之カ元金ノ償還ヲ求ムルカ如キコトナク一方ニハ金融市場好況ヲ呈シテ金利亦低落セル場合ナラスンハ非ス任意借換ニシテ元金ノ償還ヲ望ム者多キトキハ管ニ政府ノ信用ノ薄弱ヲ示スノミナラス財政ノ紊亂ヲ來スヘキモノタルヲ以テ金融市場ノ狀況ヨリ債權者ノ種類現存公債ノ市場

價格等ヲ對照シテ慎重ノ措置ヲ執ルコトヲ要ス普通各國ノ財政家ハ借換ノ標準トシテ其公債價格ノ平價ヨリ一割以上ニ上ルコトヲ條件ト爲スモノノ如シ價格下落ノ場合ニ借換シテ公債償還ノ義務ヲ拋棄シ政府破産ノ失態ヲ來セシハ既ニ佛蘭西大革命ノ際ニ於テ見ル所タリ

上述スル所ニ據リ公債ノ借換ハ新進國又ハ戰後平和ニ復舊セシ場合等ニ於テ最モ多ク之カ適用ヲ見ルコトヲ得ヘキコトヲ知ルヘシ如何トナレハ其公債ノ利子ニ比シテ市場ノ利子下落スルコト多クレハナリ現ニ我邦ノ如キ明治十九年一月以來兌換制度ヲ行ヒタルヨリ一般ノ金利俄ニ下落シ六分以上利附ノ在來ノ諸公債ハ皆額面以上ノ價格ニ上騰スルニ至リシヲ以テ同年十月勅令第十六號ヲ以テ整理公債條例ヲ發布シ五分利附ニテ五箇年据置キ五十箇年ノ定期隨時支拂公債ト爲シ一億七千五百萬圓ヲ限リテ募集スルコトト爲シ明治二十六年ニ至リテ六分以上利附ノ公債ハ悉皆之ヲ償還シ了リ其間借換ノ爲メ生シタル利子ノ差益ハ二百五十萬圓ヲ上ルニ至リタリ

公債ノ借換ヲ行フニ當リ研究スヘキ問題ハ割増借換法ニ依ルヘキヤ割引借換法ニ依ルヘキヤ又ハ平價借換法ニ依ルヘキヤニ在リ換言スレハ公債ノ借換ニ際シ元金ヲ減少スヘキカ増加スヘキカ又ハ同額ト爲スヘキヤニ在リ但シ割増借換法ハ利子ノ輕減ヨリハ寧ロ公債ノ元金ノ償却ヲ目的トスルモノニシテ割引借換法ハ利子歩合ノ點ヨリ多分借換ノ便宜ヲ得ヘキモ割引ニ因リ元金ヲ増加シテマテ借換ヲ爲ス必要ナク割引其モノノ不可ナルハ既ニ前章ニ於テ説明セル所ナリ彼ノ一千八百八十三年英國カ額面百磅三分利附ノ公債ヲ額面百八磅二分半利附ニ借換ヘシカ如キ正ニ此弊習ヲ襲ヒタルモノナリトス

換法ニ依ルヘキヤ又ハ平價借換法ニ依ルヘキヤニ在リ換言スレハ公債ノ借換ニ際シ元金ヲ減少スヘキカ増加スヘキカ又ハ同額ト爲スヘキヤニ在リ但シ割増借換法ハ利子ノ輕減ヨリハ寧ロ公債ノ元金ノ償却ヲ目的トスルモノニシテ割引借換法ハ利子歩合ノ點ヨリ多分借換ノ便宜ヲ得ヘキモ割引ニ因リ元金ヲ増加シテマテ借換ヲ爲ス必要ナク割引其モノノ不可ナルハ既ニ前章ニ於テ説明セル所ナリ彼ノ一千八百八十三年英國カ額面百磅三分利附ノ公債ヲ額面百八磅二分半利附ニ借換ヘシカ如キ正ニ此弊習ヲ襲ヒタルモノナリトス

公債借換ハ一千七百十六年始メテ行ハレシ以來現時各國財政ノ整理上此方法ニ依ラサルモノナシ茲ニ各國ニ於ケル公債借換ノ歴史ヲ叙述スルハ無用ノ業ニ非ザルヘキモ寧ロ財政學ニ於テハ少シク餘論ニ奔ルノ嫌ナシト爲ササルヲ以テ茲ニハ英國ハ借換ニ因リ大ニ經費ヲ節減スルコトヲ得シモ一方ニハ割引借換法籤札附又ハ年金附公債發行ノ愚ヲ學ヒシ爲メ幾分カ借換ノ效驗ヲ削減シ佛蘭西ニテハ債權者カ多ク議會ニ勢力ヲ占メシヨリ公債ノ借

換ハ政府當初ノ契約ヲ無視シテ人權ヲ蹂躪シ中産以下ノ者ヲ苦厄ニ陥ルモノナリトシテ一時借換ノ進歩ヲ妨ケシコトアルヲ一言スルニ止ムヘシ

第三節 公債利子ノ引下

茲ニ公債ノ利子ノ引下ト稱スルハ政府カ公債ノ管理上借換以外ノ方法ニ依リテ公債ノ體様ヲ變更スル重ナル場合ヲ指スモノニシテ通常償還期限ノ變更ト相伴フヲ例ト爲スモノナリ

合法ニシテ且ツ任意ナル公債ノ借換ハ財政ノ整理上最モ缺クヘカラサル手段トシテ國家ノ信用ヲ増加スヘキ一手段タルニ拘ラス公債ノ利子ノ引下ニ至リテハ其合意ニ出ツルト強制ニ出ツルトニ論ナク常ニ財政逼迫ニ際セル不祥ノ現象トシテ國家ノ信用ヲ減損スヘキ例外ノ手段タルヲ常ト爲スモノナリ蓋シ國家ノ行動カ私人ノ行動ニ比シテ財政上特種ノ性質ヲ具スル所以ノモノハ一ニ國家ト私人ト其信用ノ性質程度ヲ異ニスルニ存スルヲ以テ其當初ノ契約ノ體様ヲ變更スルカ如キハ國家ノ信用自體ヲ根本ヨリ破毀スルモノニ外ナラザ

レハナリ

第一款 合意ニ出ツル利子ノ引下

合意ト強制ト孰レカ條理ニ適フヘキヤ字義其モノノ解釋ヨリスルモ一見其是非ヲ斷言スルニ疑ナキモノニ屬スルモ公債ノ契約變更ニ於テハ合意ニ出ツル利子ノ引下ハ却テ財政上ノ弊害大ナルモノアルヲ見ルハ又奇異ナル現象ト謂ハスルハ非ス然レトモ少シク其實例ニ就キ觀察スレハ合意ニ出ツル利子ノ引下カ財政上却テ困難ヲ重ナル所以ノモノ又之ヲ解スルニ苦シマサルヘシ今合意ニ出ツル利子ノ引下ト強制ニ出ツル利子ノ引下ニ付キ重ナル相違ノ點ヲ擧クレハ次ノ如シ

合意ニ出ツル利子ノ引下ハ事實債權者ノ強制ニ起因スルコト多シ

強制ニ出ツル利子ノ引下ハ債務者ノ強制ニ起因スルヲ常トス
之ヲ公債其モノノ種別ニ依リ反面ヨリ觀察スレハ

合意ニ出ツル利子ノ引下ハ外國債ニ多ク

強制ニ出ツル利子ノ引下ハ内國債ヲ常トス
尙ホ之ヲ其經過ニ依リテ判斷スレハ

政府カ強制ニ出ツル利子ノ引下ヲ爲シテ債權者事實已ムナク默從シタルト
キハ強制ニ出ツル利子ノ引下成立シ若シ之ニ對シテ債權者反抗セルトキ又
ハ政府カ事實契約ノ不履行ニ基キ債權者進ミテ政府ニ交渉セルトキハ合意ニ
出ツル利子引下成立ス

然レトモ予カ此論結ヲ下セルハ唯多數ノ場合ニ付テ言フモノニシテ當初ヨリ
當事者雙方ノ正當ノ合議ニ出ツル場合ナシト言フニ非ス而シテ若シ政府ノ財
政カ契約ノ履行ヲ難シト爲ストキハ所謂正當ノ合議ニ出ツル利子引下ハ又決
シテ非難スヘキモノニ非サルノミナラス好箇ノ方法ナリト謂ハスンハ非ス如
何トナレハ政府不幸ニシテ財政逼迫シタルトキ強テ契約ノ履行ヲ爲サントセ
ハ却テ財政ノ紊亂ヲ累テ人民ノ負擔苛重ニ失シ國家全般ニ及ホス災害大ナル
ノミナラス債權者自體モ却テ得ル所ナキニ終ルヘキハ私人ノ債務關係ニ於テ
モ常ニ見ル所ニシテ此際或ハ利子ヲ引下ケ又ハ償還期限ノ延期ヲ爲スハ雙方

ニ於テ利益アルモノト謂ハスンハ非ス但シ信用ハ失ヒ易キモ得ルニ難キモノ
ナルヲ以テ成ルヘク契約ノ履行ニ勉メ戰時事變ノ際又ハ國民納稅力ノ餘裕ナ
キニ至レル時等已ムナキノ場合ニ於テ最後ノ手段トシテ用フヘキモノナリ

正當ノ合意ニ出ツルモノ其例固ヨリ稀ナリト私立會社ニ在リテ千八百六
十七年以後四箇年間利子ノ支拂ヲ停止セル葡萄牙鐵道會社ノ如キ西班牙ノ
「サラゴス、バムベリ、バローセロ」線路ノ如キハ成功セル實例トシテ認メラ
ルル所ナリ

所謂政府ノ不履行等ニ伴ヒ債權者ノ強制ニ伴フ所謂外國債ノ利子ノ引下ノ場
合ハ其例甚タ多ク其害毒ノ大ナルコト既ニ第三章第三節第三款ノ下ニ縷述セ
ル所ニシテ固ヨリ財政ノ行動上例外ノ場合ト認ムヘキモノナルヲ以テ此ニ之
ヲ省畧スヘシ

西班牙カ英佛和白等ヨリ募集セル所謂「公債」ハ千八百三十一年ノ協
議ニ因リ五分ノ一ハ五分利附公債トシテ直チニ償還シ殘餘ノ五分ノ四ハ三
分利附トシテ年年四十分ノ一宛支拂フコトトシ支拂未済ノ利子モ額面ニ繰

込ミタリシカ後千八百三十四年及ヒ千八百七十六年ノ協議ニ因リ又變更スル所アリタリ

「チユニス」政府カ千八百六十三年及ヒ千八百六十五年ニ募集セル七分利附公債モ利子支拂ノ義務不履行ニ因リ英佛伊ノ干渉ヲ受ケ一方ニハ支拂未済ノ利子ヲ元金ニ繰込ミ一方ニハ七分利附ヲ五分利附ニ減シタリ

埃及政府ノ外國債ニ至リテハ千八百七十六年英人グーシエン氏債權者ノ總代トシテ當時七億八千萬圓ノ公債ノ處分ニ付キ協議ヲ盡シ短期公債四千餘萬圓ハ額面二百圓ヲ百六十圓トシテ償却スルモノトシ別ニ一億七千萬圓ノ五分利附保證公債ト五億九千萬圓ノ七分利附會合公債ヲ起シ借換ニ依リテ之カ整理ヲ計ラントセシモ不幸ニシテ實效ヲ奏セス千八百七十八年再ヒ財政委員會合シテ多少ノ修正ヲ加ヘ荏苒今日ニ至レリ

第二款 強制ニ出ツル利子引下

政府財政上ノ困難ハ強制ニ出ツル場合ヨリ寧ロ合意ニ出ツル場合ニ多シトハ

強制ハ合意ヨリ條理ニ適合セリト云フニ非スシテ合意ニ出ツル場合ハ多ク事實債權者ノ強制ニ出ツル場合多キカ故ニ等シク一方カ意思ノ自由ヲ失フニ於テハ政府カ自山ヲ失フ場合ハ事實財政ノ困難大ナリト云フニ外ナラス然レトモ條理ヲ基礎トシテ論スレハ一ハ少クトモ形式ニ於テ合意タルヲ失ハサルノミナラス其債權者ヲシテ事實強制ニ出テシムル所以ノモノハ債務者ノ債務ノ不履行其他不法ノ行為ニ原因セルモノタル以上ハ自己ノ債務不履行ニ乘シテ不法ノ契約變更ヲ強制スルニ比スレバ固ヨリ同日ノ論ニ非サルヘキナリ況ヤ正當ノ合意ニ出テシ場合ニ於テテヤ

強制ニ出ツル公債ノ變更ニシテ最モ不法ナルモノハ債務其モノノ取消ニ在リ而シテ其實例ハ固ヨリ稀ナルモ多ク北米合衆國ニ於テ行ハレ千八百四十一年「ミスシッヒ州」ニ於ケル負債取消ヲ以テ嚆矢ト爲シ千八百四十八年ニ至リテハ「フロリダ」「ミシガン」「アルカンサス」ノ諸州亦此不法ナル惡例ヲ襲用シタリ利子ノ支拂停止ニ至リテハ當時尙ホ五州ノ多キニ上レリ近時ニ至ルマテ合衆國ノ公債カ歐洲ニ於テ信用ヲ失墜シタル亦毫モ怪シムニ足ラサルナリ

第四節 公債ヲ課稅物件ト爲スノ可否

公債ノ移轉及ヒ所得ニ對シ租稅ヲ課スルノ可否ハ從來學說實際共ニ區區ニ岐レ現時ニ於テハ課稅說一般ニ多數ヲ占ムルモ其移轉及ヒ所得共ニ課稅スヘキヤ又外人所有ノ公債ニ對シテ課稅スヘキヤニ至リテハ學說未タ歸一スル所ナシ

非課稅論者ノ論據トスル要點ハ凡ソ次ノ四點ニ歸著スルモノノ如シ

- 第一 公債ノ課稅ハ政府ノ信用ヲ害ス
 - 第二 債務者カ債權者ニ對シ其債權ニ付キ課稅スルハ條理ニ反スルモノナリ
 - 第三 公債ノ課稅ハ其價額ノ下落ヲ來シ結局政府ノ損失ヲ來スモノナリ
 - 第四 公債ノ賦課ハ他ノ動産ニ課稅スルヨリ遙ニ困難ナリ
- 第一及ヒ第二ノ論點ハ根本ニ於テ誤謬ニ陷レル僻見ナレトモ佛國等ニ於テハ古來ヨリ所謂公債借換反對ト同一ノ觀念ニ支配ヒラレ屬課稅ノ問題起リシニ拘ラス近時ニ至ルマテ賦課セラレサリシ論據ニシテ北米合衆國ニ於テ猶ホ公

債ノ募集ニ際シ之カ免稅ヲ特約スルカ如キ吾人ノ屢見ル所ナリ蓋シ課稅ノ目的ハ政府ノ收入ニ在ルモ之カ賦課ノ原則ハ各自ノ納稅力ニ公平且ツ平等ヲ期スルニ在リ而シテ通常如何ナル租稅ト雖モ時ト所ニ因リ皆多少ノ不公平ヲ免ルルコト能ハス常ニ之カ公平ヲ期センカ爲メ修正ヲ試ムルハ各國實例ノ證スル所ニシテ此際獨リ政府カ公債ノ所有者ニ限り之カ免除ヲ爲スカ如キハ故意ニ不公平ヲ作爲スルモノニシテ實ニ條理ニ反スルノミナラス又政府ノ信用ヲ害スルモノト謂ハスハ非ス如何トナレハ公債ノ募集ニ於テハ國家ハ私法上ノ國庫トシテ債務關係ニ立ツモノナレトモ租稅其モノハ國家カ公法上ノ主體トシテ公平平等ニ貸財ノ徵收ヲ命スルモノナレハナリ其收入ノ性質ニ於テ其主體ノ性格ニ於テ二者劃然タル軛域ヲ有シ互ニ相混淆スルコトヲ許ササルモノナリ公債ノ債主タルカ故ニ之カ免稅ヲ爲スハ特定人間ノ私法上ノ關係ヲ以テ一般臣民ニ對スル租稅ノ賦課ヲ左右セントスルモノニシテ第一第二共ニ寧ロ反對ノ論結ヲ爲スヘキモノト謂ハスハ非ス

第三ノ論點ハ第一第二ニ比スレハ比較的根據アル說ナリト雖モ第一(租稅ハ單

ニ公債ニノミ賦課スルモノニ非スヤ他ノ財産ニ對シテモ等シク賦課スヘキモノナルヲ以テ公債ノ利益ノ増減ハ同時ニ他ノ財産ヨリ得ル收入ノ増減ト相伴ヒ公債ニ限リテ賦課ノ爲メ之カ價格ノ下落ヲ來スノ理ナク(第二公債ノ賦課ハ間接ニ一種ノ利率ノ變更ト看ルヘキモノニシテ條理上強テ利子ヲ引下ケテ一方ニ賦課ヲ免除スヘキ理ナシ彼ノ伊太利ニ於テ千八百六十四年以來公債ノ價格上騰シ而モ其年ヨリ財政ノ困難ニ迫ラレ一割二分三厘ノ重稅ヲ課シタルカ如キ實例ハ又第三論點ノ辭論ナルヲ證スルニ餘アリト謂フヘシ

第四ノ論點ハ予ハ公債其モノノ移轉ニ付キ課稅スル場合ニハ非賦課論者ニ左祖スルモノナリ是レ千八百七十一年佛蘭西議會ニ於テ提出セラレ大多數ヲ以テ否認セラレシモノナリ蓋シ利子又ハ割賦ヲ生スル證書ノ賣買ニ租稅ヲ賦課スルハ之ヲ他ノ動産ニ賦課スルヨリモ遙ニ困難ナルモノニシテ殊ニ公債ニハ記名無記名ノ別アルカ故ニ記名證書ノ場合ニハ之カ不便ヲ感スルコト尠キモ無記名證書ノ場合ニ至リテハ法律上動産ト同視シ之カ賣買讓與ノ便宜ヲ計リシモノナルヲ以テ事實其移轉アル毎ニ一定ノ賦課ヲ爲スノ不可ナルコト又言

ヲ以テタル所ナリ之ヲ要スルニ公債ノ移轉ニ賦課スルハ現時公債カ金融界ニ於ケル特種ノ效能ヲ減却スルニ等シク延テ公債其モノノ價格ノ暴落ヲ來シ之カ效用ヲ失ハシムルモノト謂フヘキナリ但シ公債ノ所得ニ賦課スルハ條理ニ適合シ而モ又困難ヲ感スルコト極メテ尠シ殊ニ英國ノ如ク所得稅トシテ其利子支拂ニ際シ稅額ヲ差引クハ最モ簡便ニシテ且ツ隱蔽遁脫ノ患ナク最モ公平ヲ期スルニ易キモノト謂ハスンハ非サルナリ

終ニ臨ミ外國人ノ有スル公債ノ所得ニ對シ課稅スルノ可否ヲ一言スヘシ外國人ハ我治下ニ在ル者ニ非ス故ニ之ニ國內ノ政費ヲ負擔セシムルハ條理ニ悖反セルモノニシテ之ニ課稅センニハ條約ニ依ルコトヲ要スヘク又此ノ如キ條約ハ事實締結セラレルコトナシトハ反對論者ノ論點トスル所ナリ之ニ對シテハ或ハ外人ハ當初ヨリ一定ノ賦課率ヲ除キタル利率ニテ之カ公債ノ募集ニ應ジ之カ公債ヲ購入シタルモノナルカ故ニ之ニ賦課スルハ不可ナル所ナシト論シ或ハ外人ニ支拂フ利子ハ正貨ナルヲ以テ利子ノ免除ニ加フルニ正貨ト紙幣ノ差異ニ因ル打歩ヲ外人ニ利セシムルハ不得策ナルノミナラス内國人ヲシテ賦

稅ノ途ヲ開クモノナリト論シ消極論者ハ又公債ト租稅トハ公私全ク相異ナルモノナルカ故ニ公債ノ條件ヲ承諾シテ募集ニ應ジ又ハ購入ヲ爲シタル外國人ニ對シ租稅ヲ賦課スルハ違法ナリトシ又伊太利等ノ實例ヲ引證シテ內國人ハ其手數經費ノ大ナルカ爲メ積極論者ノ論スルカ如キ脫稅ノ患ナキノミナラス事實却テ外國人ノ手ヨリ內國人ノ手ニ吸收セラルルモノナリト駁論スル等學說實際區區ニ岐レテ歸一スル所ナキモ予ハ本問題ノ如キハ國際法上最モ簡單ナル問題ナリトス消極論者ト雖モ外國人カ其資産營業又ハ職業ニ依ル所得ハ其本店所在地ノ法律ニ從ヒ所得稅ヲ納付スルヲ原則ト爲スコトヲ拒ムコト能ハサルヘシ是レ其所得ヲ得ル所以ノモノハ主トシテ其本店所在地ニ基クカ故ニ外ナラス今一國ノ公債ニ於テ其利子ヲ支拂ヒテ一定ノ所得ヲ與フル所以ノモノハ一ニ其公債ヲ發行セル國家ノ行動ニ基クモノタル以上ハ公債ノ所得ニ賦課スルコトニ對シ根本ヨリ非難スルニ非スンハ其公債ノ所有者ノ內國人タルト外國人タルト其公債ノ内地ニ存在スルト否トニ因リ之カ所得稅ニ限リテ賦課ノ有無ヲ別ツノ理由ヲ見サルモノナリ我邦ニ於テハ明治三十二年二月法律第

十七號ニ依レハ第三條ニ於テ此法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子ナルモノヲ第二種トシテ其支拂ヲ受ケル金額ヲ標準トシテ第三種ト等シク同一ノ所得稅ヲ賦課スルコトト爲セシハ予ノ所説ト全ク相合致スルモノナリト信ス

第六章 公債ノ償還

第一節 緒論

公債ノ償還ハ公債ノ種類ノ異同ニ依リテ其用語ヲ異ニスルヲ例トス特定人ニ對スル場合即チ契約公債等ニ在リテハ支拂ト稱シ紙幣ニ對スル場合ニハ償却ト稱シ所謂償還ナル用語ハ確定公債ニ對スル場合ニ慣用セラルル所ノモノナリ而シテ此等ノ償還ニ在リテ唯紙幣ノ償却ハ少シク他ト其趣ヲ異ニシ一般ニ公債ノ償還ハ之ヲ後ニシ租稅ノ輕減ハ之ヲ先ニスルヲ原則ト爲スニ拘ラス其紙幣タル特性ニ因リ金融市場ノ狀況ニ照シ荷モ濫發ノ傾向ヲ有スルトキハ租稅ノ輕減ニ先チテ仍ホ之カ償却ニ勉ムヘキコトハ曩ニ間接強制公債ノ下ニ論

違セシ所ニシテ本章ニ於テハ紙幣其他ノ流動公債以外ノ公債主トシテ確定公債ノ償還ニ付テ之ヲ論述スル所アルヘシ

亞米利加合衆國カ南北戰爭ノ永續セルニ由リ紙幣ヲ發行シ公債ヲ募集シ又重税ヲ課スルニ至リ戰後財政ノ困難ハ直チニ之カ整理ヲ爲ササルヲ得サルニ至レリ殊ニ紙幣ノ増發ハ物價ノ暴騰ヲ來シ金融市場ノ變動ハ經濟界ニ重大ナル禍害ヲ及ホセシヲ以テ先ツ紙幣ノ償却ヲ先ニシテ經濟界ノ恢復ヲ企圖スヘキニ租税ノ輕減ヲ先ニセル爲メ紙幣濫發ノ災殃ヲ長カラシメハ當該政府ノ財政上ノ失策トシテ一般ニ認メラルル所ナリ

公債ノ償還ハ必ス一定ノ順序方法ニ依リテ債務カ辨濟セラルルコトヲ意味スルモノニシテ合法ナルヘキコト固ヨリ言フ埃タス故ニ前章ニ於テ述ヘタル如ク政府カ強制シテ不法ニ債務ヲ取消シ又ハ其元金ノ變更ヲ爲スカ如キハ之ヲ償還ト謂フコト能ハサルノミナラス豫メ一定セル順序方法ニ依ラスシテ支拂ヒシ場合又ハ豫メ償還ニ關スル順序方法ヲ一定スルコトナク不意ニ或ハ急激ニ償還セル場合ノ如キ又正當ナル償還ト謂フコト能ハス蓋シ政府ノ義務ハ重大

ニシテ此カ信用ヲ扶持センカ爲メ償還ニ關シテハ一定ノ順序方法ヲ定メ以テ債權者ニ對シテ公債ノ確實安全ヲ保障スルハ公債其モノノ性質上當然ノ事理ニ屬スルモノアレハナリ

公債ノ償還方法ハ之ヲ二様ノ方面ヨリ觀察スルコトヲ得ヘシ一ハ其公債ノ條件ヨリ觀タル主觀的觀察ニシテ一ハ其公債償還ノ資金ヨリ觀タル客觀的觀察ナリ後者ハ別ニ本章第四節公債償還ノ方法ノ下ニ於テ之ヲ論述スヘキヲ以テ茲ニハ前者ニ付キ一言スル所アルヘシ

公債償還資金カ又公債ノ條件トシテ認メラレタル例尠シト爲ササレトモ國家信用ノ發達セル今日ニ於テハ之ヲ公債ノ條件ト認メサルヲ原則ト爲スヲ以テ其ニ第四節ニ於テ論述スルハ敢テ妨アリト爲スニ非サレトモ便宜上前者ニ付テハ茲ニ一言スルコトト爲セリ

公債ノ條件ヨリ公債ノ償還方法ニ付キ觀察スレハ通常二様ノ分類ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第一 償還期限ノ一定セラルルヤ否ヤニ依リテ分類セル隨意償還法及ヒ義務

償還法

第二 公債額面ノ全部ヲ償還スルヤ否ヤニ依リテ分類セル額面全部償還法及
 ヒ額面一部償還法

第一ノ分類ハ既ニ公債ノ分類及ヒ公債ノ管理ノ二章ニ於テ講述セル所ニシテ
 財政上公債ノ目的ハ收支ノ適合ニ在リテ財政ノ負擔ヲ増加シ不便利ヲ來ス
 ニ非サル以上ハ政府カ財政ノ激急ニ拘ラス義務ノ履行ニ牽束セラレ一方ニハ
 財政整理ノ爲メ借換其他ノ管理ヲ阻礙シテ償還期限ヲ一定セラルルコトノ不
 可ナルハ復タ論ナク近時學說實際共ニ隨意償還法ニ一致シ有期隨時支拂公債
 永遠公債等最モ盛ニ行ハルルハ前ニ一言セル所ナリ

第二ノ分類モ年年一定ノ元金ヲ償還スルニ際シ各額面ニ按分シテ各其一部ニ
 付キ償還スルハ一見公平ニシテ且ツ穩當ナルカ如キモ債務者ハ非常ノ手數ヲ
 増シ債權者ハ又各其額面ノ一部ヲ受クルニ止マルカ故ニ之カ生産的利用ノ便
 宜ヲ失フヘキヲ以テ抽籤又ハ番號ヲ以テ額面全部ヲ一部ニ對シテ償還スルコ
 ト當事者雙方ノ便宜トスル所ニシテ學說實際共ニ又一致スル所ナリ

第二節 公債償還ノ可否

公債ハ當初私人間ノ債務ト同一視セラレテ公債ノ償還ハ常ニ政治家ノ唱道ス
 ル所ト爲リ政治家ノ留意スル所ト爲リ一方ニ於テハ公債ノ消滅ニ全力ヲ盡ス
 ニ拘ラス一方ニ於テハ公債ハ漸次累積シテ益々遞増ヲ見ルニ至リ今日ニ於テハ
 國家信用ノ發達ハ公債ノ償還ヲ以テ必要ナル問題トシテ認ムルコトナク又事
 實之カ消滅ハ不能ニ屬スルモノト看做サルルニ至レリ是レ一ハ公債ノ償還ハ
 國庫ノ負擔ヲ減少スルニ在ルカ故ニ公債管理ノ發達ニ伴ヒテ償還ニ依ラスシ
 テ之カ負擔ヲ輕減スルコトヲ得一ハ公債償還ニ急ナルノ餘重稅ヲ賦課スルカ
 如キハ却テ其弊害ヲ助長スルモノタルコト明カナルニ至リシニ基因スルモノ
 ナリ而シテ現時ニ於テハ米國英吉利和蘭等ヲ除キ歐米各國及ヒ其文化ニ洽及
 セル東洋南米ノ諸國等ニ在リテハ一般ニ元金ノ償還ニ重キヲ置カス殊ニ近時
 永遠公債ノ發達ト共ニ公債ノ償還其モノニ反對ヲ試ムル者相踵テ續出スルニ
 至レリ此等ノ論者ト雖モ固ヨリ絕對ニ公債ハ償還スヘカラスト云フニ非ス今

其説ヲ分類摘示スレハ大要次ノ如シ

消極論者ノ學説ヲ大別スレハ之ヲ樂天主義ト厭世主義ノ二者ト爲スコトヲ得ヘシ

厭世派ノ消極論ハ近時各國ニ於ケル公債ハ漸次累積シテ毫モ減少スル所ナク殊ニ隨時支拂公債ノ發達ニ伴ヒ益々遞増シテ又停止スル所ヲ知ラス其弊遂ニ公債ニ對スル人民ノ負擔苛重ニ失スルヲ以テ此際公債ノ額ヲ減シ國庫ノ負擔ヲ減セントスレハ之ヲ特種ノ方便ニ訴ヘスンハ非ス故ニ或一定ノ期間ヲ定メテ政府ノ公債ニ對シ消滅時效ノ制ヲ定ムルヲ可トス是レ近時各國ニ於テ私設ノ公共事業ニ對シ一定ノ營業期限ヲ以テ政府ノ所有ニ移スト同一ノ筆法ニ出ルモノナリト然レトモ此説ハ一方ニ於テ私設ノ公共事業ヲ無償ニテ官有ト爲スニハ或保護補給ヲ認ムルカ如ク公債ノ利子ヲ一定ノ歩合以上ニ上ス等多少ノ特殊ノ條件ヲ債權者ニ與フルコトヲ要シ結局其需要ト供給ハ一種ノ年金公債ニ決定サルモノト謂ハスンハ非ス單ニ在來ノ公債ニノミ不法ノ取消ヲ爲スハ管ニ不正ノ惡法タルノミナラス一時始息ノ手段タル以上ハ當初ヨリ消滅

時效ノ制ヲ定ムルノ愚ハ寧ロ年金公債ノ不便ヲ忍フノ勝レルニ如カサルナリ樂天派ノ消極論ハ亦之カ論點ヲ二分スルコトヲ得ヘシハ正貨ノ價格減少ヲ論據トスルモノニシテ一ハ國民生産力ノ進歩ヲ論據ト爲スモノナリ共ニ元金ノ償却ニ依ラスシテ國民ノ負擔ヲ減少セント欲スルニ於テハ一ナリ

正貨ノ價格ノ下落ヲ論據ト爲ス説ハ貨幣ノ供給絶エス遞増シ來リ且ツ信用發達ノ貨幣ノ代用ヲ爲ス信用證券ノ額ヲ増シ一方ニハ學術上ノ發見發明年ニ其多キヲ加ヘ生産分配ノ費用ヲ節省スルヲ得ルニ至リシヲ以テ貨幣ノ使用ヲ節省シテ面モ貨幣其モノノ供給遞増シ永遠ノ後ニ於テ金銀礦ノ耗盡シ去ルニ由ルマテハ正貨ハ年ヲ逐フテ漸次下落ノ趨勢ヲ呈スルハ爭フヘカラサル事實ナリトス故ニ貨幣ヲ以テ計算サルル公債ハ年ヲ逐フテ之ヲ償還スルニ易ク後世ノ人民カ支拂フ負擔ハ前世ノ人民カ支拂フ同額ノ負擔ヨリ一層輕キモノト謂ハスンハ非スト其所論固ヨリ一ノ事實問題ニシテ又敢テ非議ヲ容ルヘキモノニ非スト雖モ此論結ヨリシテ公債ノ償還ヲ永遠ナルヘシト斷定スルニハ尙ホ其年減少スル負擔ノ率換言スレハ金利ノ歩合ノ低下ノ爲メ後世受クル所ノ

利益ハ之カ爲メ年々支拂フ利子ノ損失ヲ償フテ尙ホ剩リアルヤ否ヤヲ研究セ
 スンハ非ス而シテ吾人ハ此問題ニ對シテハ正貨下落ノ速度ハ緩漫ニシテ之ニ
 依リ公債ノ負擔ヲ著シク輕減センコトハ決シテ望ムヘカラサルコトヲ信スル
 者ナリ

「ヘンリー、ジ、アダムス」氏ハ合衆國ニ於テ現時有スル公債ノ負擔ヲ著シク減少
 センニハ毎年支拂フ利子ニ更ニ一分ノ十分ノ一ヲ加ヘ總テ其元金ヲ償還シ
 得ヘキ歲月ヲ以テ猶ホ足ラサルヘシト曰ヘリ

國民生産力ノ進歩ヲ論據ト爲ス說ハ文化次第ニ發達シ國民ノ生産力益々遞増ス
 ルト共ニ公債ノ負擔ハ事實ニ於テ輕減サルルニ至ルモノナリ即チ公債額其モ
 ノハ増減スル所ナキモ之ヲ負擔スヘキ人口ノ増加ト各自ノ富ノ増殖ハ其負擔
 ニ付キ始ト痛痒ヲ感セサルニ至ルヘシト云フニ在リ是レ亦一ノ事實問題ニシ
 タ毫モ非難スヘキ原由ヲ見ス

英國ニ在リテハ一千八百十五年ニ於テ公債利子ノ負擔ハ一國ノ總生産額ノ
 一割五分ニ相當セシモ一千八百八十年ニ於テハ此割合値ニ三分ニ減シタリ

此負擔ノ減少ハ公債償還ノ結果ニ非スシテ國民ノ財力増進ノ結果ナルカ故
 ニ假ニ國民ノ財力カ一千八百十五年ノ當時ト同一ナルモノト看レハ公債ノ
 總額ニ於テハ少シク減少サレンモ仍ホ其三分ノ二ハ償還セラレタルモノト
 同一ノ結果ヲ生セルモノト謂ハスンハ非ス

佛蘭西ニ在リテハ千八百四十年ノ公債總額ハ八億五千萬弗ニシテ毎年國庫
 ノ負擔ハ國民ノ總生産額ノ千分ノ二十二ニ當リ千八百七十年ニ至リテハ公
 債總額ハ二十七億五千萬弗ニ増加セシモ猶ホ千分ノ二十三ニ過キス即チ實
 際公債ノ總額ニ變更スル所ナシトスレハ千八百七十年ニハ漸ク千分ノ七ニ
 止マリシモノナリ

「ルロア、ボリユー」氏ハ北米合衆國カ利率ノ低蕃財源ノ發達移住民ノ流入人口
 ノ増殖等異常ノ進歩ヲ爲シ人口ハ八千萬ヨリ一億ニ増加シ殆ト無限ノ境域
 ヲ有スルニ拘ラス公債ノ償還ニ勉ムルハ將來ノ輕微ノ負擔ヲ免レンカ爲メ
 ニ現在重大ナル苦痛ヲ甘ムルモノナリト曰ヘリ

然レトモ此ノ如ク國民ノ生産力カ公債ノ負擔ヲ減スルト共ニ公債其モノカ減

少スレハ尙ホ之カ負擔ヲ一層輕減スヘキハ固ヨリ言フ埃タサルカ故ニ消極論者ハ當ニ此論點ニ一步ヲ進メテ公債ノ償還カ國民ノ生産力ノ發達ヲ阻碍スルカ又ハ償還ヲ爲ササル時ヨリ生産力ノ發達鈍キコトヲ反證スルニ非スンハ進メテ公債ノ償還ヲ反論スルヲ得サルモノナリトス而シテ「ヘンリー・ブダム」氏ハ消極論者ニ反對シテ左ノ如ク言ヘリ

公債元金ノ償還ハ國民ヲ貧弱ナラシムルモノニ非ヌ又産業ノ發達ヲ阻碍スルモノニ非ヌ之ニ反シテ若シ公債ノ元金ヲ存積シテ絶エス利子ノ支拂ヲ持續スルトキハ如何ナル國民モ其生産力ヲ消磨セシムル傾向アリ

其所説大體ニ於テハ予カ一致スル所ナルヲ以テ予カ所説ヲ加味シテ其理由ヲ簡單ニ説明スル所アルヘシ蓋シ債務ニ伴フ損害苦痛ハ私人間ニ在リテハ辨濟ノ際ニ在リト雖モ國家ハ私人ト相競争シテ對等ノ地位ニ立チ性質ヲ同シクシ信用ヲ等シクスルモノニ非ヌ公債ノ發生消滅ハ只資本ノ移轉ニ在リ國家ノ上ヨリ觀ルトキハ其資本ヲ最モ生産的ニ活用セラレタル時ヲ以テ最モ國家ノ産業ニ利益アリトシ其資本カ何人ノ手ニ由リテ活用セラルルヤハ問フ所ニ非ス

資本カ政府ノ手ニ移ルモ其不生産的ニ消費セラルルコト尠シト爲ササルハ消費公債ナルモノカ公債ニ於テ寧ロ原則タルヲ以テ之ヲ知ルヘシ私人ノ手ニ償還セラレタル資本ハ又同一ニ決シテ不生産的ニ使用セラルルモノト斷言スヘカラサルノミナラス一般ニ信用ノ發達ニ伴ヒ生産的ニ活用セラルルモノナリトス是レ國民ノ生産力年年ノ遞増カ事實ニ於テ證明スル所ナリ公債ノ産業上ニ及ホス弊害ハ之ヲ募集セル當時資本ヲ不生産的ニ消費セラルル場合ニ發生シ此消費サレタル資本ヲ恢復スル勤勞ハ實ニ國民カ荷フヘキ負擔ナリ公債元金ノ償還ニ至リテハ既ニ存在セル資本ノ所有權ノ移轉ニシテ以テ産業ノ盛衰ヲ付度スヘキモノニ非サルナリ

尙ホ一步ヲ進メテ永久ニ一定ノ利率ヲ支給スルコトハ直接ニ生産事業ニ従事スルコトナク租税ノ收入ニ依リテ無爲ニ生活スル一種ノ階級ヲ造出スルモノニシテ一部階級ノ生産ノ發達ヲ障礙スルモノナリ是レ「アダムス」氏ノ公債ノ持續ハ却テ産業ノ進歩ヲ阻碍スト云フ理由ニシテ予ノ贊成セサル所ナリ予ノ反對ハ極メテ簡單ナルモノニシテ事實問題トシテ公債ノ利子ノミニ依リテ生活

スル階級ハ極メテ少數ナルノミナラス所謂不生産的ノ階級ハ資本ノ所得ニ依リテ生活スルモノニ非スシテ他ニ巨多ノ人民ヲ見ルコトヲ得ヘシト謂フヲ以テ足レリトス況ヤ政府ハ無制限ニ財政ノ實力外ニ馳セテ現時非常ノ速度ヲ以テ増殖スル資本ヲ吸收スルモノニ非サルノミナラス其資金ハ再ヒ民間ニ下ルヘキモノタルニ於テヲヤ

第三節 公債償還ノ時期

公債償還ノ可否ニ付キ前節論述シタル所ニ依リ所謂消極論者ノ主張スル所モ結局公債ハ全ク償還シ得ヘキモノニ非ス又縱令之ヲ償還スルニ十分ナル餘裕アルモ之ヲ償還スルハ不可ナリト謂フニ非スシテ公債ハ特ニ之カ償還ヲ急ニスルコトヲ要セス公債ノ償還ハ公債其モノノ要素ニ非スシテ之ヲ永遠ニ持續スルハ敢テ弊害ヲ助長スルモノニ非スシテ公債ノ償還ヲ急ニセハ却テ其弊害大ナルヘシト云フニ過キス故ニ公債ノ償還ノ可否ノ問題ハ其實公債償還ノ時期ヲ論スルモノト看ルモ又敢テ不可ナルヲ見サルナリ

公債償還ノ時期ニ對シテハ又之カ償還ヲ急ニスヘシト論スル者ト之ヲ急ニスルコトヲ要セスト論スル者ト二派ノ別ヲ生ス然レトモ此二説ハ固ヨリ時期ノ長短ヲ以テ之カ限界ヲ立ツルコト能ハス又限界ノ存スヘキモノニ非ス是レ公債其モノヲ絕對ニ觀察スルモ其元金ノ總額利子ノ歩合擔保ノ有無其公債元金ノ用途其他各種ノ體様ニ於テ其趣ヲ異ニスルノミナラス相對ニ觀察スルモ國家ノ信用金融ノ狀勢公債ノ歴史沿革其他各種ノ狀況ニ於テ其類ヲ異ニスルモノナレハナリ

公債ノ償還ヲ急ニスヘシト爲ス説ハ凡ソ之ヲ次ノ三説ニ分ツコトヲ得ヘシ
 第一 道徳上一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ之ヲ負擔スヘシ今世ノ勢力ノ結果貯蓄發見發明等ニ因ル利益ハ之ヲ後世ニ殘スヘキモ今世ノ過誤失策其他未タ辨濟セサル債務ヲ後世ニ貽スハ正義ニ反スルノ譏ヲ免レサルモノナリ
 第二 政治上一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ之ヲ負擔スヘシ公債ノ償還ノ有無カ債權者ニ及ホスヘキ利害ハ始ク之ヲ論セサルモ國家カ負債ヲ所ノ債務ノ高ハ其國ノ財政ノ屈伸力ニ逆比例スルハ言ヲ俟タサル所ナリ國家カ最モ重視

スヘキモノハ國家其モノノ生存問題ナリ國家カ一朝戰時事變ニ際シ在來巨額ノ債務ヲ負擔スルカ爲メ新ニ之ニ應スルノ資金ヲ得ルノ困難ハ政治上最モ忌ムヘキ點ト謂ハスンハ非ス

第三 財政上一世ノ債務ハ宜シク其一世ニ於テ負擔スヘシ政府カ財政上ニ意ヲ用ヒテ公債ノ償還ニ勉ムルトキハ財政ノ信用ヲ増加シ公債證書ノ價格ヲ高メ一般利子ノ歩合ヲ減少シ凡百ノ事業爲メニ發達伸張スルヲ得ヘク一國ノ財政ヲシテ緩裕ナラシムルコトヲ得ヘシ

以上ノ所論ハ結局事實問題ニ由リテ之カ是非ヲ決定スルノ外ナキモノナレトモ大體ニ於テ政府ノ債務ヲ私人ノ債務ト同視セル僻見ト謂ハスンハ非ス第一何故ニ後世ニ負擔ヲ貽スハ不可ナルカ若シ今世カ前世及ヒ今世ノ負擔ヲ遺傳シテ而モ共ニ之カ利益ヲ殘ササルトキハ以テ道德上不可ナルヲ妨ケサルモ彼ノ戰事其他ノ事變ニ因リ一國ノ生存ノ爲メニ生ゼシ負擔ノ如キハ其國ノ臣民トシテ此カ負債ヲ分擔スルハ猶ホ非理ト謂フヘカラサルノミナラス此カ後世ニ傳フル所ノ利益ニシテ之カ負擔ニ超過スルトキハ其負擔ヲ受クルコト却テ

條理ニ合フモノト謂フヘキナリ第二政治上既往債務ノ多少カ財政ノ屈伸力ヲ左右スルハ毫モ疑ナシ唯論點ハ事實ニ於テ急速ニ償還セントスル爲メ巨額ノ經費ノ節減又ハ巨額ノ收入ノ増加ヲ爲スニ由リテ生スル弊害ハ償還ヲ急ニセカリシ爲メ生スヘキ弊害ト孰レカ大ナルヤニ存ス若シ前者ハ常ニ伴フ弊害ニシテ後者ハ之カ弊害ノ發生ヲ必セサルノミナラス其弊害ノ程度亦輕キヲ例ト爲スヲ知レハ論者ノ言又事實ニ於テ妥當ナリト謂フコトヲ得サルヘシ第三財政上利子ノ歩合ヲ減シ凡百ノ事業ノ發達ヲ來シ財政ノ緩裕ヲ來スハ急激ナル公債ノ償還ニ依ルヘキヤ蓋シ利子ノ歩合ノ高低ハ金融市場ノ複雜ナル現象ニ伴フテ左右セラレ唯リ公債ノ償還ニ依リテノミ之ヲ動カシ得ルニ非スシテ又之カ償還ノ期限ノ如何ハ毫モ關係スル所ニ非サルナリ

之ヲ要スルニ公債償還ノ時期ニ關スル問題ハ一一各箇ノ公債ニ於テ時ト場所トニ依リ之カ事實問題ニ讓ラスンハ非ス然レトモ其償還ノ期間ノ長期ニ亘ルコトハ大體ニ於テ利益多キモ弊害少キコト已ニ第二節ニ於テ上述セルカ如シ隨テ公債償還ノ時期ハ結局次ノ二原則ニ遵フヲ以テ最モ當ヲ得タルモノナリ

ト信ス

第一 有害ノ租税ノ廢止ヲ先ニシ公債ノ償還ヲ後ニスヘシ

第二 公債償還ノ時期ハ次ノ二者ヲ消極ノ限界ト爲スヘシ

甲 償還セラルヘキ公債ヨリ不利ナル公債ノ募集

乙 非常ニ重キ租税ノ新設又ハ増率

公債ヲ新ニ募集スル所以ハ稀ニ資金ノ需要時期ノ切迫ニ基因スルコトアルモ常ニ巨額ノ經費ヲ要スルニ當リ一時非常ノ重税ヲ課スルノ必要ヲ避クルニ在ルハ本論ノ劈頭ニ於テ詳述セル所ナリ隨テ上述ノ原則ニ對シテハ又之カ非難ヲ加フヘキ餘地ヲ見出スコトナシ唯此ニ大原則ニ伴フ困難ハ次ノ實際問題ニ存セリ

第一 公債ノ償還ニ由リテ生スル利益ト公債ノ償還ニ必要ナル増税ニ因ル

損害トノ程度ノ比較

第二 如何ナルモノヲ以テ有害ノ租税ト視ルヘキカ

第三 如何ナルモノヲ以テ非常ニ重キ租税ノ新設又ハ増率ト視ルヘキカ

第一ノ問題ハ要スルニ各箇ノ事實問題ニ於テ政府財政ノ經過ト國民經濟ノ狀況ニ照應シテ之ヲ決定スルノ外ナシ第二ノ問題ニ於テ有害ナル租税トハ要スルニ爲メニ資本利用ノ動念ヲ減却セシムルヤ否ヤヲ標準ト爲サスルハ非ス蓋シ資本ハ死物ナリ一國生産ノ消長ハ一ニ資本ノ大小ニ加フルニ之ヲ利用スルノ動念ノ存在ヲ埃タスルハ非ス若シ租税ノ賦課苛欲ニ失シ人民爲メニ其資本ヲ利用シテ生産ヲ爲スノ動念ヲ減殺スルニ至ラハ以テ有害ナル租税ト謂フヲ妨ケサルナリ第三ノ問題ニ於テ非常ニ重キ租税ノ新設又ハ増率トハ要スルニ爲メニ産業上普通一定ノ利潤ヲ浸蝕スルヤ否ヤヲ標準ト爲サスルハ非ス蓋シ文化ノ進歩ハ次第二ニ資本ノ増殖ヲ來シ金利ノ歩合ヲ減少シ利潤ノ率ヲ下落スルノ趨勢ヲ見ルニ至リ後世ノ人民ハ前世ノ人民ヨリ低キ利潤ニ満足シテ資本ヲ貯蓄シ又之ヲ活用スルハ争フヘカラサル事實ナリ然レトモ何レノ時ト處ヲ問ハス必ス或時代ニ在リテハ需要供給ノ原則ニ從ヒ之カ利潤ニ自ラ一定ノ歩合ヲ生シ其歩合ヲ下リテ之カ利潤ヲ浸蝕スレハ必スヤ之カ産業ノ衰退ヲ來シ延テ政府カ自ラ財源ヲ枯渴スルニ至ルモノナリ故 此ノ如キ場合ニ於テハハ之ヲ

重税ト稱スルノ妨ケナルモノナリ(租税ノ原則參照)

第四節 公債償還ノ方法

公債ノ償還ニ於テ債權者ノ合意ヲ待タズ強制シテ所定ノ期限内ニ償還ヲ行ヒ時ニハ一部ノ辨濟ヲ以テ債務ノ消滅ヲ強制スルコトアルハ既ニ前章ニ於テ一言セシ所ニシテ固ヨリ非理違法ノ議ヲ免ルル能ハサルモノナリ殊ニ彼ノ千八百四十年頃北米合衆國ニ於テ行ハレタル公債ノ取消ニ至リテハ全然公債ノ償還ト視ルヘカラサルコト固ヨリ論ナキナリ

國家カ合法ノ償還ヲ爲スニハ拂戻ヲ爲スト買入ヲ爲スト二様ノ方法アリ固ヨリ市場ノ買入ハ拂戻ヲ爲スヨリ利益アリト思惟セラルル場合ニ限ラルルノミナラス政府カ償還ノ爲メ買入ヲ爲スニ當リテハ其額固ヨリ大ナルヘキヲ以テ低下セル市價ヲ以テ秘密ニ巨額ノ買收ヲ爲スハ事實不能ニ屬スヘキノミナラス忽チ市場ヲ動カシテ市價ノ暴騰ヲ來シ所定ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至ルヲ例トス蓋シ公債市價ノ高低ハ金融ノ狀況及ヒ主トシテ財政ノ信用如何ニ依

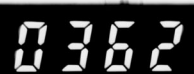
ルヘキノナルヲ以テ市價低下セル際ニ於ケル買入ノ利益ハ拂戻ニ比シテ非常ニ大ナルヘキコト固ヨリ言フ埃タスト雖モ事實買入ヲ爲シ得ヘキ政府財政ノ狀況ノ下ニ在リテハ公債市價ノ暴落ハ之ヲ期スルニ難ク市價ノ暴落ハ常ニ政府カ買入ヲ爲スカ如キ餘裕ノ存在セザル場合タルヘキヲ以テ買入ニ由ル償還ニ因リテ巨利ヲ得ルコトハ事實ニ於テ之ヲ見ルコト能ハサルヲ例ト爲スモノナリ

公債償還ノ資金ハ或ハ新公債ノ募集ニ依ルアリ或ハ租税ノ新設又ハ増率ニ依ルアリ或ハ剩餘金ニ依ルアリ或ハ官有財産ノ拂下其他臨時ノ收入ヲ以テスルアリ固ヨリ其方法ヲ一ニセスト雖モ最モ公債償還ノ歴史ニ於テ有名ナルハ減債基金法ナリ減債基金法トハ政府ヨリ年年若干額ヲ基金トシテ支出シ之ヲ以テ公債ヲ時價ニテ買上ケ其買上ケタル公債ノ利息ハ又基金ニ編入シテ買上ケニ充ツル法ナリ此法ノ主論者ハフライイス氏ニシテ氏ハ複利ノ結果ノ大ナルコトニ留意シ利子ノ上ニ利子ヲ加フルトキハ些少ノ元金ト雖モ著シク増額スルカ故ニ當初一志ノ金額ヲ元金トシテ投下スレハ此元金ハ年年之ニ利子ヲ放下ス

ルニ因リテ自ラ増加ヲ來シ終ニハ公債總額ト同額ニ達スルニ至ルヘク且ツ又
 新公債ニモ一之ニ相當ノ基金ヲ備フレハ該基金ハ利子ノ上ニ利子ヲ生シ次
 第二増加ヲ來スヘキカ故ニ容易ニ之ヲ償還スルコトヲ得ヘシト説ケリ此方法
 ハ第十八世紀ニ「ブルボール」氏之ヲ創設シ同世紀ノ終マテハ此法ヲ以テ公債償
 還ノ法ト爲セリ然ルニ爾後公債ノ種類著シク遞増シ某公債ノ資金ニ充テタル
 某税ノ收入豫定額ニ超エテ多キモ某公債ノ資金ニ充テタル某税ノ收入豫定額
 ヨリ下リテ不足ヲ生シ而モ此等各公債ノ資金間ノ流用ヲ許ササルヲ以テ基金
 總額ニ於テ餘裕アルモ某公債ノ元利支拂ニ故障ヲ生スルノ奇觀ヲ呈スルノミ
 ナラス爲メニ管理上非常ノ煩雜ト經費ヲ要スルニ依リ「ウイリヤム、ピット」氏ハ
 此等各公債ノ資金ヲ合同シテ一大基金ヲ設ク以テ便宜各種公債ノ支拂ニ充ツ
 ルニ至リタリ然レトモ此方法ハ「ハミルトン」「リカルド」等ニ由リテ根底ヨリ其利
 益無クシテ弊害大ナルコトヲ論難セラレ剩餘金ヲ以テ償還基金ト爲スヘキ原
 則ハ千八百十九年ニ於テ始メテ事實トシテ認メラルル所ト爲リ千八百二十九
 年ニ至リテ償還基金獨立ノ制度全廢セラレテ從來其保有セル公債證券ハ總テ

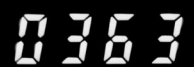
之ヲ棄却セラルルコトト爲レリ(佛蘭西ハ尙ホ政府公債證書ヲ買戻スコトアレ
 ハ直チニ之ヲ消却セス其利子ヲ積ミ之ヲ以テ公債償還ノ資ニ充フルノ法ヲ執
 レリ)

減債基金法ノ根本ノ誤見ハ基金ヲ以テ公債ヲ買上ケルハ政府カ生産的ニ財產
 ヲ購入スルモノナリト爲スニ在リ蓋シ公債ノ償還ハ如何ナル方法ヲ執ルモ到
 底國庫ノ支出ヲ免レサルモノニシテ此方法ハ單ニ人民ニ支拂フヘキ利息ヲ政
 府カ領收シテ之ヲ消費スルコトナク流用スルニ止マリ國庫ノ支出ニハ二者増
 減ナク之カ爲メニ歳出ヲ節約シ人民ノ負擔ヲ輕減スルモノニ非ス故ニ此方法
 ハ徒ニ巨額ノ資金ヲ不生産ニ積立テテ之カ取扱ノ爲メ特別ノ官署ヲ設ケ財政
 機關ノ一部タルノ地位ヲ去リテ純然タル一箇獨立ノモノト爲リ此方法維持ノ
 爲メニ之カ擔保トシテ更ニ新公債ヲ起スカ如キ兒戲ヲ馴致シ右手ヲ以テ借リ
 左手ヲ以テ償却スルカ如キ奇觀ヲ演スルノミナラス巨額ノ資金ヲ不生産的ニ
 蓄積スルハ斯法本來ノ目的ヨリ已ムヲ得サルノ弊害ト視ルヘキモ多クハ他ニ
 濫用セラルル爲メ當ニ減債基金ノ本旨ニ背反スルノミナラス其害毒却テ大ナ



ルコトアルハ英國財政史ニ於テ屢見タル所ナリトス
 「ワルポール氏減債基金法開始ノ當初十一年間ハ規則ヲ嚴重ニ恪守セルト共
 ニ公債買上ケノ爲メニ高利公債ヲ募集スルノ兒戲ヲ演シ徒ニ利子歩合ノ差
 額ト無用ノ手數ト經費ヲ損スルノ愚ヲ學ヒタリ千七百二十七年後ニ至リ
 テハ漸ク濫用ノ端緒ヲ開キ新ニ起ス公債ノ利子ハ基金ヨリ支出スルコトト
 爲シ千七百三十三年ニハ基金ヨリ五十萬磅ヲ割キテ通常經費ニ流用シ翌年
 又二十萬磅ヲ割キ爾後戰時事變ノ爲メ濫用スルコト多カリシヲ以テ「ブライ
 ス」氏ノ計算ニ依レハ千七百七十二年マテニハ二十萬磅ノ償還ヲ完ウスヘキ
 豫定ナルニ拘ラス實際償還ヲ了セシモノハ僅僅五分ノ一ニ過キサレノミナ
 ラス一方ニハ殆ト之ニ四倍セル公債ヲ起シタリ一千七百八十六年ウキリヤ
 ム、ピット氏再ヒ斯法ヲ起シ嚴重ニ之カ濫用ノ弊害ヲ抑制セシモ猶ホ一方ニ
 ハ一億三千八百萬磅ヲ償還シテ一方ニハ五億七千四百萬磅ノ新債ヲ起セタ
 リ
 之ヲ要スルニ公債ノ償還ハ收入ノ剩餘金ヲ以テスルノ外途ナキハ明カニシテ

年年財政ノ緩急ニ應シ剩餘金ヲ以テ公債償却ノ使途ニ供セシムハ非ス「ハミル
 トン」氏ノ所謂「歲入剩餘」ハ獨リ公債ノ償還ニ充ツヘキ真正ノ償却基金ナリトハ
 公債償還ノ一大原則ト謂ハスハ非サルナリ
 之ヲ要スルニ公債ハ國家ノ債務ナリ苟モ其償還カ惡税ノ廢止ニ先チ又ハ爲メ
 ニ惡税ヲ生スルカ如キ結果ニ陥ラサル以上ハ財政ノ緩急ニ應シテ常ニ之カ償
 還ヲ怠ルヘカラス國家ハ永久ノ法人ナリ信用ハ之ヲ破ルニ易ク之ヲ得ルニ難
 シ國家ハ不法不理ノ手段ニ訴ヘテ一時ノ偷安ヲ計ルヘカラス
 國家ハ合法ニシテ且ツ比較的利便アル範圍ニ於テ公債ノ償還ヲ爲スヘク借換
 「ニ依ルモ買上ニ依ルモ拂戻ニ依ルモ其手段ノ是非ハ一ニ時ト處ニ依リテ之ヲ
 決セシムハ非ス
 國家ハ公債償還ノ資金ヲ減債基金法ニ依リテ求ムヘカラス之カ一種ノ變態ト
 視ルヘキ有期年金又ハ終身年金ニ借換ヘテ公債ヲ償還スル方法モ亦等シク之
 ヲ排斥セシムハ非ス國家ハ財政ノ緩急ニ應シ便宜剩餘金ヲ以テ公債ノ償還ニ
 充ツルコトヲ怠ルヘカラス然レトモ漫然臨時ノ收入ヲ待ツハ公債償還ノ常道



ニ非ス財政ノ緩急ニ應ジ公債費トシテ年年一定ノ繼續費ヲ支出シ公債累積ノ弊ヲ防遏スルコトヲ便ナリトス是レアルベルトガラチン氏ノ創造ニ係ルモノニシテ我邦公債償還ノ方法ハ大體ニ於テ亦相一致スル所ナリ

十八世紀ノ末葉ヨリ十九世紀ノ初年マテハ合衆國ハ等シク償還基金法ニ依リ事實却テ公債ノ總額ヲ遞増シガラチン氏ニ至リテ始メテ英國流ノ有害ナル償還方法ハ排斥シ合衆國政府ノ公債整理ノ基礎ヲ確定セタリ氏ハ表面上世人カ公債償還ノ爲メニ既ニ行フ所ノ施設ヲ破棄スルモノト誤解スルコトヲ避ケンカ爲メ千七百九十五年ノ償還基金法ニ關スル法律ハ之ヲ全廢スルコトナク實質ノ上ニ於テ條文ヲ改正シ在來ノ償還方法ヲ改メテ公債元利金ノ償還支拂ノ爲メニ繼續費トシテ年年七百三十萬弗ヲ支出スルコトト爲シ(其後八百萬弗ニ増加シタリ)年年ノ公債利子ヲ支拂フ外剩餘額ヲ以テ元金ノ償還ニ充テ千八百十二年ノ戰爭ニ際シテハ合衆國ノ公債ハ殆ト半減シテ四千五百十二萬餘弗ト爲レリ其後千八百十二年ノ戰役ノ結果公債ハ再ヒ増加シテ一億二千萬弗ニ上リシモ氏ノ方針ヲ一貫シテ公債元利支拂ノ歲費ヲ増

加シ千八百三十四年ニ至リ悉皆之ヲ償還シタリ其後千八百六十年ノ南北戰爭ニ於テチエース氏ハ又公債償還基金法ヲ定メシコトアルモ亦失敗ニ了リ國庫剩餘金又ハ繼續公債費ノ方便ニ依リテ財政ノ維持ヲ爲セシハ「マツカロ」ク氏ノ財政報告ノ明證スル所ナリ

之ヲ要スルニガラチン氏ノ財政策ハ公債費トシテ毎年公債ノ利子支拂額ニ超過セル一定ノ金額ヲ支出スルモノニシテ而モ此公債費ノ支出其モノ及ヒ其用途ハ公債所有者ニ對シテ契約ノ條件トシテ政府ヲ羈束セルモノニ非ス金額ノ流用ハ禁止セラルル所ナク又私有財産ノ如ク利殖スルノ要ナシ流用ヲ禁シテ公債償還ニ特定セラルルノ危險ハ遙ニ流用ノ危險ニ倍蓰スル所アレハナリ公債増加ノ際同時ニ公債ノ償還ヲ爲スハ表面上國家ノ財政ヲ安固ナラシムルノ觀アリテ實ハ公債ノ絶對的增加ヲ來ス危險ヲ必然ノ條件トシテ隨伴セシムルモノナレハナリ故ニ公債費ノ支出ハ同時ニ其用法ニ付キ行政部ニ裁量ノ餘地ヲ與フルコト大ナラサルヘカラス是レ「ガラチン」氏ノ大體ニ於テ成功セル所以ナリトス

第七章 地方債

第一節 緒論

第一款 地方債研究ノ必要

自治ノ觀念發達シ公共團體ノ設定ヲ見ルニ及ヒ之カ財政策トシテ地方稅地方債ノ必要ヲ來スハ當然ノ事理ニシテ其大體ノ主旨ハ地方稅ノ章節ニ於テ既ニ一言セル所ナリトスレトモ國家ノ財政ニ於テ租稅ハ公債ニ先チテ發達セルカ如ク地方公共團體ノ財政ニ於テモ地方稅ハ團體ノ設立ト同時ニ之カ收入ノ重要ナル方法ト認メラレシモ地方債ハ著シク晚レテ發生シ隨テ地方債ニ關スル學說法規ハ之ヲ地方稅ニ比スレハ尙ホ比較的ニ幼稚ニシテ不備缺漏ノ嫌尠シト爲ササルナリ

茲ニ地方債研究ノ必要ヲ說ク所以ノモノハ一ニ近時地方債ノ發達著シク其增加ノ趨勢ハ必ス將來ニ於テ財政上ノ一大困難ヲ釀成スルノ危險ヲ有スルニ在リ固ヨリ文化ノ發達ハ富ノ増殖ト相待チテ國債地方債ニ論ナク逐次其額ヲ増加スルハ社會ノ大勢ニシテ決シテ非難スヘキモノニ非サルモ特ニ地方債ニ對シテ此カ發達ニ對シ之カ警戒ヲ加フルノ要アルハ

第一 地方債ノ起債ハ國債ノ起債ニ比シテ濫用ノ弊害大ナルコト

第二 地方財政ハ國家財政ニ比シテ其基礎薄弱ナルコト

ノ二點ニ職由スルモノナリ換言スレハ國債ハ其事體ノ比較的的重大ニシテ國富ヲ舉ケテ擔保ト爲シ中央政府ノ慎重ナル措置ト國民全體ノ周密ナル監督ニ依ルヲ以テ比較的濫用ノ弊害尠キノミナラス縱令多少ノ濫用ニ因リ財政上ノ困難ヲ來スコトアランモ國家其モノノ信用ハ國庫ノ總額ト相待チテ財政ノ紊亂破綻ヲ來スコト尠カルヘキモ地方債ハ地方團體ノ信用ト一地方ノ富ヲ基礎ト爲シ一地方ノ經費ヲ支辨スヘキモノナルヲ以テ濫用ノ弊害比較的多クシテ而モ財政上ノ紊亂破綻ヲ來スコト尠カラサルヘシト云フニ在リ

地方團體ノ性質ハ大體ニ於テ國家ト會社ト中間ニ位スルコトヲ知ラハ地方債カ大體ニ於テ國債ト社債ト中間ニ位スヘキコト又明カニシテ自ラ本問題ヲ解釋スルニ足レリ今便宜ノ爲メ地方債ト國債ト相異ナレル重ナル點ヲ列舉シ地



方債ノ増加ハ國債ノ増加ト同一ノ見解ヲ以テ解釋スヘカラサル所以ヲ明カニ
スヘシ

公債ノ種類	國	地
起債ノ主體	國家	公共團體
債權者	國民全體(時ニ外國人)	地方一部ノ國民ニ限ルヲ原則トス
起債ノ地域	全國全般(時ニ外國)	一地方ニ限ルヲ原則トス
公債ノ種類	非常公債及ヒ財政上ノ平常公債ヲ原則トス	經濟上ノ平常公債ヲ原則トス
公債ノ體様	起債額多ク期間ハ長期ニシテ比較的 低利ナルヲ原則トス	起債額少ナク期間ハ短期ニシテ比較 的高利ナルヲ原則トス
起債ノ方法	一般募集ヲ原則トス	借入ヲ原則トシ募集ノ場合ニハ限地 募集ヲ原則トス
公債ノ管理	借換ヲ爲スヲ原則トス	借換ヲ爲ササルヲ原則トス
公債ノ償還	償還期限不定期ニシテ且ツ期間長ク 償還基金法ニ依ラサルヲ原則トス	償還期限定期ニシテ且ツ期間短ク償 還基金法ニ依ルヲ原則トス

地方債ノ國債ト其趣ヲ異ニスルコト上表示ス所ノ如シ而シテ今ヤ地方債ハ年
ヲ追フテ遞増シ停止スル所ヲ知ラス固ヨリ發達ノ初期ニ屬スルヲ以テ未タ此
カ弊害著シキヲ見ルコトナク殊ニ地方制度ノ設備日猶ハ淺ク地方財政ノ頗ル
幼稚ナル我邦ノ如キニ在リテハ寧ロ多少ノ獎勵ヲ加フルノ要アルカ如キモ東
西ヲ通シ地方債全體ノ現時ノ趨勢ヲ以テ將來ヲ忖度スレハ之カ研究ヲ試ムコ
ト蓋シ今日ノ急務ナリト謂フヘシ

第二款 地方債増加ノ趨勢

地方債ハ最近五十年間ニ於テ著ク長足ノ進歩ヲ來セルコトハ前款ニ於テ一
言セル所ナリ今多クノ著書ニ於テ例示セル統計及ヒ我邦ニ於ケル地方債ノ概
況ヲ摘載シテ其増加ノ趨勢ヲ示セハ左ノ如ク
英國土及ヒ威西ノ地方債ハ一千八百七十五年ニ於テハ僅ニ九千二百萬磅ニ過
キサリシモ一千八百八十年ニハ一億四千四百萬磅ニ上リ一千八百八十八年ニ
ハ一億九千二百萬磅ニ遞増シ平均一箇年八百萬磅ノ割合ヲ以テ増加シタリ蘇



格闘及ヒ愛蘭土ハ文化發達ノ度比較的の低ク都市ノ數少ク且ツ小ナルカ爲ノ英
 蘭土及ヒ威西ニ比シテ遙ニ下レルモ猶ホ四千萬磅以上ニ達セリ
 佛蘭西ニ於テモ第二帝國ノ設立以前ハ諸縣ノ地方債ハ全クナカリシモ那破翁
 三世即位以降地方債ハ非常ノ速度ヲ以テ増加シ巴里市ヲ除キテ一千八百六十
 二年ニハ僅ニ千三百六十萬磅ニ過キサリシモ一千八百六十九年ニハ二千三百
 萬磅ニ上リ一千八百七十八年ニハ三千三十萬磅ニ遞増シタリ
 伊太利地方團體ノ財政ノ如キハ其富ノ程度ニ比シテ既ニ地方債過多ノ弊害ニ
 陷レルモノニシテ一千八百八十五年ニハ總額三千五百三十萬磅ニ上リ所在破
 綻ニ瀕セル自治團體夥カラスニフロレンスニチーブルスノ諸市ノ如キハ債權者
 ト協議ノ結果市債ノ契約條件ヲ變更シ漸ク財政ノ破綻ヲ免ルルモノノ如シ
 北米合衆國ニ於テハ一千八百四十年代ニ於テミスシッピイ外各州ニ於テ負債
 ノ強制取消利子ノ引下支拂停止ヲ爲セシコトアルハ前ニ一言セル所ナリ一千
 八百六十年ニ於テハ各種ノ地方債ヲ合スルモ一億弗ヲ超エナリシモ一千八百
 七十年ニ至リテハ五億一千五百萬弗ニ上リ一千八百八十年ニハ八億二千二百

十萬弗ニ遞増シタリ

我邦ニ於ケル地方債ハ府縣郡制市制町村制東京市區改正條例水利組合條例
 並ニ明治二十三年法律第三號等ニ依ルモノニシテ最近十年間ニ於テ著シキ進
 歩ヲ見ルニ足レリ今明治二十七年以降ノ地方債未償還高ヲ示セハ次ノ如シ

明治二十七年	一千六萬二千九百十四圓
明治二十八年	一千二十三萬一千八百一十一圓
明治二十九年	一千九十一萬六千七百九十一圓
明治三十年	二千四百十五萬三千四百十二圓
明治三十一年	二千六百一十一萬二千五百四十四圓

第三款 地方債増加ノ原由

第一項 緒論

地方債ノ増加ニハ一千八百七十年後巴里市ノ普佛戰爭ノ際ニ於ケル破損修理
 ノ爲メ起債セルカ如キ一千八百四十五年後北米合衆國ノ地方自治團體ノ分權

ノ革新ニ因ル起債ノ如キ時ト處ニ依リ特種ノ原因ニ基クモノナキヲ保セザレトモ大體ニ於テ地方債増加ノ原由ハ又同時ニ國債増加ノ原由ト相一致スヘキハ言フ埃タサル所ニシテ是レ本編第一章ニ於テ縷述セル所ナリ

地方債増加ノ原由ニシテ地方債ノ特色トシテ看ルヘキモノハ又岐レテ二者ニ大別スルコトヲ得ヘシ一ハ地方ニ於ケル支出ノ増加ニシテ一ハ地方ニ於ケル支出ノ増加ニ對スル地方債ノ必要ナリ予ハ前者ヲ稱シテ地方ニ於ケル起債ノ必要ト云ヒ後者ヲ稱シテ地方ニ於ケル地方債起債ノ必要ト云フ

地方ニ於ケル債務發生ノ必要トハ其債務ノ國債ナルト地方債ナルトニ論ナク其募集ニ依ルト借入ニ依ルトヲ問ハス地方ニ於ケル支出遞増ニ伴フ起債ノ必要ヲ指スモノニシテ再分シテ甲都市ノ膨脹乙社會政策主義ノ二ト爲ス

地方ニ於ケル地方債起債ノ必要トハ地方ニ於ケル起債力國債ニ依ラスシテ地方債ニ依ルヘキ所以ヲ指スモノニシテ再分シテ甲地方分權ノ伸張中央財政ノ膨脹乙代議政體ノ組織限地的公債ノ二ト爲ス

第二項 都市ノ膨脹

較近都市ノ人口ハ非常ナル速度ヲ以テ増殖シ十九世紀ノ劈頭ニ於テ九十六萬ヲ超エサリシ倫敦市ノ人口ハ四百萬ヲ超過スルニ至リ五十六萬ニ足ラサリシ巴里市ノ人口ハ三百萬ヲ超過スルニ至リ二萬以上ノ人口ヲ有スル都市四箇所ニ過キサリシ北米合衆國ハ一千八百八十年ニハ百二箇所ニ増加シ一千八百八十一年ニハ英國ニテハ三千以上ノ都市ノ人口ハ總人口ノ六割六分強ニ達シ二萬以上ノ都市ノ人口ハ獨逸ニテハ總人口ノ一割六分合衆國ニテハ一割八分ノ割合ヲ占ムルニ至レリ此ノ如ク都市ノ人口ノ増加スルハ單ニ人口ノ絕對ニ増加スルニ原由スルニ止マラスシテ地方人民ヲ都市ニ吸收スルモノナリ換言スレハ小都市ノ發達ヲ中止シテ大都市ノ膨脹ヲ來スモノナリトス

都市ノ膨脹カニ様ノ方面ニ依リテ増加スルカ如ク都市ノ膨脹ニ伴フ都市ノ經費モ亦ニ様ノ方面ニ依リテ増加スルモノナリ換言スレハ人口増加ノ比率ニ伴フ増加ノ外人口ノ増加ニ依リテ特種ノ經費ヲ増加スルモノナリ即チ水道下水港



澁道路堤防排水瓦斯電燈公園病院其他恤救衛生ニ關スル設備學校圖書館美術館其他教育ニ關スル設備市場埋葬地鐵道軌道等ノ施設ノ重ナルモノハ多ク都市ノ人口カ一定ノ程度以上ニ膨脹スルニ伴ヒテ發生スルモノナリ今一千八百八十年ニ於ケル北米合衆國ノ地方債八億二千二百十萬弗ノ負擔ノ分配ヲ見ルニ左ノ如シ

學事組合

一七五〇〇〇〇〇 弗

村債

三一〇〇〇〇〇〇

人口七千五百人以下ノ都市ノ市債

五五八〇〇〇〇〇

郡債

六四〇〇〇〇〇〇

人口七千五百人以上ノ都市ノ市債

六四三、八〇〇、〇〇〇

即チ人口七千五百人以上ノ都市ノ市債ハ地方債總額八割以上ヲ占ムルヲ見ルヘシ
尙ホ上述ノ所論ニ對スル實例ヲ示セハ倫敦市ノ市債ハ四十萬磅ヲ超エ大不列

顛ノ地方債總額ノ六分ノ一ニ當リ殆ト蘇格蘭土及ヒ愛蘭土ノ地方債ノ總額ニ相伯仲セリ又巴里市ノ市債ハ九千八百萬磅ヲ超エ地方債總額ノ七割ヲ占ム我邦ニ於テモ明治三十一年度末東京府ノ地方債ハ五百十六萬圓大坂府ノ地方債ハ三百四十七萬餘圓ニシテ二者ヲ合スレハ地方債總額ノ三割五分ヲ占ム此ノ如ク都市ノ膨脹ハ絶對相對ニ著シク經費ノ増加ヲ來スヲ以テ地方ニ於ケル起債ハ延テ著シク之カ必要ノ度ヲ進ムルニ足レリ

第三項 社會政策主義

瓦斯電燈水道鐵道軌道ノ諸事業ハ之ヲ私人ノ經營ニ放任スヘキカ國家又ハ公共團體ノ手裡ニ收ムヘキカハ既ニ學說實際ニ於テ偏ク研究セララル所ニシテ又予輩ハ前ニ官業論ノ下ニ於テ縷述セル所ナリ本節ニ於テハ地方ニ於ケル起債ノ必要大ナルヘカラサル原由ヲ叙述スルニ非スシテ何故ニ事實起債ノ必要大ナルヤヲ叙述スルヲ要ト爲スヲ以テ其都市ノ事業ト爲スノ良否ハ又茲ニ問フ所ニ非サルナリ故ニ予ハ社會政策主義ノ興隆ハ新ニ從來私人ノ經營ニ放任ス

ハキ事業ヲ都市ノ公共團體ノ事業ト爲シ從來私人ノ經營ニ係レル事業ヲ都市ノ公共團體ニ買上ケ爲メニ經常臨時共ニ著シク公共團體ノ財政ノ膨脹ヲ來シ延テ之カ設備買上ニ伴フ臨時巨額ノ支出ヲ要スルコト多キヲ加フルニ至リシコトヲ一言スルニ止ムヘシ

各國ノ實例ニ徴スルモ水道瓦斯電話電燈鐵道軌道ノ類ハ何レノ時ト處ヲ問ハヌ同時ニ同一ノ都市ニ於テ並立スルコトナシ是レ自然的獨占事業ノ特色ニシテ又公設主義ノ唱道セラルル所以ナリ固ヨリ或程度マテハ同一ノ都市ニ於テ同時ニ並立スルコトナキヲ保セサルモ互ニ同一ノ利害關係ノ下ニ於テ競争スルニ非スシテ互ニ地域ヲ限リテ其軫域ノ中ニ分立スルニ過キス競争ハ必ス二者ノ聯合ヲ來スニ非スシハ必ス一方ノ敗滅ヲ來スモノナレハナリ

北米合衆國ニ於テ水道ヲ有スル都會ハ一千四百〇三箇所ニシテ内並立制ヲ執レルモノ僅ニ七箇所ニ過キス

英國ハ一千八百八十四年度ニ於テ地方自治體中半數ハ公設ノ水道ヲ有シ百二十五箇ノ自治體ハ瓦斯事業ヲ營ミ百五十五箇ノ市街鐵道中二十七箇所ハ

地方自治體ニ所屬ス

獨逸ニ於テハ水道ハ總テ公設ニ係リ瓦斯事業ハ一千八百八十七年ニ於テ四百八十二箇中二百二十ハ市ノ公設ニ屬セリ

第四項 地方分權ノ伸張(中央財政ノ膨脹)

自治制度ノ發達ニ伴ヒ行政上分權ノ步武ヲ進ムルハ近時歐米列國ニ於ケル大勢ニシテ或ハ地方機關ノ設定若クハ組織ノ變更ニ依リ或ハ地方機關ノ中央機關ニ對スル關係ノ變更ニ依リ或ハ地方機關ト中央機關ト分配ニ依リ漸次地方ノ行政權ノ範圍伸張セラレ延テ地方團體ノ經費ハ著シク遞増セラルルニ至レリ隨テ國家自體カ之カ財政ノ衝ニ當ルコト事實不能ナルノミナラス既ニ自治ヲ認メ分權ノ步武ヲ進ムル以上ハ之ニ對シテ又或程度マテ財務行政上ノ自治ヲ認ムルコトナクハ地方自治其モノノ完全ナル發達ヲ期シ難キハ言フ埃タサルハ既ニ地方稅ノ下ニ於テ叙述セル所ノ如シ

近時國家財政ノ膨脹ハ益々地方財政ニ對スル國庫ノ負擔ヲ減セントスルニ際シ



財政上ノ地方分權ヲ認ムルハ已ムヲ得サル條件ニシテ又自治ノ圓滿ナル發達ヲ來ス爲メ必要ナルコトハ上述スル所ノ如シ是レ各國共ニ公共團體ニ對シ起債ノ權限ヲ認メタル理由ニシテ府縣制第一一七條郡制九五條市制第一〇六條町村制第一〇六條參照近時其權限ハ比較的伸張セラレタル傾向ナシト爲ササルナリ

第五項 代議政體ノ組織限地的公債

地方財政ニ對シ國庫ノ補助ヲ與フルコト能ハサルハ前項ニ叙述セシカ如ク單ニ財政ノ膨脹ノミニ止マラス又其公債ノ性質カ限地的ナルニ原由スルコト大ナリトス殊ニ地方自治制ト相關聯シテ發達スル代議政體ノ組織ニ於テハ國庫カ全國均一ノ割合ヲ以テ地方財政ヲ補助スルハ敢テ難シト爲ササルモ特ニ一地方ノ爲メニ補助ヲ與ヘントスルハ地方的感情ノ結果容易ニ奏效ヲ期シ難キノミナラス一度國庫補助ノ慣例ヲ作ルトキハ所在各地方ノ議員ノ朋黨比周ト爲リ歲計上冗費ヲ増加シ爲メニ來スヘキ害毒ノ大ナルハ又敢テ豫想スルニ難カラサルヘキナリ

然レトモ此問題ハ事實トシテ國庫經濟ト地方經濟トノ軫域ヲ立ツルニ困難ナル場合尠シト爲サス極言スレハ苟モ國家又ハ公共團體ノ行動ハ少クトモ法理上形式上公共的ノ性質ヲ有シ直接間接ニ國家全般ニ對シ利害關係ヲ有セサルハナシ治水築港ノ工事ノ如キ衛生交通ノ事業ノ如キ其利害ハ直接ニ數地方ニ亘ルモノアリ或ハ電燈瓦斯ノ事業ノ如キ其直接ノ利害關係ハ一都市ニ僻在スルコトアリ皆程度ノ論ニシテ經費ノ種類ニ依リ直チニ斷定シ難キモ其事業ノ大小ト其地方及ヒ中央財政ノ狀況ニ依リ國庫ヨリ一部ノ補助ヲ仰クコトアルヘキハ言ヲ埃タサル所ナリ

第二節 地方債ノ起債及ヒ償還

第一款 地方債ノ起債

地方債ノ起債ハ借入ヲ原則トシ募集ヲ例外トスルコト正ニ國債ト相反セリ其原由多アルヘキモ要スルニ左ノ三點ニ歸著スヘシ

0371

一 地方團體ノ信用ハ政府ノ信用ニ比シテ比較的薄弱ナルコト

二 實質ニ於テハ限地發行ト爲ルヲ以テ他ノ地方ニ在ル者ハ應募償還利子ノ受取等總テノ手續ニ不便ナルコト

三 發行額少キカ故ニ融通ノ範圍狹ク授受賣買ノ便利少キコト

現ニ我國ノ地方債ニ徴スルモ明治三十一年度ニ於テ三府四十一縣ノ地方債中公債募集ノ方法ニ依リ證書ノ發行ヲ爲セシモノハ三府十一縣ニ過キスシテ他ハ多ク普通ノ借入金ニ屬セリ

上述セル地方債ノ不便ヲ避クル方法トシテ政府自ラ代リテ公債ノ募集ヲ爲スコトアリ英國ノ地方政務院 (Local Government Board) 其一例ニシテ同院ハ一方ニハ地方自治體ノ公債發行ニ對シ其資金ノ用途募集償還ノ手續ニ付キ認可權ヲ留保スルト共ニ一方ニハ國會ニ稟議シテ地方自治體ニ貸與スルカ爲メ一定ノ金額マテ自ラ公債ヲ發行スルノ協賛ヲ得ルノ制アルヲ以テ危險ノ負擔ナクシテ自ラ公債ヲ發行シ一ハ地方財政ノ負擔ヲ輕減シ一ハ中央政府監督ノ實ヲ明カニスルノ便アリトス

地方債借入ノ方法ニハ私人ヨリ普通ノ方法ニ依リテ借入ルルコトアリ然レトモ國庫カ補助ノ意味ヲ以テ貸主ト爲リ又ハ借入ノ便宜ヲ與フルコト又尠シト爲ナス或ハ國庫ハ一定ノ事業ノ爲メニ特ニ金庫ヲ設置シ地方自治體ヲシテ其事業ニ要スル資金ヲ該金庫ヨリ借用セシムル制アリ

佛蘭西ハ一千八百六十八年道路修築ノ爲メ金庫ヲ設置シ一千八百七十八年新學制ノ施行ニ依リ學校建築ノ爲メ金庫ヲ設立シ共ニ公債ノ利子ヨリ低利ヲ以テシ供給資金缺乏ノトキハ爲メニ自ラ公債ヲ發行シテ此カ供給ニ充ツルヲ例ト爲シタリ

或ハ利殖スヘキ基金ヲ有スル場合ニ便宜其一方法トシテ地方自治體ニ之ヲ貸付クルコトアリ

獨逸ニ於テハ普佛戰爭ニ由リテ得タル償金ノ一部ヲ以テ廢兵給助基金ト爲シ該基金ハ便宜利殖ノ爲メ自治體ニ貸與セリ

或ハ土地抵當銀行農業銀行等ヲ設立又ハ監督シ之ニ多少ノ特權即チ主トシテ證券ノ發行權ヲ付與シテ地方自治體ニ長期ノ貸附ヲ爲サシメ事實銀行ヲシテ

地方自治體ニ代リテ公債ノ發行ヲ爲サシムルコトアリ其例一ニシテ止マラスレ
 歐洲大陸ニ於テハ晩近此種類ノ銀行盛ニ勃興シ地方團體ノ依リテ利便ヲ享
 クルモノ亦尠シト爲ナス我邦ニ於テモ近年勸業銀行興業銀行拓殖銀行等ノ
 設立アリ殊ニ農工銀行ハ明治三十一年ノ開始ニ係リ日尙ホ淺シト雖モ同年
 末ニハ設立ノ數四十一箇所ニ上リ貸付ニハ三十年以内ノ年賦償還貸付ノ制
 ト五年以内ノ定期償還貸付ノ二種ヲ設ケ年賦償還貸付金總額三百六十八萬
 餘圓中公共團體ニ貸附ケン分二十三萬餘圓定期償還貸付金總額五十三萬餘
 圓中公共團體ニ貸附ケン分十一萬ニ上レリ

第二款 地方債ノ償還

地方債ハ經濟上ノ平常公債ニ限ラレ非常公債又ハ財政上ノ平常公債ハ地方債
 トシテ起債スヘキモノニ非サルコトハ上述セル理論ニ徴スルモ自ラ明カニシ
 テ又事實ノ立證スル所ナリ既ニ經濟上ノ平常公債ニシテ而モ國債ニ比シテ巨額
 的少額ナルヘキモノタル以上ハ國債ノ如キ資金ノ需要急促ニシテ且ツ巨額

ナルヘキノ理ナク延テ地方團體ハ豫メ其起業ノ設備ニ應シテ之カ起債償還ニ
 關スル手續ヲ定ムルコトヲ得ヘク又此カ決定ハ地方團體ノ信用扶持ノ爲メ必
 要ナル條件タリ

地方債ハ猶ホ社債ノ如シ地方團體ノ信用ヲ以テ地方債ヲ起ス必スヤ其起債ト
 共ニ増稅財產收入起業利益等ニ依ル償還ノ途ヲ定メ此カ整理ヲ急ニセスンハ
 非ス是レ地方團體ノ生命及ヒ產業上ノ變遷ハ國家ニ比シテ短期ニシテ且ツ常
 ナラサルノミナラス地方團體ノ財源ハ國家ニ比シテ著シク簡單ニ且ツ狹少ナ
 レハナリ故ニ地方債ニハ無期ノ公債ハ理論上認ムヘカラサルノミナラス事實
 亦起債ノ能力ヲ有スルコトナシ當ニ無期ノ公債ノミナラス有期ノ公債ト雖モ
 其定額支拂公債ナルト隨時支拂公債ナルトヲ問ハス短キニ失シテ一部ノ地方
 人民ニ對シ著シク負擔ヲ増加スルノ愚ヲ學フヘカラサルト共ニ又長キニ失シ
 テ負擔ヲ將來ニ貽シ團體自體ノ起債力ヲ減失セシムヘカラス固ヨリ程度ノ論
 ニシテ一律ヲ以テ斷定シ難キモ各國皆大體ニ於テ此償還期間ノ最長限度ヲ定
 メナルモノ少シ英國ノ地方債條例ニ於テハ二十箇年ヲ極度トシ佛國ニ於テハ



十二箇年トシ我邦ノ府縣郡制市町村制ハ共ニ据置期限ヲ三箇年以内トシ償還期間ハ三十箇年ヲ最長限度ト爲セリ

上述ノ如ク地方債ノ性質ハ國債ト其趣ヲ異ニスルコト多キヲ以テ所謂償還某金法ノ如キモ地方債ニ於テハ其弊害ヲ見ルコト著シク尠キノミナラス却テ地方團體ノ信用ヲ維持シ償還ノ確實ヲ保障スル爲メ多少ノ利便ト爲ス所尠シト爲サス是レ比較的信用薄弱ナル團體カ少額且ツ少數ニシテ短期ナル債務ヲ負ヘル場合ニ於ケル自然ノ數ナリトス隨テ公債ノ管理主トシテ借換ノ如キハ事實ニ於テ行ハルルコトナク又理論上行ハルヘキモノニ非ス是レ平常無事ノ際ニ起債セラレタル公債カ短期間ニ於テ著シク利子ノ高低ヲ見ルコト有ルヘカヲサレハナリ勿論地方團體ハ其起債ノ利子國債ノ利子ニ比シテ多少高カルヘキモ我邦ノ府縣債ノ利率ハ五分乃至八分ニシテ市町村債ノ利率ハ四分乃至一割二分ナリ是レ地方團體ノ信用ノ厚薄ニ基因スルモノニシテ時ノ經過ニ依リテ左右セラレルモノニ非ス隨テ若シ單純ナル機關カ地方債ニ對シ複雑ナル借換ヲ行ヒ之カ成效ヲ告クレコトアレハ是レ該地方債ハ著シク拙劣ナル過誤ニ

第三節 地方債ノ監督

第一款 地方債監督ノ必要

因リテ不當ニ不利益ナル條件ヲ以テ發行セラレシコトヲ反證スルモノニシテ蓋シ此ノ如キ失態ハ事實トシテ未タ發生セルコト非サルヘシ

地方債ノ増加ト之ニ伴フ濫用ノ弊害ハ本章第一節第一款ニ於テ既ニ其大要ヲ叙述シタリ我邦ノ如キハ地方制度ノ幼稚ナル未タ濫用ノ弊害ヲ見ルニ至ラサルモ歐米各國ニ於テハ伊太利ノ都市ノ如キ既ニ負擔重キニ失シ所在債權者ト協定シテ契約ノ條件ヲ變更シ以テ財政ノ破綻ヲ防遏スルモノ多ク殊ニ北米合衆國ニ至リテハ地方債濫用ノ弊害著シク全アダムス氏ノ示ス所ニ依レハ一千八百八十五年前後ノ統計ニ依レハ紐育費府ビッポルク、シンシナチーノ各市ハ市民一人ノ市債分頭額九十弗ヲ超ニニ、ジエルシーニエリサベスノ諸市ハ人口二萬八千ニ過キササレモ分頭額ハ百九十五弗ニ上リ、パス市ノ如キハ人口八千ノ小市ニシテ二百十六弗以上ノ分頭額ヲ負擔シタリ此ノ如ク地方債ノ濫用著シ

キヲ加フルニ至リテハ勢ヒ居民ノ移住ヲ促シ資本ノ流出ヲ來シ所在地ノ經濟上ノ發達ヲ阻礙スルコト一ニシテ足ラス而シテ此等弊害ノ原由ヲ見ルニ主トシテ地方債ヲ起セシ事業其モノノ失敗ニ非サレハ起業者及ヒ地方機關ノ私曲ニ基因セサルコト稀ナリ

第一 地方債ヲ起セシ事業其モノノ失敗ハ一千八百三十年ヨリ一千八百六十年ニ至ル合衆國各州ノ起業者勃興ノ時代ニ伴ヒシモノニシテ當時各州到ル所或ハ銀行ヲ設立シ或ハ運河鐵道築港ノ事業ニ從事シ而モ無經驗者流ノ無責任ナル企業熱ハ殆ト其大部ヲ擧ケテ失敗ニ了ラシメ唯巨額ノ州債ヲ貽シテ所在人民ニ苛重ノ負擔ヲ荷ハシムルニ至レリ彼ノ「ミスシツビ」其他各州ニ於ケル公債ノ取消利子ノ強制引下支拂停止ノ不法行為ヲ敢テセシハ又此際ニシテ爾後各州ノ憲法ニシテ土木事業ノ爲メ州債ヲ起スコトヲ禁止セル明文ヲ掲ケタルモノ尠シト爲サス

第二 企業家及ヒ地方機關ノ私曲ハ鐵道事業ニ付テ最モ多ク行ハレタリ蓋シ同國ノ地方團體ハ私設鐵道會社ニ補助金ヲ與フルコトヲ得ルヲ以テ會社ハ線

路ノ設定ニ際シ治道ノ地方團體ヲ競争セシメテ多額ノ補助金ヲ支出セシムルコトニ努メ當時鐵道熱ノ昂騰セル際地方團體ニシテ補助金支出ノ爲メ地方債ヲ起シ之カ負擔ニ苦シマサルモノ殆ト稀ナリシモノノ如シ其他各種ノ事業經營ニ際シ公益ヲ名トシテ地方機關ト結托シテ不當ノ補助金ヲ支出セシメ或ハ土地所有權ノ轉賣工事ノ請負其他各種ノ方法ニ於テ不正ノ金額ヲ支出セシメ地方人民ノ負擔ヲ大ナラシメシコト尠シト爲サス此等ノ徒黨ハ「Ring Ring」ト稱セラレ其罪惡ノ大ナルハ既ニ世人ノ周知スル所ナリ

第二款 地方債監督ノ方法

地方債ノ監督ハ又其寬嚴宜キヲ得スンハ非ス是レ地方稅ノ監督ノ下ニ於テセラル所ニシテ又茲ニ叙述スルノ要ヲ見ルコトナキヲ以テ唯地方債ノ監督ハ地方稅ノ監督ニ比シ其方法嚴密ニ巨ルモ比較的弊害少キモノナルコトヲ一言スルニ止メ直チニ歐米各國ノ立法例ニ徴シ其監督方法ニ付キ叙述スル所アルヘシニ歐米各國ニ於テハ何レノ國ニ通スルモ監督官廳ノ認可ヲ要件トセサルモノ少

ノ普國ニ於テハ縣參事會之ヲ監督シ英國ニ於テハ地方政務院之ヲ監督ス我邦ニ於テハ内務大臣及ヒ大藏大臣之ヲ監督ス府縣制第一三四條郡制第一一五條市制第一一二條町村制第一二六條參照

監督官廳ノ認可ヲ條件トスル外尙ホ法規ヲ以テ地方債ノ發行ニ付キ各國皆多少ノ制限ヲ設ケサルモノナシ今其制限ノ重ナルモノヲ列舉スレハ次ノ如シ

第一 公債募集ノ議案ノ議決方法ニ對スル制限

或ハ三分ノ二以上ノ賛成ヲ條件ト爲スモノアリ或ハ一般選舉人ニ投票セシメテ四分ノ三以上ノ賛成ヲ條件ト爲スモノアリ(ランチー州或ハ同數ノ多額納稅者ヲ召集シテ等シク之カ議決ニ加ハラシムルモノアリ(佛國一千八百七十一年縣制第四二條)

第二 起債ノ目的ニ對スル制限

或ハ私設會社ニ補助金ヲ與ヘ若クハ利子ノ補給ヲ爲シ若クハ其株主ト爲ルコトヲ禁スルモノアリ或ハ鐵道運河其他ノ營利ノ事業ノ企業ヲ禁スルモノアリ(合衆國或ハ公債ノ償還天災事變等ニ基ク必要ナル支出團體永久ノ利益

ト爲ルヘキ支出等ヲ以テ起債ノ目的ノ條件ト爲シ府縣制第一一七條郡制第九五條尙ホ別ニ地方人民ノ負擔重キニ失スルカ爲メ通常ノ歲入増加ニ依ルコト能ハサルコトヲ附帶ノ條件ト爲スモノアリ(市制第一〇六條町村制第一〇六條)

第三 公債發行額ニ對スル制限

或ハ發行額ヲ百萬弗ニ限定セルモノアリ(紐育州憲法第七條第一〇項或ハ一箇年間ニ發行シ得ヘキ總額ヲ州内ニ存スル財産評價額ノ一千分ノ四分ノ一以下トシ公債ノ總額ハ一千分ノ四分ノ三以内ニ限定セルモノアリ(コララド州憲法第九條第三項)

第四 公債證券ノ發行ニ對スル制限

監督官廳ノ特定セル用紙又ハ特定以外ノ用紙ニシテ監督官廳ノ官印ヲ押捺セルモノナルコトヲ條件ト爲スモノアリ(英國地方債條例補則第五章)

第五 償還方法ニ對スル制限

或ハ償還期間ノ最高限度ヲ定ムルモノアリ或ハ据置期間ノ最高限度ヲ併セ

定ムルモノアリ(英普米佛日)或ハ年ノ償還歩ヲ一定スヘキコトヲ條件ト爲
 スモノアリ(市制第一〇六條町村制第一〇六條)
 以上ハ地方債ノ發行ニ對スル制限ノ重ナルモノナリ然レトモ等シク公共團體
 ニシテ府縣アリ市町村アリ水利組合學校組合アリ此等ノ團體又各國ニ通シテ
 其大小強弱一ナルコトナシ唯要ハ其歳入ノ財源豐饒ニシテ財務ノ衝ニ當ル者
 其人ヲ得ハ地方債ニ依リテ所在地方ノ國民民福ヲ増進シ得ヘキノミナラス能
 ク自治制度ノ本旨ヲ到達シ得ヘキコト又言ヲ俟タス我邦ノ地方團體ノ如ク一
 萬三千餘ノ團體中公共財產ナキモノ五千ヲ超エ地方團體ノ財產總計一千五百
 萬圓内外ニ止マリ一團體ノ財產平均二千圓ニ上ラサル無資力ノ狀態ニ在リテ
 ハ未タ濫用ノ弊害ヲ生スルニ足ルヘキ地位ニスラ達セサルモノニシテ地方財
 政發達ノ前途猶ホ杳トシテ悠遠ナリト謂フヘキノミ

財政學終

○生徒募集廣告

本年九月ヨリ新學期ヲ開始ス入學志望者此際其手續ヲ履マルヘシ

入學試驗 (甲種) 九月七日午前八時ヨリ

編入試驗 (二年級) 九月二十日午前八時ヨリ

授業開始 九月十一日ヨリ

○規則書入用ノ向ハ郵券(二錢)ヲ送ラルヘシ

明治三十四年八月

司法部指定
文部省認定

和佛法律學校

講習科規則摘要

- 一 乙種講習科ハ講義録ニ依リテ獨習ヲ爲スモノトス
- 一 講習期ハ二月ニ始リ十一月ニ終ル
- 一 講義録ハ各講師擔任ノ部分ヲ一括シテ配布ス
- 一 講習料ハ金拾貳圓トス但三十四年度ニ限り左ノ一部又ハ二部ヲ講習スルコトヲ得
 - 第一部 民事訴訟法 金六圓
 - 第二部 民法、經濟學 金四圓
 - 第三部 刑法、刑事訴訟法、憲法、行政法、國際公法、國際私法 金五圓
- 右講習料ハ何レモ一个月分以上ヲ分納スルコトヲ得(但入學ノ際ニハ成ルヘク)
 - 一 講習生ハ講義録ニ掲載セル事項ニ付キ質問ヲ爲スコトヲ得但一間毎ニ別紙ニ認メ且一間毎ニ一音信料ヲ添フルコトヲ要ス
 - 一 講習料ハ和佛法律學校會計課宛ニテ送付スヘシ但郵券代用ハ一割増ノ事

明治二十二年十二月九日內務省許可

明治三十四年八月十三日印刷
明治三十四年八月十六日發行

編輯者 小田幹治郎
東京市芝區四谷仲町三丁目八番地

印刷者 金子鐵五郎
東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所
東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

發行所 司法省
指 定 和佛法律學校
東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
(電話番町百七十四番)